

日野市

平山遺跡

— 一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査 その2 —

第1分冊



2024・3

東京都埋蔵文化財センター

日野市平山遺跡の調査

平山遺跡（日野市遺跡№.22）は、日野市南西部の東京都日野市豊田二・三丁目、東平山一～三丁目、西平山一・三・四丁目に所在する、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地する遺跡です（写真1）。遺跡の西側を北西から南東に向かって流れてきた浅川は、遺跡の南側で直角に向きを変えて北東に向かい、石田付近で多摩川と合流します。遺跡の北側は日野台地、浅川の対岸には多摩丘陵が広がっています。これらの地域には多くの遺跡が分布しています。本遺跡も、縄文時代から古代の土器が出土することで早くから知られており、昭和47年以降、これまで数多くの調査が行われてきました。

今回の調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施工する一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴うもので、平成27・28年度調査地点『平山遺跡その1』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集）の南西に続く地点です。調査面積は6,913㎡、調査期間は、平成29年3月～平成31年3月と令和3年7月～9月です。

【発掘調査の成果】

今回の調査地点は、遺跡東部の段丘上の平坦面で、調査の結果、旧石器時代、縄文時代、弥生時代前期、弥生時代終末期～古墳時代前期、古墳時代中期～後期、古代、中世、近世以降の遺構と遺物が発見されました。以下に、各時代の主な調査成果を紹介いたします。

旧石器時代

旧石器時代の遺構・遺物としては、遺物集中部1箇所が検出されました。黒曜石製の細石刃をはじめとする石器145点と礫150点、そして多数の炭化物から構成されています。炭化物の一部を年



写真1 航空写真（北東から撮影）



写真2 旧石器時代の遺物集中部 (SBL1)



写真3 縄文時代の集石 (SS6)

代測定したところ、 $18,780 - 16,190^{14}\text{C yr BP}$ の測定年代が得られました。関東西部の細石刃石器群は約 $20,000 \text{ cal yr BP}$ に出現すると考えられており、武蔵野台地に位置する当遺跡周辺における細石刃の出現時期を示す貴重な資料といえます。また、細石刃に関しては、使用により破損した細石刃の廃棄と細石刃の補充がこの場所で行われ、それ以外の石器についても刃部の形成・再生が行われたと考えられ、この地で狩猟具や加工具の維持・管理を行っていたことが分かりました。

縄文時代

縄文時代の遺構は、竪穴状遺構1基、集石1基、礎集中1箇所の他、土坑やピットを検出していますが、数は多くありません。中期のものと思われる竪穴状遺構SI57は、廃絶後に近くで石器製作が行われたようで、その際に発生したと思われる黒曜石の薄片が多数廃棄されていました。また、集石SS6から出土した炭化したクリ材を分析したところ、縄文時代中期前半に相当する年代のものであることが分かりました。

遺物は、調査区内の各所で縄文時代早期から後期の土器片や石器類が多数出土しました。このことから、調査区やその周辺において、遺構の見つかっていない時期においても、何らかの活動が行われていたことが分かりました。

弥生時代前期

今回の調査では、調査区南西部付近から、合計20点の弥生時代前期の土器片が出土しました。日野市域のみならず、武蔵野台地やその周辺においては、同時期の土器の出土例は少なく、同時期における人々の往来を示す資料として重要な発見です。

弥生時代終末期～古墳時代前期

今回の調査における主要な時代の1つで、竪穴建物跡17軒と竪穴状遺構2基、方形周溝墓1基等を検出しました。竪穴建物跡・竪穴状遺構は主に調査区の中央部付近から北東部にかけて重複せずに分布し、両遺構の希薄な南西部には方形周溝墓が1基確認されました。

竪穴建物跡は、平面の形は概ね隅丸長方形で、4基の主柱穴は持つものと持たないものがありますが、炬の位置(中心部よりやや奥)、出入り口部分に梯子穴を持つ、梯子穴の近くに貯蔵穴を持つ、貯蔵穴の周囲に土堤を有する、といった特徴は多くの建物跡に共通しています。壁溝を有さないという点も、共通した特徴です。また、貯蔵穴の近くでは「赤砂」と呼ばれるものも多く検出されました。

竪穴建物跡には規格性がありそうですが、そこから出土する遺物は、遺構毎に個性があります。例



写真4 古墳時代前期の竪穴建物跡 (SI56)



写真5 SI41 土器出土状況

例えば、SI38 では、北東壁際と南東壁際で土器が集中して出土しました。多くは破片の状態で出土しましたが、接合して復元したところ、写真7のような壺や甕・高坏になりました。また、SI39 では、小型壺が9点出土しましたが、建物跡の東隅に3点、西隅6点が纏まった状態で床面に置かれていました。SI41 は部分的な調査でしたが、東隅の赤砂堆積箇所の床面に遺物が集中していて、上から鉢、鉢、台付甕胴部が重なった状態で出土しました(写真5)。さらにその北側には、ほぼ完形の高坏や台付甕、壺2点が密集して置かれていました。

遺物は、壺や台付甕、高坏等の土器や、台石や石杵等の石製品、鉄製の鉄等が出土しました。特に、SI38 出土土器(写真7)とSI41 出土土器(写真8)は、良好な一括資料です。SI39 で出土した小型壺は、東隅の3点(写真9 前列)と西隅の6点(写真9 中列)で、製作技法がはっきりと異なります。



写真6 方形周溝墓 (SZ2)



写真 7 SI38 出土土器



写真 8 SI41 出土土器



写真 9 SI39 出土土器



写真 10 SI47 出土土器



写真 11 奈良時代の土師器・須恵器

SI47 出土土器（写真 10）には、東海地方の影響を受けた土器が多数含まれています。その他に、竪穴建物跡の炉や貯蔵穴から出土した炭化種実や、土器の表面に残る種実の圧痕、土器に残る炭化物の分析から、平山遺跡ではイネに加えて、アワやキビ等の雑穀類が非常に多く利用されていたことがわかりました。竪穴建物跡から出土した台石や石杵等の石製品も、雑穀利用に関連している可能性があります。

古墳時代中期～後期

古墳時代中期～後期の遺構は、円墳（SZ3）と、2 基の L 字状土壌のみです。出土遺物からすると中期に属すると考えられますが、小片で覆土の上層から出土しており、古墳の時期を示すものかどうかは断定できません。

古代

奈良時代から平安時代の竪穴建物跡が 21 軒検出されました。出土した遺物から帰属時期が明らかになったのは、奈良時代が 10 軒、平安時代が 9 軒です。調査区南西側に奈良時代、中央部に平安時代のものが比較的纏まっています。どちらの時代の竪穴建物跡もほとんどがカマドを備えており、中には造り替えて 2 基のカマドが確認された遺構もあります。平面形態は方形もしくは長方形で、SI53 を除き、明らかな主柱穴は確認されていません。壁溝は、多くの遺構で確認されました。



写真 12 平安時代の土師器・須恵器



写真 13 奈良時代の竪穴建物跡 (SI22)



写真 14 平安時代の竪穴建物跡 (SI30)

SI53は竪穴の外側に側柱を伴う竪穴建物跡ですが、その側柱が劣化したためか、住居内に柱を据え替える改築が行われたようです。

その他の遺構では、掘立柱建物跡、多数の土坑やピット等が検出されています。このうち土坑は、「円形土坑」という丸い土坑が多数確認されました。また、炭化材が纏まって出土した SK155 の周辺では、覆土に炭化材や炭化物粒子を含む土坑が纏まっている状況も確認されました。土坑の内外で、何らかの火を伴う行為が行われたものと思われます。

遺物は、竪穴建物跡を中心に、土師器や須恵器が多数出土しました。その他、紡錘車等の土製品、石製品、鉄銚や刀子といった金属製品も確認されています。写真 11 は奈良時代の竪穴建物跡、写真 12 は平安時代の竪穴建物跡から出土した土師器・須恵器のうち、代表的な土器を集めた写真です。また、須恵器の産地は、奈良時代では南多摩窯産や南比企窯産、東金子窯産が均衡しますが、平安時代になると東金子窯産が圧倒的に多くなる傾向があります。竪穴建物跡からは、墨書土器も多数出土しました。特に、「永」の文字が墨書された須恵器環が多く出土している他、「川口」、「八田」等の文字も確認されています。

中世

中世の遺構であることが明らかなのは、道路跡 SF3 と墓塚の可能性のある土坑 SK173 の 2 基のみです。平成 27・28 年度調査地点では、12 基の地下式坑が発見されたのと比べると、少ないと言えます。

平成 27・28 年度調査地点は段丘崖線付近から段丘平坦面にかけて位置しているのに対し、今回の地点は段丘上の平坦面



写真 15 側柱を有する竪穴建物跡 (SI53)



写真 16 SI53 から出土した鉄銚



写真 17 道路跡 (SF3)

に位置しています。こういった地形の違いから、遺構の分布状況が異なっているのかもしれませんが。

道路跡 SF3 は、断面逆台形に掘られた南北に延びる溝状の遺構です。長い間通行路として使用されていたものと思われる、溝が埋没していく過程で、踏み固められて硬化した面が3面以上確認されました。また、埋没途中で溝内の西寄りに側溝状の細い溝が掘られたことも確認されています。

近世以降

近世以降の遺構としては、おびたしい数の畝間溝や土坑群等、農業に関連すると考えられるものが確認されました。調査地点は、一部を除いて近現代まで畑として使われておりましたが、絵図との比較から、少なくとも明治時代初頭には農地として使用されていたことが分かります。また、遺構からは肥前産の陶磁器や青磁、瀬戸・美濃産陶器類、丹波産の播鉢、志戸呂産の灯明受、在地系の土師質土器等、17世紀後半から18世紀後半頃までの遺物が確認されていることが

から、遺構の時期もこの時代まで遡るかもしれません。

まとめ

以上のように、平成27・28年度調査地点と同様、弥生時代終末期～古墳時代前期や古代の集落に伴う遺構が数多く発見されたのに加えて、今回新たに旧石器時代の遺構や遺物が確認されましたが、その一方で中世の遺構が少ないといった違いも明らかになりました。日野バイパス建設事業に伴う発掘調査・整理作業は継続して進行中です。今後の更なる調査成果から、平山遺跡の新たな一面を明らかにしていきたいと思います。



写真 18 近世以降の農事関連遺構群

Overview of Hirayama Site, Hino City

Summary

The Hirayama Site is vast, measuring 1.96 km from east to west and 1.33 km from north to south. Located from Toyoda 3-chome to Nishi Hirayama 4-chome in the southwestern part of Hino City, the ruins are on a riverside terrace formed on the left bank of the Asakawa River. Below, the Asakawa River—a tributary of the Tama River—flows northeast, while the opposite bank is flanked by the Tama Hills.

This survey is associated with the construction project for General National Route 20 (Hino Bypass (extension)) by the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, covering 6,913 square meters. The site is to the west of the district reported in 2022. Our survey of the flat surface of the terraces in the eastern part of the site has revealed some remains and relics dating back to the Paleolithic period through to the Early Modern period.

A total of 145 lithic specimens and 150 pebbles were recovered from a paleolithic concentration. The lithic assemblage consists of microblades, scrapers, retouched flakes, as well as a pyramid-prosmatic microblade core. The assemblage falls within 20,0-19.5 ky cal BP.

Among the items unearthed from the layer dating back to the Jomon period were a few remains, including pit remains and stone clusters related to stone-steamed dishes, along with numerous pieces of Jomon earthen and stone tools. These demonstrate how active people were there at the time.

In this survey, researchers found earthenware pieces from the early Yayoi period, examples of which have rarely been unearthed in Hino City. The recent finds are therefore valuable in that they indicate people were coming and going to this place at the time.

From the end of the Yayoi period to the early Kofun period, researchers have found 19 pit dwelling ruins, pit-shaped remains, one square tomb with a circumferential ditch, and other finds. These have revealed how the tomb area and residential areas were located in relation to one another. Moreover, the excavated earthenware has led us to learn how the village changed over time.

The only round mounds found from the layers dating back to the middle to the late Tumulus period were circumferential ditches. Along with these things, excavators have identified L-shaped earthen pits, examples of which are seen around Hino City. This find encourages us to expect a further increase in similar examples.

Scholars have investigated the ruins of 21 pit dwellings from the Nara to the Heian period. The resulting examples of earthenware, metal products, and other unearthed finds have been examined to reveal the changes that the villages underwent.

Moreover, an investigation has been conducted of the ruins of medieval roads and farming remains from the Early Modern period and later. Once again, the site proved to be valuable in providing traces of people's activities from the Paleolithic to the Early Modern period.

It is hoped that the ongoing surveys will provide greater clarity on how people used and lived on the land of the Hirayama Site.

序 言

日野市平山遺跡の発掘調査は、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所が施行する一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い実施されました。

遺跡は、日野市南西部の東京都日野市豊田三丁目から西平山四丁目にかけて所在し、浅川左岸に形成された河岸段丘上に立地します。遺跡の範囲は東西約 1.9km、南北約 1.3km と広大で、その範囲には 2 つの古墳群を含みます。平山遺跡は縄文時代から古代の土器が出土することで早くから知られ、これまでの発掘調査により、旧石器時代から近世に及ぶ複合遺跡であることが分かっています。

本事業に伴う発掘調査は平成 28 年 2 月に開始し、平山遺跡にまるで細長いトレンチを入れるかのようにして、遺跡の東から西へと発掘調査を進めてきました。最初に発掘調査を実施した地点の調査成果は、令和 4 年 2 月に東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集として刊行しました。本報告は、それに続く調査地点の発掘調査報告書です。

今回の発掘調査では、旧石器時代における石器の製作やメンテナンスを行った痕跡をはじめ、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての集落、古墳時代中～後期の円墳、奈良・平安時代の集落など、多岐にわたる調査成果を得ることができました。

本報告書が多くの人々に活用され、埋蔵文化財に対する都民の皆さまの関心と理解を深めていただくことができれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導をいただきました国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市教育委員会に厚く御礼を申し上げるとともに、ご理解とご協力をいただきました地域住民の皆さま、研究者の皆さまに心より感謝いたします。

令和 6 年 3 月

公益財団法人 東京都教育支援機構
理事長 坂東 眞理子

例 言

- 1 本書は、東京都日野市豊田三丁目他に所在する平山遺跡（日野市 No.22 遺跡）のうち、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所による、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（東京都埋蔵文化財センター調査報告第 382 集）である。

なお事業は現在も継続しており、本書は平成 28～31 年度及び令和 3 年度の調査対象範囲についてを「その 2」として報告するものである。

- 2 発掘調査事業は、一般国道 20 号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴い、国土交通省関東地方整備局相武国道事務所の委託を受け、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（現公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター）が実施した。
- 3 本調査に先立つ試掘調査については、すでに遺跡内で複数回の本調査が行われているため、実施していない。

- 4 遺跡所在地：東京都日野市東平山二丁目

- 5 調査面積：6.913㎡

- 6 調査期間：平成 29 年 3 月 23 日～平成 31 年 3 月 31 日（2-2 区～2-5 区）

令和 3 年 7 月 7 日～9 月 21 日（2-1 区）

一次整理期間：平成 29 年 4 月 3 日～平成 31 年 3 月 31 日（2-2 区～2-5 区）

令和 3 年 7 月 7 日～9 月 21 日（2-1 区）

二次整理・報告書作成期間：令和 3 年 9 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

- 7 本事業における事業者との事業調整等は、東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。

埋蔵文化財担当統括課長代理 伊藤敏行（～令和 2 年 3 月）

埋蔵文化財担当課長代理 鈴木徳子（令和 2 年 4 月～）

埋蔵文化財担当 平田 健（～平成 30 年 3 月）

笹津備当（平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月）

尾田識好（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）

野口 舞（令和 2 年 4 月～）

- 8 調査担当者

東京都埋蔵文化財センター日野バイパス分室

調査課課長 山本孝司（平成 29 年 4 月）

調査課係長（課長代理）西山博章（平成 29 年 5 月～令和 5 年 3 月）

調査課課長 西山博章（令和 5 年 4 月～）

調査研究員 江里口省三（平成 29 年 3 月～令和元年 12 月）

武内 啓（平成 29 年 3 月～平成 30 年 8 月）

佐賀桃子（平成 29 年 8 月～平成 31 年 3 月）

酒井光一（平成 30 年 4 月～令和元年 9 月）

相原正人（令和 3 年 7 月～）

小島正裕（令和3年8月～9月）

守屋 亮（令和3年12月～令和5年12月）

調査工事委託・支援会社

岩倉建設株式会社 テイクイトレード株式会社

9 本報告書の執筆は、相原正人・守屋亮・小西絵美・尾田識好・山本孝司・西山博章が分担し、文責は各文末に記した。

10 本報告書の編集は、相原・守屋が行った。

11 金属製品の透過撮像

軟X線

軟X線装置（SOFTEX 社 M1005 特型改：東京都埋蔵文化財センター）で撮像した。撮像は、長佐古真也・中島一成・守屋が行った。撮影条件は、管電圧 60kVp、管電流 40mA、露光時間 2sec で、デジタルセンサーはアールエフ社製 NAOMI NX-04H を用いた。

X線CT

X線CT装置（島津製作所 inspeXio SMX-225CT FPD HR Plus：同センター）で撮像した。X線管電圧は 200kV、管電流は 70 μ A で、コーンビーム CT のノーマル走査である。さらに、得られた CT データを使用し、ボリュウムグラフィックス製ソフトウェア VG-Studio MAX 3.3.4 を用いて 3D モデルを作製した。撮像・解析は長佐古が行った。

金属製品の元素組成分析

エネルギー分散型蛍光 X

線分析装置（EDX）（島津製作所 EDX - 8100：同センター）で元素組成分析を行った。操作は、長佐古が行った。

12 本報告に関して、下記の方々と機関に分析を委託、依頼した。

放射性炭素年代測定：株式会社 パレオ・ラボ

炭素窒素安定同位体比分析と残存脂質分析：宮田佳樹氏（東京大学総合研究博物館）

炭化材の樹種同定：株式会社 パレオ・ラボ

炭化種実の同定：株式会社 パレオ・ラボ、守屋 亮

土器の圧痕分析：佐々木由香氏（金沢大学 古代文明・文化資源学研究所・明治大学黒曜石研究センター）、守屋 亮

テフラ分析：株式会社 パレオ・ラボ

須恵器産地同定：加藤恭朗氏（古代の入間を考える会）

石質鑑定：柴田 徹氏（有限会社考古石材研究所）

青銅製品・金属製品の分析・保存処理：長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター学芸担当係長）
中島一成（東京都埋蔵文化財センター調査研究員）

13 旧石器時代の報告については、両角太一氏（大正大学大学院生）の協力を得た。

古代の遺物の記載については、鶴間正昭氏（元東京都埋蔵文化財センター）の助言・協力を得た。

14 本調査の概要については、以下において一部を発表、報告しているが、本書の刊行を以て正式報告とする。

東京都埋蔵文化財センター 2018『東京都埋蔵文化財センター遺跡発掘調査発表会 2017』
東京都埋蔵文化財センター 2018『東京都埋蔵文化財センター年報 38 平成 29（2017）年度』
東京都埋蔵文化財センター 2019『東京都埋蔵文化財センター年報 39 平成 30（2018）年度』
東京都埋蔵文化財センター 2022『東京都埋蔵文化財センター年報 42 令和 3（2021）年度』
相原正人「東京都内の方形周溝墓～集落との関係を中心に～」『方形周溝墓を考える』東京都埋蔵文化財センター 2021

15 出土遺物及び発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、日野市教育委員会にて保管している。

16 本文用例等

・本書で掲載・参照した地形図等は、以下のとおりである。

国土地理院電子地形図 25000

東京都教育委員会「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」

株式会社ミッドマップ東京「東京都 2,500 デジタル白地図 2015」

- ・平山遺跡グリッド設定図（第2図）は、東京都埋蔵文化財センターとの協議に基づいて日野市教育委員会が作成したものに、加筆・修正を加えた。
- ・土層・遺物の色調、含有量の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色 帖 17 版』を用い、土色・マンセルノテーションで表した。
- ・遺物取り上げ・遺構の図化は、株式会社バスコ社 バドラス T3Di を用いた。
- ・調査に使用した座標は、世界測地系第IX座標系に拠る国土座標である。
- ・本書で使用した標高は、海拔で示し、東京湾平均海面（Tokyo Peil：TP）を用いた。

17 発掘調査及び整理調査に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して、深謝いたします。（順不同・敬称略）

国土交通省関東地方整備局相武国道事務所、清野利明、根本 靖

東宮下自治会、西宮下自治会、川北地域自治会・まちづくり協議会

東京都教育委員会、日野市教育委員会、日野市郷土資料館、日野市まちづくり部区画整理課
株式会社 CEL

18 本報告書の著作権は、公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターが保有する。

凡 例

- ・本報告に係る遺構番号は、発掘調査時に付した遺構略号を用いた。整理調査に伴い遺構の種別が変更となったものについても、発掘調査時に付した略号のまま表記した。SX が SP と混在する等の例があるのはこのためである。
- ・遺構番号については、平成 27・28 年度調査地点からの連番とした。なお、2-2～2-5 区と 2-1 区の発掘調査の間に他の地点で調査を実施しているため、本報告書においては SI58～74、SK188～298、SP631～1059 は欠番となっている。
- ・遺物接合図における土器類・石器・石製品・金属製品は、帰属する時代の遺物に限定した。
- ・出土・分布・接合状況図に添付した出土遺物実測図は、1/8 を原則とし、一部 1/4 を使用した。

- ・土坑・ピットの一覧表にある断面形態は以下の模式図のとおりである。



- ・第IV章に掲載した個別の遺物写真については、概ね実測図と同サイズで掲載した。
- ・竪穴建物跡においては、掘り方埋土も含め、「貼床土」とした。
- ・弥生時代終末期から古墳時代前期の器種分類について、先行する発掘調査報告書『平山遺跡その1』（東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集）で「？」と分類されている土器については、今回は「鉢」に分類した。
- ・挿図で用いた主なスクリーンパターンとドットマークは、以下のとおりである。これ以外は、図中に凡例を示した。



遺構図スクリーンパターン一覧



遺物実測図スクリーンパターン一覧

遺物凡例

◎ 縄文土器 ○ 弥生土器 ● 土師器 ▲ 須恵器 □ 石器・石製品 ◆ 金属製品 × 漆 ㊦ 炭化材・炭化種実 ▼ 焼成粘土塊

- ・遺物観察表の法量の項目は、上段が口径、中段が器高、下段が底径または脚部径を示す。また括弧内の数字は、反転復元値を示す。

目次

日野市平山遺跡の調査	3) 整理調査の経過	3
Overview of Hirayama Site, Hino City	II 遺跡の位置と環境	
序言	1 地理的環境	15
例言・凡例	2 歴史的環境	17
I 発掘調査の概要	III 層序	22
1 調査に至る経緯	IV 遺構と遺物	28
2 調査の方法と経過	1 旧石器時代	31
1) 調査の方法	1) 1号遺物集中部	31
2) 発掘調査の経過	2) 遺物	31

2 縄文時代	50	A 竪穴建物跡・竪穴状遺構	110
1) 遺構	50	B 方形周溝墓	310
A 竪穴状遺構	50	C 土坑	314
B 集石・礫集中	54	D ビット	322
C 土坑	63	2) 遺構外出土遺物	322
D ビット	67	A 弥生時代前期の土器	322
2) 遺物	72	B 弥生時代終末期～古墳時代前期の土器	328
A 土器	72	4 古墳時代中～後期	334
B 土製品	75	1) 遺構と遺構出土遺物	334
C 石器	93	A 古墳	334
3 弥生時代～古墳時代前期	110	B 土坑	340
1) 遺構と遺構出土遺物	110		

第2分冊目次

IV 遺構と遺物	4 平山遺跡から出土した炭化種実
5 古代	5 平山遺跡から出土した炭化種実(補足)
1) 遺構と遺構出土遺物	6 日野市平山遺跡出土土器の圧痕同定(2)
2) 遺構外出土遺物	7 平山遺跡のテフラ分析
6 中世	VI 調査の成果と課題
1) 遺構と遺構出土遺物	1 旧石器時代
2) 遺構外出土遺物	2 縄文時代
7 近世以降	3 弥生時代終末期から古墳時代前期の集落
1) 遺構	4 弥生時代終末期から古墳時代前期の土器
2) 遺物	5 古代
V 自然科学分析	6 中世・近世以降
1 放射性炭素年代測定	引用・参考文献
2 日野市平山遺跡出土土器の残存脂質分析	報告書抄録
3 日野市平山遺跡出土炭化材の樹種同定	

巻頭写真目次

写真1 航空写真(北東から撮影)	i	写真10 SI47 出土土器	iv
写真2 旧石器時代の遺物集中部(SBL1)	ii	写真11 奈良時代の上師器・須恵器	v
写真3 縄文時代の集石(SS6)	ii	写真12 平安時代の上師器・須恵器	v
写真4 古墳時代前期の竪穴建物跡(SI56)	iii	写真13 奈良時代の竪穴建物跡(SI22)	vi
写真5 SI41 出土土器	iii	写真14 平安時代の竪穴建物跡(SI30)	vi
写真6 方形周溝墓(SS2)	iii	写真15 側柱を有する竪穴建物跡(SI53)	vi
写真7 SI38 出土土器	iv	写真16 SI53 から出土した鉄鏝	vi
写真8 SI41 出土土器	iv	写真17 道路跡(SF3)	vii
写真9 SI39 出土土器	iv	写真18 近世以降の農事関連遺構群	vii

挿図目次

第1図 平山遺跡の位置(1/25,000)	4	第31図 縄文時代遺構分布図(1/1,200)	51
第2図 平山遺跡グリッド設定図(1/10,000)	5	第32図 SI57(1)(1/60)	52
第3図 調査区設定図(1/2,000)	7	第33図 SI57(2)(1/60)	53
第4図 2・2・3区、2・4・5区全景	8	第34図 SI57(3)遺物分布図(1/60)	54
第5図 各区調査前状況	9	第35図 SI57写真	55
第6図 2・5区東側・2・1区調査前状況、2・1区調査完了・埋め戻し状況11	10	第36図 SS6(1)(1/60)	56
第7図 2・2区調査完了状況	11	第37図 SS6(2)(1/30)	57
第8図 2・2・3・4区調査完了状況	12	第38図 SS6(3)遺物接合図(1/60)	58
第9図 2・5区調査完了状況	13	第39図 SS6(4)下部施設遺物接合図(1/30)	59
第10図 周辺の地形と地質(1/70,000)	16	第40図 SS6写真	60
第11図 周辺の道路(1/25,000)	18	第41図 SS13(1/100・1/60)	61
第12図 土層断面・試掘坑位置図(1/1,200)	23	第42図 SS13写真	62
第13図 基本層序(1)(1/60・1/100)	24	第43図 SK82・84・107(1/40)	64
第14図 基本層序(2)	25	第44図 SK116・167(1/40)	65
第15図 調査区上層断面	26	第45図 SK168・188(1/40)	66
第16図 調査区試掘坑	27	第46図 SK189(1/40)	67
第17図 縄文時代・中世遺構全体図(1/800)	29	第47図 SK82・84・107・116写真	68
第18図 SBL1(1)器種別分布図(1/60)と遺物垂直位置の度数分布	33	第48図 SK167・168・188・189写真	69
第19図 SBL1(2)石材料分布図(1/60)	34	第49図 SP531・619(1/40)	70
第20図 SBL1(3)障壁接合図(1/60)	35	第50図 SP531・619写真	70
第21図 SBL1出土遺物(1)(3/4)	36	第51図 縄文時代土器分布図(1/1,200)	71
第22図 SBL1出土遺物(2)(1/2)	37	第52図 縄文土器(1)(1/3)	76
第23図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(1)(1/60・1/2)	38	第53図 縄文土器(2)(1/3)	77
第24図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(2)(1/60・1/3)	39	第54図 縄文土器(3)(1/3)	78
第25図 SBL1出土遺物写真(1)	40	第55図 縄文土器(4)(1/3)	79
第26図 SBL1出土遺物写真(2)	41	第56図 縄文土器(5)(1/3)	80
第27図 SBL1石器接合個体写真(1)	42	第57図 縄文土器(6)・土製品(1/3・1/2)	81
第28図 SBL1石器接合個体写真(2)	43	第58図 縄文土器写真(1)	82
第29図 SBL1写真(1)	48	第59図 縄文土器写真(2)	83
第30図 SBL1写真(2)	49	第60図 縄文土器写真(3)	84

第61圖	繩文土器写真(4)	85	第107圖	SI34出土遺物(2)(1/2・1/6)	143
第62圖	繩文土器写真(5)	86	第108圖	SI34出土遺物写真(1)	144
第63圖	繩文土器写真(6)・土製品写真	87	第109圖	SI34出土遺物写真(2)	145
第64圖	繩文時代石器(1)(2/3・1/3)	94	第110圖	SI35(1)(1/60)	148
第65圖	繩文時代石器(2)(1/3)	95	第111圖	SI35(2)	149
第66圖	繩文時代石器(3)(1/3)	96	第112圖	SI35(3)・貯藏穴・土壇・赤砂(1/30)	150
第67圖	繩文時代器(4)(1/3)	97	第113圖	SI35(4)遺物分布・接合図(1/60)	151
第68圖	繩文時代石器(5)(1/3)	98	第114圖	SI35写真(1)	152
第69圖	繩文時代石器(6)(1/3)	99	第115圖	SI35写真(2)	153
第70圖	繩文時代石器(7)(1/3)	100	第116圖	SI35出土遺物(1/3・1/2)	154
第71圖	繩文時代石器写真(1)	101	第117圖	SI35出土遺物写真	154
第72圖	繩文時代石器写真(2)	102	第118圖	SI37(1)(1/60)	156
第73圖	繩文時代石器写真(3)	103	第119圖	SI37(2)	157
第74圖	繩文時代石器写真(4)	104	第120圖	SI37(3)・貯・赤砂・遺物出土状況図(1/30)	158
第75圖	繩文時代石器写真(5)	105	第121圖	SI37(4)遺物分布・接合図(1/60)	159
第76圖	繩文時代石器写真(6)	106	第122圖	SI37写真(1)	160
第77圖	繩文時代石器写真(7)	107	第123圖	SI37写真(2)	161
第78圖	弥生時代・古墳時代遺構分布図(1/1,200)	111	第124圖	SI37出土遺物(1/3)	162
第79圖	SI24(1)(1/60)	112	第125圖	SI37出土遺物写真	163
第80圖	SI24(2)遺物分布・接合図(1/60)	113	第126圖	SI38(1)(1/60)・貯・貯藏穴(1/30)	164
第81圖	SI24写真	114	第127圖	SI38(2)	165
第82圖	SI24出土遺物(1/3)	115	第128圖	SI38(3)焼土・粘土検出状況・遺物出土状況図(1/60)	166
第83圖	SI24出土遺物写真	115	第129圖	SI38(4)遺物分布・接合図(1/60)	167
第84圖	SSI31(1)(1/60)	118	第130圖	SI38写真(1)	168
第85圖	SI31(2)	119	第131圖	SI38写真(2)	169
第86圖	SI31(3)(1/60)	120	第132圖	SI38出土遺物(1)(1/3)	170
第87圖	SI31(4)・貯藏穴・土壇・赤砂(1/30)	121	第133圖	SI38出土遺物(2)(1/3)	171
第88圖	SI31(5)遺物出土状況図(1/60)	122	第134圖	SI38出土遺物(3)(1/3・1/6)	172
第89圖	SI31(6)遺物分布図(1/60)	123	第135圖	SI38出土遺物写真(1)	174
第90圖	SI31(7)遺物接合図(1/60)	124	第136圖	SI38出土遺物写真(2)	175
第91圖	SI31写真(1)	125	第137圖	SI38出土遺物写真(3)	176
第92圖	SI31写真(2)	126	第138圖	SI39(1)(1/60)	180
第93圖	SI31写真(3)	127	第139圖	SI39(2)	181
第94圖	SI31出土遺物(1)(1/3)	128	第140圖	SI39(3)・貯藏穴・土壇・赤砂(1/30)	182
第95圖	SI31出土遺物(2)(1/3)	129	第141圖	SI39(4)遺物出土状況図(1)(1/60)	183
第96圖	SI31出土遺物写真	130	第142圖	SI39(5)遺物出土状況図(2)(1/30)	184
第97圖	SI34(1)(1/60)	132	第143圖	SI39(6)遺物分布・接合図(1/60)	185
第98圖	SI34(2)	133	第144圖	SI39写真(1)	186
第99圖	SI34(3)(1/60)・貯(1/30)	134	第145圖	SI39写真(2)	187
第100圖	SI34(4)貯藏穴・土壇・赤砂(1/30)	135	第146圖	SI39写真(3)	188
第101圖	SI34(5)遺物出土状況図(1/60)	136	第147圖	SI39出土遺物(1/3・2/3)	190
第102圖	SI34(6)遺物分布・接合図(1/60)	137	第148圖	SI39出土遺物写真	191
第103圖	SI34写真(1)	138	第149圖	SI41(1)(1/60)	194
第104圖	SI34写真(2)	139	第150圖	SI41(2)	195
第105圖	SI34写真(3)	140	第151圖	SI41(3)貯藏穴・赤砂下層(1/30)	196
第106圖	SI34出土遺物(1)(1/3)	142	第152圖	SI41(4)遺物出土状況図(1/60・1/30)	197

第153图	SI41(5)遺物分布図(1/60)	198	第199图	SI47写真(2)	246
第154图	SI41(6)遺物接合図(1/60)	199	第200图	SI47写真(3)	247
第155图	SI41写真(1)	200	第201图	SI47出土遺物(1/1/3)	248
第156图	SI41写真(2)	201	第202图	SI47出土遺物(2/1/3)	249
第157图	SI41写真(3)	202	第203图	SI47出土遺物写真(1)	250
第158图	SI41写真(4)	203	第204图	SI47出土遺物写真(2)	251
第159图	SI41出土遺物(1/1/3)	204	第205图	SI48(1)(1/60)	253
第160图	SI41出土遺物(2/1/3)	205	第206图	SI48(2)(1/60)・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	254
第161图	SI41出土遺物(3)(1/3・1/6)	206	第207图	SI48(3)遺物分布・接合図(1/60)	255
第162图	SI41出土遺物写真(1)	207	第208图	SI48写真(1)	256
第163图	SI41出土遺物写真(2)	208	第209图	SI48写真(2)	257
第164图	SI41出土遺物写真(3)	209	第210图	SI48出土遺物(1/3・2/3)	258
第165图	SI42(1)(1/60)	212	第211图	SI48出土遺物写真	259
第166图	SI42(2)	213	第212图	SI49(1)(1/60)	262
第167图	SI42(3)・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	214	第213图	SI49(2)・貯蔵穴(1/30)	263
第168图	SI42(4)遺物分布・接合図(1/60)	215	第214图	SI49(3)遺物分布・接合図(1/60)	264
第169图	SI42写真(1)	216	第215图	SI49写真	265
第170图	SI42写真(2)	217	第216图	SI49出土遺物(1/3)	266
第171图	SI42出土遺物(1/3)	218	第217图	SI49出土遺物写真	266
第172图	SI42出土遺物写真	218	第218图	SI50(1)(1/60)	267
第173图	SI43(1)(1/60)	220	第219图	SI50(2)(1/60)	268
第174图	SI43(2)遺物分布・接合図(1/60)	221	第220图	SI50(3)・貯蔵穴・赤砂(1/30)	269
第175图	SI43写真	222	第221图	SI50(4)遺物出土状況図(1/60)	270
第176图	SI43出土遺物(1/3・2/3)	223	第222图	SI50(5)遺物分布図(1/60)	271
第177图	SI43出土遺物写真	223	第223图	SI50(6)遺物接合図(1/60)	272
第178图	SI44(1)(1/60)・貯蔵穴・遺物出土状況図(1/30)	224	第224图	SI50写真(1)	273
第179图	SI44(2)遺物分布・接合図(1/60)	225	第225图	SI50写真(2)	274
第180图	SI44写真	226	第226图	SI50写真(3)	275
第181图	SI44出土遺物(1/3・1/6)	227	第227图	SI50出土遺物(1/3)	276
第182图	SI44出土遺物写真	228	第228图	SI50出土遺物写真	277
第183图	SI45(1)(1/60)	230	第229图	SI52(1)(1/60)	279
第184图	SI45(2)遺物分布図(1/60)	231	第230图	SI52(2)(1/60)	280
第185图	SI45写真	232	第231图	SI52(3)・貯蔵穴・赤砂(1/30)	281
第186图	SI46(1)(1/60)	233	第232图	SI52(4)遺物分布図(1/60)	282
第187图	SI46(2)遺物分布・接合図(1/60)	234	第233图	SI52(5)遺物接合図(1/60)	283
第188图	SI46写真	235	第234图	SI52写真(1)	284
第189图	SI46出土遺物(1/3)	236	第235图	SI52写真(2)	285
第190图	SI46出土遺物写真	236	第236图	SI52出土遺物(1/3・2/3)	286
第191图	SI47(1)(1/60)	238	第237图	SI52出土遺物写真	287
第192图	SI47(2)	239	第238图	SI56(1)(1/60)	290
第193图	SI47(3)(1/60)・貯蔵穴・土堤(1/30)	240	第239图	SI56(2)	291
第194图	SI47(4)貯蔵穴・土堤・赤砂・遺物出土状況図(1/30)	241	第240图	SI56(3)(1/60)	292
第195图	SI47(5)	242	第241图	SI56(4)・貯蔵穴・土堤・赤砂(1/30)	293
第196图	SI47(6)遺物分布図(1/60)	243	第242图	SI56(5)遺物出土状況図(1/60)	294
第197图	SI47(7)遺物接合図(1/60)	244	第243图	SI56(6)遺物分布図(1/60)	295
第198图	SI47写真(1)	245	第244图	SI56(7)遺物接合図(1/60)	296

第245図	SI56写真(1)	298	第261図	SK79-93・111・113(1/40)	323
第246図	SI56写真(2)	299	第262図	SK161・163(1/40)	324
第247図	SI56写真(3)	300	第263図	SK79-93・111・113・161・163写真	325
第248図	SI56出土遺物(1)(1/3)	302	第264図	SP418・503・516・517・551・560・561(1/40)	326
第249図	SI56出土遺物(2)(1/3)	303	第265図	SP418・503・516・517・551・560・561写真	327
第250図	SI56出土遺物写真(1)	304	第266図	遺構外出土遺物(弥生時代前期)(1/3)	329
第251図	SI56出土遺物写真(2)	305	第267図	遺構外出土遺物(弥生時代終末期～古墳時代前期)(1/3)	330
第252図	弥生時代終末期～古墳時代前期遺構間接合図(1/1,200)	309	第268図	遺構外出土遺物写真	331
第253図	SZ2(1)(1/60)	311	第269図	SZ3(1)(1/60・1/120)	335
第254図	SZ2(2)遺物出土状況図(1/40・1/120)	313	第270図	SZ3(2)	337
第255図	SZ2(3)遺物接合図(1/60)	315	第271図	SZ3写真(1)	338
第256図	SZ2写真(1)	317	第272図	SZ3写真(2)	339
第257図	SZ2写真(2)	318	第273図	SZ3出土遺物(1/3)	340
第258図	SZ2写真(3)	319	第274図	SZ3出土遺物写真	340
第259図	SZ2出土遺物(1/3)	320	第275図	SK183・184(1/40)	341
第260図	SZ2出土遺物写真	321	第276図	SK183・184写真	342

目 次

第1表	調査工程表	3	第18表	SI42出土土器観察表	219
第2表	周辺の遺跡一覧	19	第19表	SI43出土土器・土製品観察表	223
第3表	石器組成表	32	第20表	SI44出土土器観察表	229
第4表	SBL1出土遺物観察表(1)～(4)	44～47	第21表	SI46出土土器観察表	237
第5表	石器接合表	47	第22表	SI47出土土器観察表	252
第6表	礫接合表	47	第23表	SI48出土土器・土製品観察表	260
第7表	縄文時代土坑・ピット一覧表	70	第24表	SI49出土土器観察表	266
第8表	縄文時代土器観察表(1)～(6)	88～93	第25表	SI50出土土器観察表	278
第9表	縄文時代石器観察表	109	第26表	SI52出土土器・土製品観察表(1)・(2)	288・289
第10表	SI24出土土器観察表	116	第27表	SI56出土土器観察表(1)・(2)	306・307
第11表	SI31出土土器観察表	131	第28表	弥生時代終末期～古墳時代前期竪穴建物跡 ・竪穴状遺構一覧表	308
第12表	SI34出土土器観察表	146	第29表	SZ2出土土器観察表	322
第13表	SI35出土土器・土製品観察表	154	第30表	弥生時代土坑・ピット一覧表	328
第14表	SI37出土土器観察表	163	第31表	遺構外出土土器観察表(1)・(2)	332・333
第15表	SI38出土土器観察表(1)・(2)	177・178	第32表	弥生時代出土石製品観察表	333
第16表	SI39出土土器観察表	192	第33表	SZ3出土土器観察表	340
第17表	SI41出土土器観察表(1)・(2)	210・211			

I 発掘調査の概要

1 調査に至る経緯

本発掘調査は、一般国道20号（日野バイパス（延伸））事業地内の埋蔵文化財発掘調査である。

一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業計画に基づき、事業者である国土交通省関東地方整備局相武国道事務所（以下、相武国道事務所とする）は、平成27年2月9日に文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知を日野市教育委員会を経由して東京都教育委員会に提出し、埋蔵文化財発掘調査に関する協議が開始された。当該範囲は、平山遺跡（日野市No.22遺跡）として周知の遺跡であり、これまでに複数回の発掘調査が行われていることから、東京都教育委員会は、相武国道事務所に平成27年10月27日付で埋蔵文化財の本格調査が必要であると回答した。

これを受け相武国道事務所は、平成27年11月2日付で東京都教育委員会に対し埋蔵文化財本調査に係る取り扱いの照会を行い、東京都教育委員会は、平成27年11月10日付で本調査を公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター（現公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センター、以下、東京都埋蔵文化財センターとする）が実施する旨、回答した。これにより、関係機関で本調査に係る協議を開始し、平成27年12月25日に相武国道事務所及び東京都教育委員会、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、「一般国道20号（日野バイパス（延伸））建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」が締結され、続いて相武国道事務所と公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（当時）との間で、埋蔵文化財発掘調査の実施に関する委託契約が締結され、発掘調査の準備に着手した。

発掘調査は平成28年2月に開始し、平山通り東側の調査対象範囲3,090㎡について、平成29年3月31日までに発掘調査を完了し、二次整理作業を経て、令和4年2月に東京都埋蔵文化財センター調査報告第368集『平山遺跡その1』として調査報告書を刊行した。

今回の報告対象となる平山通り西側の2-1～2-5区（6,913㎡）は、上記調査終了後の平成29年3月に準備工に着手し、3月23日より発掘調査を開始した。調査の経過については次節を参照されたい。

本発掘調査に係る届出とそれに対する東京都教育委員会の発掘調査の通知は、次のとおりである。なお、2-1区の発掘調査の届出に関しては、発掘調査の実施が確定した令和3年度に改めて届出を行っている。

発掘調査の実施について：国関整相国道調第23号 平成28年1月8日

発掘調査の届出：27ス文事埋文第2576号 平成28年3月22日 [2-2区]

発掘調査の届出：28ス文事埋文第2813号 平成29年3月30日 [2-2区]

発掘調査の届出：29ス文事埋文第2818号 平成30年3月30日 [2-2～2-5区]

発掘調査の届出：3ス文事埋文第2189号 令和3年6月28日 [2-1区]

発掘調査の通知：28教地管理第99号 平成28年4月12日 [2-2区]

発掘調査の通知：29教地管理第232号 平成29年4月3日 [2-2区]

発掘調査の通知：30 教地管理第 484 号 平成 30 年 5 月 15 日 [2-2～2-5 区]

発掘調査の通知：3 教地管理第 1777 号 令和 3 年 6 月 28 日 [2-1 区]

2 調査の方法と経過

1) 調査の方法

発掘調査に先立って、日野市教育委員会と協議の上、調査区画の設定を行った。今後の調査を勘案し、今回の調査地点だけでなく、平山遺跡全域を対象範囲として設定した。

国土座標（世界測地系）を基準とする 50 m 四方の大グリッドを設け、測量座標に準拠して北西隅を起点として X 軸には北から南に向け大文字アルファベットを、Y 軸には西から東に向けアラビア数字を付した。更に、1 大グリッドに 5 m 四方の小グリッドを設け、北西角を起点に西から東、北から南の順で南東角まで 1～100 の小グリッド番号を付した。グリッド名は、大グリッド名-小グリッド番号で表記することとし、個々の小グリッドを「16F-23」のように呼称、表記した。基準とした 16F 北西隅の座標は、X＝－38000.00、Y＝－42000.00、原点の座標は X＝－37750.00、Y＝－42750.00 である（第 2 図）。標高は、東京湾平均海面（T.P.）を使用した。

平成 27・28 年度発掘調査地点（『平山遺跡その 1』東京都埋蔵文化財センター調査報告第 368 集）から続く都道 155 号西側の段丘平坦面が今回の調査地点（2-1～2-5 区）である。幅 30m、長さ 270m 程の調査対象範囲を、着手順に 2-2・2-3・2-4・2-5 区、2-1 区とし（第 3 図）、日野市まちづくり部区画整理課（以下、日野市区画整理課とする）への引き渡しに係る優先順序等により、各区を細分して発掘調査を実施した。

遺構番号については、日野市教育委員会と協議の上、東京都埋蔵文化財センターの調査範囲については遺跡通番とし、遺構種別毎に 1 号から付すこととした。なお、現代にまで下るものについては対象から除外した。

発掘調査は、一部の地表面を被覆する舗装を重機で除去した後、遺構確認面及び古代・縄文時代の包含層（Ⅱ層・Ⅲ層上面）まで盛土と表土を重機で掘削し、遺構確認及び遺構の精査と包含層の調査は人力で行った。なお、遺物の出土が寡少なⅢ層下部（Ⅲ3 層）とⅣ層は遺物を取り上げながら人力掘削を併用しつつ機械掘削を行い、Ⅳ層上面と、Ⅴ層上面で遺構確認作業を行った。旧石器時代の確認調査は、Ⅴ層上面で比較的大型の黒曜石塊が出土した範囲と、床面（貼床土中）で尖頭器が出土した竪穴建物跡 S140 に試掘坑を設けて実施した。前者で遺物集中を検出したが、後者では確認されなかった。また、各区に存在するⅤ層を掘り込んでいる攪乱坑の壁面や底面で精査を行ったが、遺物の出土は確認されなかった。

遺構図及び全体図の作成は、トータルステーションシステム測量による計測と手描きを適宜選択、併用した。発掘調査の記録写真は、35mm フィルムカメラ（白黒・リバーサルフィルム使用）を基本とし、デジタルカメラを併用した。デジタルカメラで撮影したデータのファイル形式は、撮影時のカメラ本体の設定により RAW 及び JPEG とした。出土遺物のうち遺構内に関しては、平面位置と標高を記録し、遺構単位で連番を与え取り上げた。これに対し包含層出土遺物は、調査範囲内を連番で取り上げて出土位置と標高、層位を記録した。また、表土層及び盛土から出土した遺物については、表記を調査区名と層位に限定した。

第1表 調査工程表

	H28年度	H29年度	H30年度	H31/R1年度			R2年度	R3年度				R4年度	R5年度				
	3月			4月	5月	6月		7月	8月	9月	10月-3月		11月	12月	1月	2月	3月
準備工	■																
発掘調査 (2-2～2-5)	■	■	■														
埋め戻し				■	■	■											
準備工								■									
発掘調査 (2-1)								■	■	■	■						
埋め戻し									■								
一次整理		■	■	■	■	■		■	■	■	■						
二次整理									■	■	■	■	■	■	■	■	■
報告書作成																■	■

2) 発掘調査の経過

平成29年2月20日、日野バイパス建設事業に伴う西平山地区の発掘調査に係る協議が東京都教育委員会、相武国道事務所、日野市区画整理課、東京都埋蔵文化財センターにより行われた。発掘調査に先立ち、3月6日に単管柵設置に係る現地立会協議（相武国道事務所、東京都教育委員会、日野市教育委員会、日野市区画整理課、東京都都市づくり公社、東京都埋蔵文化財センター）、3月8日に単管柵設置位置確認に係る現地立会（東京都教育委員会、日野市区画整理課、東京都都市づくり公社、東京都埋蔵文化財センター）を実施した。

周辺住民及び関係諸機関と調整を重ね、平成29年3月13日に準備工に着手し、発掘調査は3月23日よりを開始した。着手が可能な部分から発掘調査を開始する関係から、調査区を2-2～5区の4区に分割して調査を実施することとし、2-2区（2,550㎡）全体のうち南部から着手した。2-2区南部については、日野市区画整理課による仮道建設が予定されており、発掘調査終了後に日野市区画整理課へ引き渡す予定になっていた。調査区の西側から盛土及び表土の機械掘削と人力による遺構確認作業を行った。調査区全域で近世以降の畑の畝間溝や土坑が検出されたが、大きく攪乱されている部分が複数あり、廃棄された浄化槽や玉石、アスファルト・コンクリート舗装版をはじめとする多量のガラ（廃棄物）が検出され、その扱いが問題になると同時に調査の大きな支障となった。4月20日には攪乱坑の壁面で古代の竪穴建物跡と土坑の存在を確認した。表土掘削と並行して、近世以降の遺構の調査を実施し、調査が終了した部分からⅡ層の人力掘削作業に着手した。Ⅱ層中で古代から中世の円形・方形土坑を検出し、古代以前の竪穴建物跡と中世の溝・道跡が存在することも確認した。7月3日よりそれらの遺構調査に着手し、8月30日にはこれらの遺構を対象にラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。発掘調査は9月27日に終了し、東京都教育委員会による終了確認も同日に行われた。埋戻しを行い、現状復旧作業が9月29日に終了し、日野市区画整理課に引き渡した。

2-2区南部を優先して発掘調査を行ったため、2-2区北部については時期をずらして発掘調査に着手した。調査地点北側を通る道路の開通に伴い、車両の交通量の増加が予想されていた。ガードフェンスを設置したとしても、道路付近で発掘作業を行うことに危険を感じる状況であった。このような状況を鑑み、車両等の衝突にも耐え得る据置型ガードレールの設置が検討された。相武国道事務所の指示に基づき、据置型ガードレール設置に関する細目が協議、承認され、東京都埋蔵文化財センター



第1図 平山遺跡の位置 (1/25,000) [国土地理院電子地形図 25000 に加筆]



第2図 平山遺跡グリッド設定図(1/10,000)

が対応し、10月3日に設置が完了した。これにより、安全が担保され、10月10日から2-2区北部の発掘調査を開始した。

なお、調査地点北側を通る道路築込に伴い、当該範囲は日野市教育委員会による発掘調査が既に実施されていた。計画図上では、その発掘調査範囲の南限と、今回発掘調査を実施する2-1～2-5区の北限が接することになっている。しかしながら、調査地点北側の道路は交通量も多いため、掘削に際しては一定程度の隔離を確保せざるを得ない状況だった。東京都教育委員会と協議し、隔離を取り土留めを行ったうえで、発掘調査を実施することとなった。

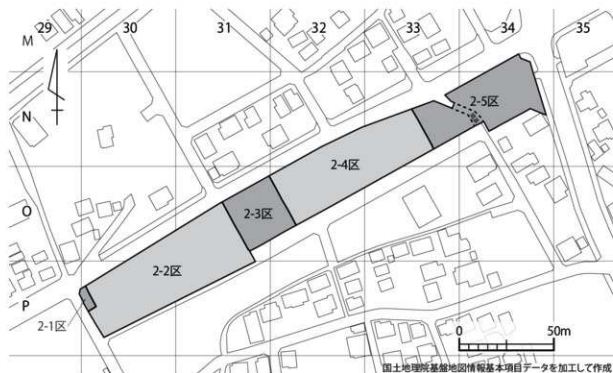
2-2区北部では古墳時代前期に位置付けられる方形周溝墓SZ2が検出され、他の遺構とともに調査を進めた。また、2-2区北西部で調査地点西側を通る市道下へと続く土坑と竪穴建物跡が検出され（のちに2-1区として発掘調査を実施）、その取り扱いを関係機関と協議したところ、平成30年度以降に次期調査範囲を併せて発掘調査をする方針が決定された。

追加調査が決定した2-3区（780㎡）の発掘調査は、平成29年11月10日から着手した。2-3区では奈良・平安時代、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡、縄文時代の集石等を検出し、各遺構の調査を順次進めた。さらに追加調査となった2-4区（2,080㎡）については、平成30年2月26日に発掘調査を開始した。2月28日には、2-2区北側及び2-3区のⅢ層上面で検出した遺構を対象に空中写真撮影を行った。隣接する2-3区と同様に、2-4区においても弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての竪穴建物跡等を検出した。

6月27日には2-5区の発掘調査に着手した。2-5区には南北に貫く現道（生活道路）があり、その取り扱いが以前から課題であった。関係機関との協議において、廃道して発掘調査を実施する案等が検討されたが結論に至らず、現道を維持したまま発掘調査を行うことが決定した。なお、現道部分には無届で配管・舗装工事が行われており、遺構の遺存状態等の確認が取れていないことから、現道周辺の調査成果をもって再度判断することとなった。そのような経緯があり、まずは現道西側の発掘調査を進めた。8月16日には現道東側の発掘調査も開始した。現道を挟んだ両側で竪穴建物跡が複数確認され、2-5区北東部には古墳時代の古墳周溝を検出した。そうした中で、現道下に続く古代の竪穴建物跡があることが判明し、その取り扱いについて関係機関と協議を行うことになった。8月22日には、2-2区の残っていた部分及び2-3区の発掘調査が終了し、同日に東京都教育委員会による終了確認が行われた。なお、2-2区北西部については、発掘調査の実施が先送りとなったため、この時点で土坑と竪穴建物跡のプランを検出した状態で埋め戻すこととした。

平成31年1月24日には、2-4・5区のⅢ層上面検出の遺構を対象とした空中写真撮影を実施した。現道部分の取り扱いを関係機関と協議した結果、現道を一時通行止めにして、発掘調査を実施し、調査終了後に現道を復旧することになった。これを受けて、1月28日から現道部分の発掘調査に取り掛かった。2-4区南東部において、ローム層上面で黒曜石が出土したことから、周囲でローム層を掘削して旧石器時代の遺構・遺物の有無を確認する試掘調査を行うことになった。その結果、ローム層中で礫群と細石刃や剥片を伴う旧石器時代の遺物集中を検出した。2-4・5区については3月29日に東京都教育委員会の終了確認を受け、3月31日には発掘調査を終了した。なお、2-5区の現道部分は調査終了後に現状復旧し作業を行い、4月26日に日野市区画整理課へと引き渡した。

長らく発掘調査の実施が保留になっていた2-1区だが、支障となっていた電柱が撤去されたことや、



第3図 調査区設定図 (1/2,000)

調査地点の北側を通る現道の横断歩道及び歩行者溜まりの設置工事の施行時期が迫る等の状況を受けて、令和3年度中に発掘調査を行う運びとなった。2-1区の発掘調査に際して、市道を既に発掘調査が終了している東側へ迂回させ、発掘調査終了後に市道を復旧する計画が出たものの、新設する迂回路の管理上の問題が解決されず、関係機関との協議は進展しなかった。しかしながら、調査地点北側の横断歩道及び歩行者溜まりの設置工事の期限が迫っていたため、現状で掘削可能な範囲を2-1区として発掘調査することになったのである。

2-1区の発掘調査着手当時、既に事業用地としてガードフェンスによる仮囲いを設置していたため、新たに設置する必要はなかった。2-2区として発掘調査を行った範囲等を現地で確認し、掘削範囲を設定した。重機による表土掘削は7月7日から着手し、7月13日に終了した。前回調査では遺構を検出した状態で中断していたため、今回はその状況を再度確認するところから始めた。遺構確認面を精査し、改めて円形土坑2基、東にカマドを有する竪穴建物跡1軒を検出した。これらの遺構調査を7月14日から8月31日にかけて実施し、遺構の掘削と並行して写真撮影や図面作成等の記録作業を行った。遺構調査終了後は縄文時代の遺物包含層掘削に移行し、V層上面までの掘り下げが終わったのは9月16日である。同日に東京都教育委員会による終了確認を受けた。その後、調査区西壁の断面図作成やV層上面のレベルの記録等を行い、9月21日には調査完了の全景を撮影し、2-1区の発掘調査が終了した。埋戻しは9月22～28日に実施した。なお、2-1区北西部に関しては、先述した歩行者溜まり設置工事のために、10月上旬に日野市区画整理課への引き渡しを行った。

2-1区北西部を除く2-2～2-5区は、発掘調査終了後、事務所用地や残土仮置き場等として長らく使用していた。事務所や残土仮置き場の移転に伴い、日野市区画整理課への引き渡し準備を進め、令和5年度に段階的に引き渡しを実施した。2-1区の北西部以外及び2-2・3区に凡そ該当する範囲を



1. 2-2-3 区 全景 (合成写真) (南南東から)



2. 2-4-5 区 全景 (合成写真) (南南東から)

第4図 2-2-3 区、2-4-5 区全景



1. 2-2区 調査前状況(南西から)



2. 2-3・4・5西区 調査前状況(南西から)

第5図 各区調査前状況



1. 2-5 区東側 調査前状況 (南西から)



2. 2-1 区 調査前状況 (南南東から)



3. 2-1 区 全景 (南南東から)



4. 2-1 区 調査完了状況 (南南東から)



5. 2-1 区 埋め戻し完了状況 (南南東から)

第 6 図 2-5 区東側・2-1 区調査前状況、2-1 区調査完了・埋め戻し状況



1. 2-2区 南側西部調査完了状況(北東から)



2. 2-2区 南側中央部調査完了状況(東北東から)



3. 2-2区 南側東部調査完了状況(西南西から)



4. 2-2区 北側南東部調査完了状況(西南西から)



5. 2-2区 北側南部調査完了状況(東北東から)



6. 2-2区 北側南西部調査完了状況(西南西から)



7. 2-2区 北側北西部調査完了状況(東北東から)



8. 2-2区 北側北部中央調査完了状況(西南西から)

第7図 2-2区調査完了状況



1. 2-2区北側南東部・2-3区南側西部調査完了状況(西南西から)



2. 2-3区 北側調査完了状況(西南西から)



3. 2-3区 南側調査完了状況(西南西から)



4. 2-4区 南側西部調査完了状況(西南西から)



5. 2-4区 南側中央部調査完了状況(西南西から)



6. 2-4区 南側東部調査完了状況(西南西から)



7. 2-4区 北側西部調査完了状況(東から)



8. 2-4区 北側中央・東部調査完了状況(西南西から)

第8図 2-2・3・4区調査完了状況



1. 2-5区 現道部分調査完了状況(西南西から)



2. 2-5区東側 南側西～中央部調査完了状況(東北東から)



3. 2-5区東側 南側東部調査完了状況(北西から)



4. 2-5区東側 北側西部調査完了状況(1)(南南東から)



5. 2-5区東側 北側西部調査完了状況(2)(南南東から)



6. 2-5区東側 北側中央部調査完了状況(南南東から)



7. 2-5区東側 北側東部調査完了状況(1)(南南東から)



8. 2-5区東側 北側東部調査完了状況(2)(南南東から)

第9図 2-5区調査完了状況

令和5年5月25日、2・5区のうち東側約3分の2の範囲（2・5区を横断する道路より東側）を6月7日、残る2・4区を中心とする範囲を10月17日に日野市区画整理課へと引き渡した。

3) 整理調査の経過

発掘調査と並行して、出土遺物の洗浄と注記を中心とする一次整理作業を進めた。遺物洗浄を行った後、インクジェット式注記システムと手書きによる注記を行った。なお、注記内容は、日野市教育委員会の指示に基づき、日野市教育委員会の注記方法に準拠するものとした。2・2～2・5区の一次整理期間は平成29年4月3日から平成31年3月31日まで、2・1区の一次整理期間は令和3年7月7日～9月21日までである。

2・1～2・5区の二次整理作業は、一時期は2・1区の発掘調査と並行するかたちで、令和3年9月1日から開始し、令和5年11月30日まで実施した。2・2～2・5区の発掘調査終了から時間が経っていたため、まずは遺構原図や写真、測量データ、遺物等の基礎整理から取り掛かった。令和4年1月からは遺物の分類や計量、遺物台帳の作成を行い、その後、接合及び土器の復元を実施した。それと並行して、遺構図の修正やパソコンによるトレースを開始した。接合と復元が済んだ遺物については、9月から順次実測を行い、観察表の作成や遺物実測図のトレースを行った。本調査地点では数多くの弥生土器が出土したため、特に弥生土器の実測・トレースには想定以上の時間を費やすことになった。遺物の実測・トレースと並行して、令和5年2月からは遺物の俯瞰写真や正立写真等の撮影にも着手した。撮影した画像はパソコンでの切り抜きや加工等を行い、写真図版としての体裁を整える作業を実施した。3月からは、トレースした遺構の平面図や断面図、遺物の実測図等をレイアウトし、遺構・遺物図版を作成した。図版作成とともに、遺物の観察表や遺構一覧表等の表データの作成も行った。これらの各種作業と合わせて、報告書の原稿執筆を9月から開始した。二次整理作業で作成した遺構や遺物の各種図版や表、原稿を合わせて編集作業を行い、令和6年3月末に報告書を刊行した。

二次整理期間中に、出土した土器や石器、炭化物に対する各種自然科学分析（放射性炭素年代測定・炭素窒素安定同位体比分析と残存脂質分析・炭化材の樹種同定・炭化種実の同定・土器の圧痕分析・テフラ分析・須恵器産地同定・石材鑑定）を外部機関等へ委託し、実施した（第V章参照）。

本調査地点に関する遺構や遺物の原図、フィルム写真やデジタルカメラのデータ類、出土遺物については、令和6年1月26日付で東京都教育委員会を経由し、日野市教育委員会へと移管した。

4) 普及事業等

・日野市教育委員会より市民からの遺跡見学会開催の要望が示されたことを受けて、地域住民を対象とする遺跡見学会開催に関する協議を相武国道事務所と行い、開催の承諾を得た。その後、遺跡見学会実施に向け、地元自治会（東宮下自治会、西宮下自治会）を含む関係機関と調整し、平成30年10月13日に2・4区において、日野市教育委員会との共催で遺跡見学会を開催した。遺跡見学会の広報は調査地点周辺の住民に限定して行ったにもかかわらず、当日は310人を超える参加があった。

・東京都公式動画チャンネル「東京動画」において東京都教育委員会の事業紹介を行う動画製作の一環として、平山遺跡の発掘調査状況を紹介する撮影が平成30年10月25日に行われた。

・平成31年4月15日に、日野市立平山小学校（児童87名、教員3名）の社会科見学を2・4・5区において受け入れた。

（小西絵美）

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

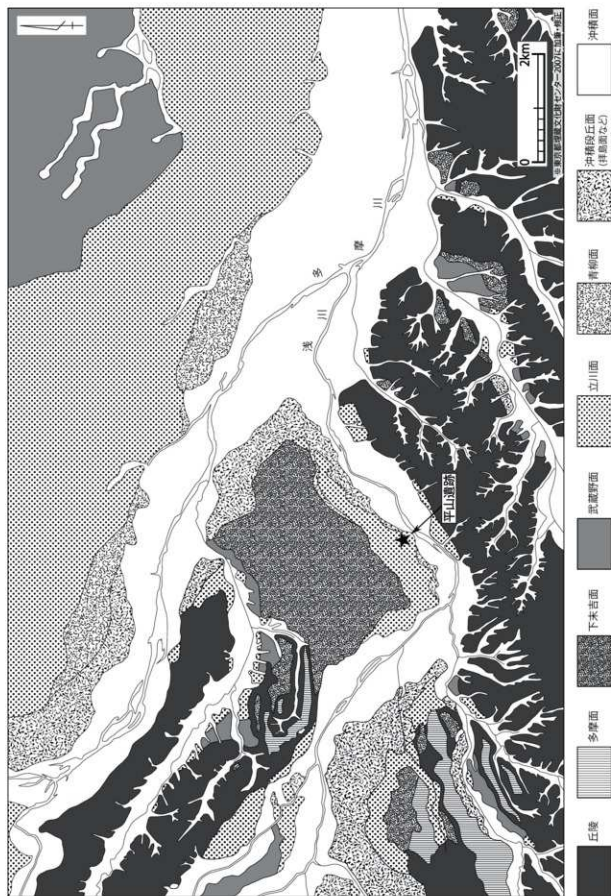
平山遺跡は、東京都日野市豊田二・三丁目、東平山二・三丁目、西平山一・三・四丁目に所在する。平山遺跡は JR 豊田駅の南から南東、京王線平山城址公園駅の北から北西に位置し、浅川の左岸に立地する。遺跡の範囲は東西約 1.9km、南北約 1.3km と広く、JR 中央本線の線路と浅川に挟まれた場所に展開する。

平山遺跡が所在する日野市は東京都のほぼ中央に位置し、市域の南は多摩市、西は八王子市、北から東にかけては多摩川を挟み昭島市、立川市、府中市の各市と接する。市域北部から西部にかけては JR 中央本線、市域南部には京王線がそれぞれ走り、市域を南北に貫くように多摩都市モノレール線が通っている。また、市域を横断するように中央自動車道や一般国道 20 号が通っている。都心部へのアクセスが比較的容易であり、日野市はベッドタウンとして発展してきた歴史がある。

日野市の地形を概観すると、市域の北から東を流れる多摩川と市域南部を流れる浅川があり、市域の北西部を占める日野台地、多摩川や浅川により形成された沖積地、市域南部には多摩丘陵が連なる等、地勢豊かな土地であることが分かる。日野台地は多摩川とその支流である浅川や谷地川に挟まれた位置にあり、その西側は加住丘陵、秋留台地、草花丘陵を経て、その先は関東山地へと続く。日野台地の南東側には段丘崖を境にして 4 段の段丘面が形成され、上位から日野台面、多摩平面、豊田面、栄町面である。栄町面の下位には多摩川や浅川による氾濫低地が広がる。日野台面は最上位の段丘面で、西から東へ緩やかに傾斜する。日野台面の下位には多摩平面、その下位には豊田面が位置する。いずれの段丘面も基盤層は上総層群で、その上に段丘砂礫層があり、それを覆うように関東ローム層（立川ローム層）が堆積する。各段丘面に堆積する関東ローム層の厚さには差異があり、日野台面では 15m 前後、多摩平面では 10～13m、豊田面では 3～4m と、下位の段丘面ほど関東ローム層の層厚が薄くなっている。栄町面の段丘構成層を確認できる露頭はないものの、多摩川沿いの各地点の柱状図から表面は層厚 2m 前後以下の粘土層や砂層、その下位に段丘砂礫層があり、砂層～粘土層の上総層群となることが分かっている。角田清美氏は、日野台面は南関東の下末吉面、及び武蔵野台地北東部の成増面、多摩平面は南関東の小原台面、豊田面は多摩川中流の立川Ⅱ面、栄町面は拝島面にそれぞれ対比している（角田 2012）。

地質学的に見ると、平山遺跡は中位河岸段丘である豊田面に立地する。その上位にある日野台面や多摩平面付近は地質学的に複雑な部分があるようで、日野台面及び多摩平面に対比する面の解釈が分かれている。鈴木毅彦氏（鈴木 2000）や羽鳥謙三氏等（羽鳥他 2001）は武蔵野面に比定し、『南広間地遺跡』では「下末吉面 or 武蔵野面（M1）」（渋谷他 2003）とされ、『平山遺跡—大型四面廂建物跡の保存目的発掘調査〔HY81〕』では「日野台地は下末吉面又は武蔵野面」（宮本他 2020）と記載している。本報告では、東京都埋蔵文化財センター発掘調査報告第 368 集『平山遺跡その 1』を踏襲し、第 10 図のとおり下末吉面とした。

日野市域の地形を述べるうえで欠くことができないのが湧水である。昭和 30 年頃までは、台地の



段丘崖や丘陵の裾部のみならず、平地にも豊富な湧水が存在していた。日野台地以外では掘れば必ず井戸水が出るとされ、浅川流域の平山・百草・程久保・高幡・南平・宮・豊田・川辺堀之内・上田には一年中水が自噴する掘抜井戸が各所にあったという。日野市内の湧水は台地にある崖線型の湧水と、丘陵地にある谷戸型の湧水に大別される（法政大学エコ地域デザイン研究所 2010）。日野台地の日野台面、多摩平面、豊田面の各段丘面の崖線から湧出するのは崖線型の湧水で、谷戸型の湧水は、谷戸の水源から湧き出すものと谷壁や河床から湧き出すものがある。人口増加に伴い、日野市域の宅地造成が進み、山林が失われたことにより雨水の浸透が少なくなり、湧水が減少した。それでも段丘崖や丘陵地の湧水が市域の各地に残り、黒川湧水、中央図書館下湧水、小沢緑地の3箇所の湧水が東京の名湧水 57 選に選出されている。

2 歴史的環境

日野市域における遺跡の分布状況を見ると、多摩川の右岸や浅川の左岸をはじめ、多摩丘陵の裾部に遺跡が集中する傾向が窺える。特に浅川左岸の台地や低地には、平山遺跡、吹上遺跡や山王上遺跡、神明上遺跡や南広間地遺跡といった広範囲に及ぶ遺跡が密度濃く分布する。平山遺跡の範囲には、平山古墳群や西平山古墳群、日野市№45 遺跡も含まれている。ここでは、第11図・第2表に記載した日野市域の遺跡を中心に平山遺跡とその周辺の歴史的環境について概観する。

日野市域で確認されている旧石器時代の遺跡は少ない。神明上遺跡では、ハードルームから直径約2mの範囲に焼礫と石器の分布が確認された。礫群の周辺には細かい炭化物が集中しており、火を使用した痕跡と考えられる。石器は石核、台石、剥片であり、二次加工が施されたものは含まれていない。平山遺跡においても、平成28～30・令和3年度調査地点（本報告）で遺物集中部を1箇所検出していて、それについては第IV章で詳述する。

縄文時代早期の遺跡としては神明上遺跡があり、複数次の発掘調査で集石炉や竪穴状遺構が発見されている。柱穴や炉、床面等が確認されず、住居と断定できないため竪穴状遺構とされているが、規則的に造られた複数の集石炉や、その周辺に縄文土器や石器、焼礫が広く散在すること、出土した縄文土器の型式が二期混在すること等から、長期間生活が営まれたと想定されている。

縄文時代前期では、平山遺跡の平山橋北西の調査地点で、黒浜式期の竪穴建物跡が検出されている。

縄文時代中期になると集落の様相が大きく変容し、遺跡数が急激に増加する傾向が見られる。当該期の遺跡は崖線からの湧水がある台地上に多く分布し、吹上遺跡、七ツ塚遺跡、平山遺跡等が挙げられる。台地のみならず、多摩川の氾濫原に形成された微高地にも当該期の集落は営まれており、神明上北遺跡で竪穴建物跡等が確認されている。

遺跡数が爆発的に増加した縄文時代中期から一転して、縄文時代後期にはその数が激減する。当該期の遺跡では、南広間地遺跡と川辺堀之内遺跡がある。川辺堀之内遺跡では称名寺Ⅰ式期の敷石住居跡が発見された。本来は柄鏡形を呈するが、柄の部分に当たる出入口部分は後世の用水路敷設により壊されたと考えられる。発掘調査で確認された敷石住居跡は1軒だが、浅川の低位段丘面の縁辺部に複数の敷石住居が分布していた可能性が想定されている。

日野市域において弥生時代の集落の成立が確認できるのは、弥生時代終末期以降である。それ以前では散発的に土器が出土するのみで、明確な生活の痕跡は認められない。特異な事例として平山遺跡



第11図 周辺の遺跡(1/25,000)〔国土地理院電子地形図25000と『東京都遺跡地図』を合成、加筆〕

番号	遺跡名	遺跡番号	所在地	種別	遺跡の概要	時代
1	平山	日野市№22	豊田二丁目、 東平山→三丁目、 西平山→三丁目	集落・古墳・墳墓	[旧]ユニット[関]竪穴建物跡・集石・土坑・朽木(弥) 竪穴建物跡・方形周溝墓[古]竪穴建物跡・古墳[奈] [平]孤立柱建物跡・横穴[ビット][中]地下式墳	[旧][縄早・中][弥 後][古][奈][平] [中]
2	平山古墳群	日野市№23	東平山一丁目	古墳	[古]円墳・横穴式石室・周溝	[古]
3	日野市№45	日野市№45	東平山一丁目	古墳	[古]横穴式石室	[古]
4	西平山古墳群	日野市№48	西平山三丁目	古墳	[古]周溝石室	[古]
5	吹上	日野市№18	東豊田三丁目	集落	[縄中]竪穴建物跡(弥後)[吉][奈][平]	[縄中][弥][古][奈] [平][中]
6	日野市№19	日野市№19	東豊田三丁目	古墳	[古]円墳・周溝	[古]
7	日野市№20	日野市№20	東豊田一丁目	集落	[奈][平]竪穴建物跡・溝	[奈][平][中]
8	川辺堀之内	日野市№17	川辺堀之内	包蔵地	竪穴建物跡・ピット・集石・土坑・溝・柱穴・落し穴	[縄前～中][平][中]
9	山王上	日野市№50	東豊田六丁目	集落	[縄上]横穴・ピット・竪穴建物跡(平)孤立柱建物跡・溝・竪穴建物跡	[縄上][奈][古][中]
10	日野市№51	日野市№51	多摩平三丁目	集落	[旧]石器ブロック[縄上]土坑・ピット[平]竪穴建物跡・土坑	[旧][縄早～前後] [古][奈][平][中]
11	神明上	日野市№6	神明一～四丁目、 大坂上三四丁目、 多摩平七丁目	集落	竪穴建物跡・孤立柱建物跡・土坑・集石・溝	[旧][縄早～中][弥 古][奈][平][中]
12	梵天山横穴墓	日野市№11	神明一～二丁目	横穴墓		[古][奈]
13	平山古墳穴	日野市№24	旭が丘一丁目	横穴墓		[古]
14	平山古墳穴	日野市№53	旭が丘一丁目	横穴墓		[奈][平]
15	坂内横穴墓	日野市№6	大坂上一丁目	横穴墓		[奈][平]
16	日野市№7	日野市№7	日野本町一丁目	横穴墓		[奈][平]
17	上人塚	日野市№52	日野台三丁目	その他(塚)		[平][中]
18	日野市№25	日野市№25	旭が丘五丁目	包蔵地		[旧]
19	日野市№13	日野市№13	大坂上一二丁目	包蔵地		[縄前～中][古][奈] [中]
20	七ツ塚	日野市№1	新町四・五丁目	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・土坑・溝	[旧][縄草創～後] [古][奈][平][中]
21	七ツ塚古墳群	日野市№2	新町五丁目	古墳	[古]横穴式石室	[古]
22	新町	日野市№3	新町三丁目	集落	[平]竪穴建物跡・土坑・溝	[平]
23	姥久保	日野市№47	新町一丁目	集落・その他(水田・墓地)	[古]竪穴建物跡(平)遺跡・水田[中]掘込跡・集石遺跡・井戸・土坑・地下式火葬窯跡(時代不明)孤立柱建物跡	[縄前～中][古][奈] [平][中]
24	栄町	日野市№4	栄町二丁目	集落	[平]竪穴建物跡・孤立柱建物跡・土坑・集石・溝[中] 集石遺跡・横穴式遺跡	[縄前～後][平][中] [中]
25	四ツ谷前	日野市№46	栄町一丁目	集落・社寺	[奈][平]竪穴建物跡・土坑・道路[平]溝[中][近] 井戸・土坑・溝、水田・掘込跡・配石溝・地下式土壇 [中]土壇・火葬窯・道路	[縄][古][奈][平] [中]
26	加賀塚	日野市№44	栄町一丁目	塚		[中]
27	小宮町・栗の須	八王子市№79	小宮町	集落	[縄]集石・掘し穴[奈]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡・集石[中]孤立柱建物跡・竪穴建物跡・井戸・土坑・炭焼土坑・溝	[縄早～中][古][奈] [平][中]
28	石川	八王子市№480	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・朽木・土坑	[縄早～後][弥][古] [奈][平][中]
29	塚場	八王子市№110	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・朽木・掘し穴土坑・配石土坑[古]竪穴建物跡・孤立柱建物跡[中]孤立柱建物跡・横穴式遺跡・ピット・井戸・土坑・炭焼土坑・溝・溝・孤立柱建物跡・溝・遺跡[古]古代土坑	[縄早～後][古][奈] [平][中]
30	第八小学校裏	八王子市№109	石川町	集落	[古]竪穴建物跡[古]近]孤立柱建物跡	[縄早～後][古][奈] [平][中]
31	西野	八王子市№108	石川町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・土坑・土壇[古]竪穴建物跡・溝・遺跡・泉源	[縄早～後][古][奈] [平][中]
32	石川天野	八王子市№734	石川町、大谷町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・朽木・土坑・土坑[奈]竪穴建物跡・土坑・方形周溝・溝・溝・遺跡[古]竪穴建物跡・横穴・土坑・溝	[旧][縄早～後][弥] [古][奈][平][中]
33	下郡地	八王子市№733	大谷町	集落	[旧]ユニット[縄]集石・朽木・土坑[平]竪穴建物跡[近]土物	[旧][縄早～後][古] [平][中]
34	北大谷・春日台	八王子市№101	大谷町、宇津木町、石川町	集落	[縄]集石・朽木・土坑[弥]竪穴建物跡	[旧][縄早～後][弥] [古][奈][平][中]
35	富士見町	八王子市№978	大谷町	墳墓	[縄]土坑[弥]方形周溝[縄]時代不明土坑・ピット	[縄]弥後
36	大和田横穴墓群	八王子市№657	北野町二四・五丁目	横穴墓		[古]
37	北野(北野小学校校庭)	八王子市№175	北野町	集落	[縄]敷石住居	[縄中～後]
38	打越中谷戸	八王子市№731	打越町	集落	[縄]竪穴建物跡・集石・土坑[弥]竪穴建物跡[平]竪穴建物跡・横穴・土坑[近]土坑・溝・土壇	[縄早・中][弥][平] [中]
39	打越大畑	八王子市№991	打越町	集落	[縄]土坑[平]竪穴建物跡	[縄早～後][平]
40	長沼	八王子市№500	長沼町	城郭	[中]堀・城郭	[中]
41	平山氏館	日野市№26	平山五丁目	城郭	[中]平山氏館	[中]
42	平山氏館及び平山城跡	日野市№27	平山六丁目	城郭	[中]腰曲輪・虎口	[中]
43	平山城跡	八王子市№521	堀之内	城郭	[中]腰曲輪・虎口・土塁	[中]
44	堀之内地区№34	八王子市№396	堀之内	集落		[縄早～中][平][中]

— 19 —

が挙げられる。古墳時代前期に造られた古墳周溝内から、弥生時代前期の壺が出土した。壺の頸部から胴部にかけてに条痕文が施され、東海地方の水神平式と考えられる。周溝内から同時期の遺物は出土していない。

日野市域で弥生時代の集落が本格的に営まれるのは、弥生時代終末期から古墳時代前期にかけてである。当該期は集落に加え、方形周溝墓による墓域が集落の周辺に形成される特徴が見られる。当該期の遺跡として、神明上遺跡や平山遺跡、吹上遺跡等が挙げられる。平山遺跡の当該期の竪穴建物跡の分布は豊田三丁目や東平山一丁目、西平山三丁目等各地点で確認され、方形周溝墓は平山橋の北西にあたる地点で4基検出されている。近年の発掘調査では、本報告の調査地点の北側で行われた発掘調査で複数の方形周溝墓が見つかり、平山橋北西の方形周溝墓群とは別の方形周溝墓群の存在が想起される。神明上遺跡では、広大な遺跡範囲のうち台地の東縁辺部沿いに当該期の竪穴建物跡が確認されている。

古墳時代になると多摩川中流域に古墳が造られるようになるが、日野市域でそれが確認できるのは古墳時代中期以降である。平山遺跡の範囲に所在する平山古墳群では、発掘調査により11基の古墳の存在が明らかになった。このうち2基の古墳は出土遺物から古墳時代中期の築造であることが分かり、他の2基の古墳についても古墳時代中期の可能性が考えられている。これらの古墳はいずれも墳丘が削平されていて埋葬施設が確認できた事例はないが、古墳時代中期の古墳は竪穴系の埋葬施設が想定されている。平山古墳群では、古墳時代中期から後期にかけて相次いで古墳が築造された。古墳時代後期の古墳は河原石を用いた横穴式石室を内包し、玄室は胴張り形を呈する。七ツ塚古墳墳では、砂岩を用いた横穴式石室を埋葬施設とする円墳が1基発見されている。胴張り形の玄室や、軟質な石材を用いる点は、南武蔵地域の横穴式石室に共通して見られる特徴である。七ツ塚古墳群では人物埴輪が出土していて、日野市域で唯一の出土例として特筆される。

日野市域における古墳時代の特徴として、台地斜面に構築された横穴墓群が挙げられる。神明上遺跡には、西坂横穴墓群、梵天山横穴墓群、谷ノ上横穴墓群をはじめ、神明上遺跡第62次調査で発見された横穴墓群、日野バイパス改築工事に伴う発掘調査で発見された横穴墓群が含まれ、日野台地の縁辺部に点々と横穴墓が構築されたことが明らかになっている。なお、日野バイパス改築工事に伴う発掘調査の調査範囲内には、谷ノ上横穴墓群や神明上遺跡第62次調査の横穴墓群が包括されている。これらの横穴墓の位置や分布状況を精査したところ、谷ノ上横穴墓群の1号横穴墓と4号横穴墓は日野バイパス改築工事に伴う発掘調査のK区4号横穴墓、L区2号横穴墓と同一であることが確実になった。

神明上遺跡第62次調査では3基の横穴墓とともに、いわゆる「L字状土壌」が3基発見された。L字状土壌は「平面形は確認面において隅丸長方形を呈し、断面形態においてはL字状を呈する」遺構のことであり（日野市遺跡調査会1986）、古墳時代から奈良・平安時代にかけての墓の一形態だと考えられている。日野バイパス改築工事に伴う神明上遺跡の発掘調査においても、横穴墓が構築された同じ斜面上に4基のL字状土壌が等高線に沿って分布する状況が確認された。L字状土壌に関しては、神明上遺跡のように横穴墓の分布域あるいはその周辺に構築された事例や、古墳周溝の内側や外側に接するようにして掘り込まれた事例が確認されている。後者の事例としては平山遺跡があり、本報告調査地点の古墳周溝に接するようにして構築されたL字状土壌を検出した（第IV章参照）。

古墳時代の集落については、吹上遺跡や平山遺跡で確認されている。吹上遺跡では古墳時代前期や中期の竪穴建物跡が検出されているものの、同時期の古墳群を造営した集落と捉えるには規模が小さいと考えられる。

奈良・平安時代になると、武蔵国府の成立を契機として、日野市域の各地で集落の形成が本格化する。日野台地に立地する神明上遺跡や山王上遺跡では、8世紀に入ると集落の形成が活発化する。神明上遺跡では両側に側溝を伴う区画溝をはじめ、竪穴建物跡や掘立柱建物跡が多数検出され、計画的に形成された大規模な集落であることが明らかになった。近年の調査成果では、奈良・平安時代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡、区画溝とともに検出された木棺直葬墓が特筆される。土壌からは副葬品として緑釉陶器の平瓶が出土し、墓域は9世紀後半代の所産とされる。山王上遺跡では8世紀第二半期以降に集落の形成が始まり、9世紀にかけて竪穴建物跡と掘立柱建物跡で構成される集落が継続的に営まれたことが明らかになっている。平山遺跡でも奈良時代から平安時代にかけての集落が段丘の平坦部に営まれていたことが把握されていたが、近年の土地区画整理事業に伴う発掘調査により、段丘の裾部や低位段丘面にまで集落域が広がることが判明した。それを受けて、令和5年3月31日付で平山遺跡の包蔵地範囲の一部が拡大された。平山遺跡の調査成果で最も特筆すべきは、西平山地区で発見された大型四面廂建物跡（16U-1号掘立柱建物跡）である。平成23年度に行われた土地区画整理事業に伴う発掘調査で、廂の南西隅の柱穴4基が確認されたのが発端である。その後、平成26年度の発掘調査で掘立柱建物の西半分の状況が把握され、最終的には桁行5間（20.1m）×梁行2間（11.2m）の身舎の四方に廂を有する大型四面廂掘立柱建物跡であることが明らかになった。この規模は武蔵国府正殿に次ぐ規模であり、その重要性が考慮され、遺構は現地にて保存されている。

日野市域における奈良・平安時代の各種遺構の中で、着目したいのは「円形有段遺構」である。円形有段遺構とはその名の通り円形の平面形で、断面形が楕円状を呈する遺構である。日野市域では七ツ塚遺跡、神明上遺跡で確認され、平山遺跡の東平山地区で行われた土地区画整理事業や日野バイパス整備事業に伴う発掘調査でも相次いで発見されている。遺構の用途としては、氷の貯蔵施設である氷室をはじめ、穀物等の貯蔵施設、祭祀の場、燈籠等の諸説があるが、日野市域における円形有段遺構の分布と湧水点との位置関係等から、氷室である可能性が想定されている。

平安時代末から鎌倉時代にかけての日野市域の様相について、発掘調査成果からそれを把握するには情報が乏しいのが現状である。中世の遺跡としては、吹上遺跡、平山遺跡、川辺堀之内遺跡、神明上遺跡、姥久保遺跡、四ツ谷前遺跡等があり、地下式坑をはじめとする各種の遺構や遺物が確認されている。平山遺跡の南東約1kmにある平山氏館や平山館及平山城跡には、鎌倉幕府成立期に活躍した平山季重に由来する痕跡が残されている。平山地区は平山季重が本拠地とした場所であり、現在の京王線平山城址公園駅南側には市指定史跡平山季重居館跡の看板が掲示されている。『新編武蔵風土記稿』によれば、この辺りは曹洞宗大福寺があった場所であり、平山季重の居館があったと伝承されている。大福寺は平山季重開基と伝えられ、明治の廃仏毀釈により廃寺となった。大福寺にあった平山季重の墓（五輪塔）は宗印寺に移され、現在は東京都指定旧跡である。平成19年に行われた平山氏館の発掘調査では、鎌倉時代、江戸時代、明治から昭和にかけての遺構や遺物が発見された。鎌倉時代の痕跡としては、溝や土坑、12世紀後半から13世紀初頭の青磁や土器等がある。（小西）

Ⅲ 層序

当調査地点における層序の特徴を記載する（第12～16図）。

地形的には、当調査地点は段丘平坦面に位置しているが、調査区中央に設定した土層観察用の東西ベルトを基準にすると、調査開始時の地表面での東西約260mの比高差は約1.7mで、西側の標高が高く、東側の崖線に向けて緩やかに下降していることが分かる。また、関東ローム層VS層上面では調査区西寄り（第13図調査区東西ベルト⑩付近）で谷地形が確認でき、調査区西端と最深部の比高差は約1.6mを測り、17m東の同⑩付近では、最深部より0.6mほど高くなっている。この谷は、Ⅱ2～Ⅱ1層が堆積する頃には概ね埋没している。

基本的には2022年度報告の層序に準拠するが、本報告ではⅠ～Ⅲ層を細分した。

Ⅰ1層 10YR3.5/1 褐灰色土層 直径2mm以下のにぶい黄褐色スコリア（10YR5/4）～明黄褐色スコリア（10YR6/6）（以下、にぶい黄褐色スコリアで表記）10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%未満を含む。締まり有り、粘性に欠け、粒子は極めて粗く砂質。Ⅰ2層よりもわずかに明るい。近世以降の旧表土（耕作土を含む）。

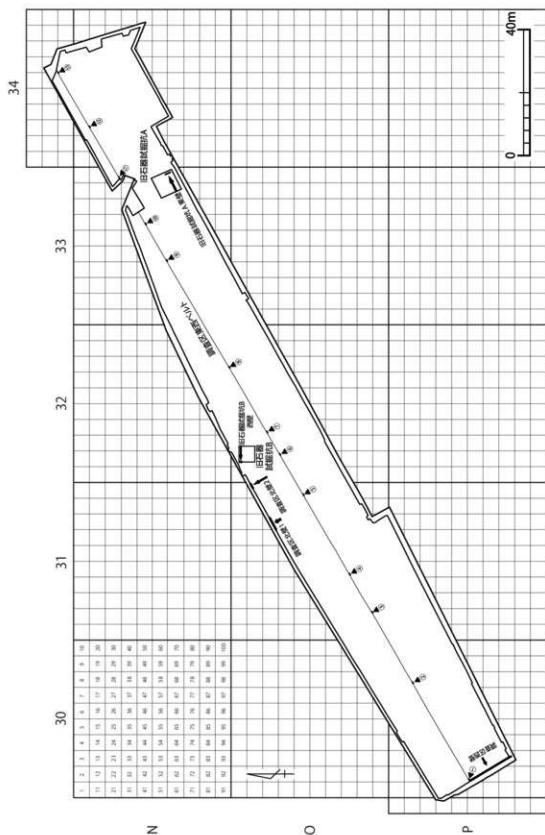
Ⅰ2層 10YR3.5/1 褐灰色土層 直径2mm以下のにぶい黄褐色スコリア10%、直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%未満、直径70mm以下のⅡ層土ブロック1%を含む。締まりはⅠ1層より弱、粘性に欠け、粒子は粗く砂質。近世以降の旧表土（耕作土を含む）もしくは遺構の覆土。

Ⅱ層 10YR1.7/1 黒色土層 直径2mm以下のにぶい黄褐色スコリア10%、直径2mm以下の橙色スコリア（2.5YR6/8）1%未満、直径3mm以下の黒色スコリア（N2/1）15%を含む。締まりやや弱、粘性わずか、粒子は極めて粗い（ただし、ベース土は細かい）。古墳時代から古代の包含層。調査区東側ではⅡ1、Ⅱ2層に細分されるが、西側では分離できなかった。また、310グリッド付近の一部（同調査区東西ベルト④等）では、Ⅱ層上部に、Ⅱ層より黒味が有りにぶい黄褐色スコリア・黒色スコリアが少ない、古代～中世の包含層が見られた。

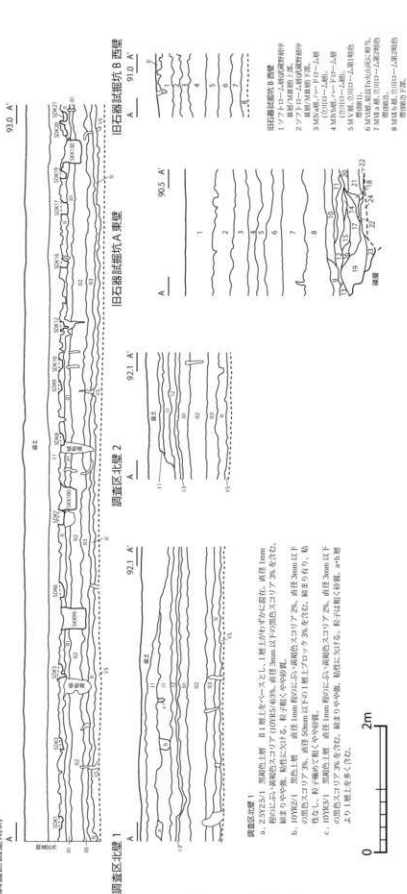
Ⅱ1層 10YR1.7/1 黒色土層 直径1mm前後のにぶい黄褐色10%、直径2mm以下の橙色スコリア（7.5YR6/6）1%、直径4mm以下の黒色スコリア15%、直径3mm以下の焼土ブロック1%を含む。締まりやや弱、粘性なし、粒子は極めて粗い。Ⅱ2・3層に比べ黒味が有るものの、Ⅱ2層土に比べ黒色スコリアの含有量は少ない。

Ⅱ2層 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm前後のにぶい黄褐色スコリア15%、直径2mm以下の橙色スコリア1%、直径4mm以下の黒色スコリア15%、直径1mm以下の灰白色粒子7%を含む。締まり有り、粘性ごくわずか、粒子は極めて粗い。Ⅱ1層に比べ、にぶい黄褐色スコリアを多く含み、黄味がある。

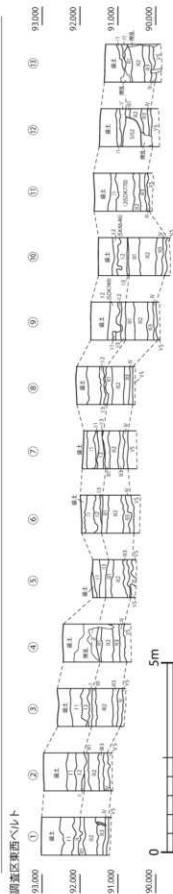
Ⅱ3層 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 直径1mm前後のにぶい黄褐色スコリア15%、直径3mm以下の橙色スコリア2%、直径3mm以下の黒色スコリア5%、直径1mm以下の灰白色粒子5%、Ⅲ1層土のブロック状に遊離したもの（直径20mm以下）30%を含む。締まり有り、粘性弱、粒子はやや粗い。Ⅱ1層に比べ、にぶい黄褐色スコリアを多く含み、黄味がある。Ⅲ層最上部にⅡ層を構成するスコリアが浸潤したようにも見えるが、多摩ニュータウン遺跡群のⅡγ相当層の



第 12 図 土層断面・試掘坑位置図 (1/1,200)



第 13 図 基本層序 (1)(1/60・1/100)





1. 基本層序 2-3 区北壁 (南南東から)



2. 土層断面 2-3 区北壁 (南南東から)



3. 土層断面 2-2 区西壁 (東北東から)



4. 土層断面 2-2 区東西ベルト (南南東から)



5. 土層断面 2-5 区東西ベルト (南南東から)

第 15 図 調査区土層断面



1. 旧石器試掘坑 A 東壁 土層断面 (西南西から)



2. 旧石器試掘坑 B 全景 (南南東から)



3. 旧石器試掘坑 B 西壁
土層断面 (東から)

第 16 図 調査区試掘坑

IV 遺構と遺物

今回の調査において検出された遺構・遺物は、以下のとおりである。

《旧石器時代》

遺構 遺物集中部1箇所

遺物 石器（細石刃、石核、スクレイパー、楔形石器）、礫

《縄文時代》

遺構 竪穴状遺構1基、集石1基、礫集中1箇所、土坑8基、ピット2基

遺物 土器〔早期前半～後期前半〕、土製品（土製円板、土偶、土鈴）、石器（尖頭器、石鏃、石匙、剥片、二次加工剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、敲石）、礫、炭化材

《弥生時代～古墳時代前期》

遺構 竪穴建物跡17軒、竪穴状遺構2基、方形周溝墓1基、土坑6基、ピット7基

遺物 土器〔前期、弥生時代終末期～古墳時代前期〕、石器・石製品（敲石・石杵・磨石・砥石・編物石・台石・石製垂飾）、金属製品（鉄鏃）、炭化材、炭化種実

《古墳時代中期～後期》

遺構 古墳1基、土坑2基

遺物 土師器

《古代》

遺構 竪穴建物跡21軒、掘立柱建物跡3棟、ピット140基、溝3条、土坑110基、集石2基、焼土跡3基

遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器、土製品（紡錘車、管状土垂）、石製品（台石、磨石、砥石、有孔石製品）、金属製品（板状青銅製品、鉄鏃、刀子、穂摘具、鉄釘）、鉄滓、炭化材、炭化種実

《中世》

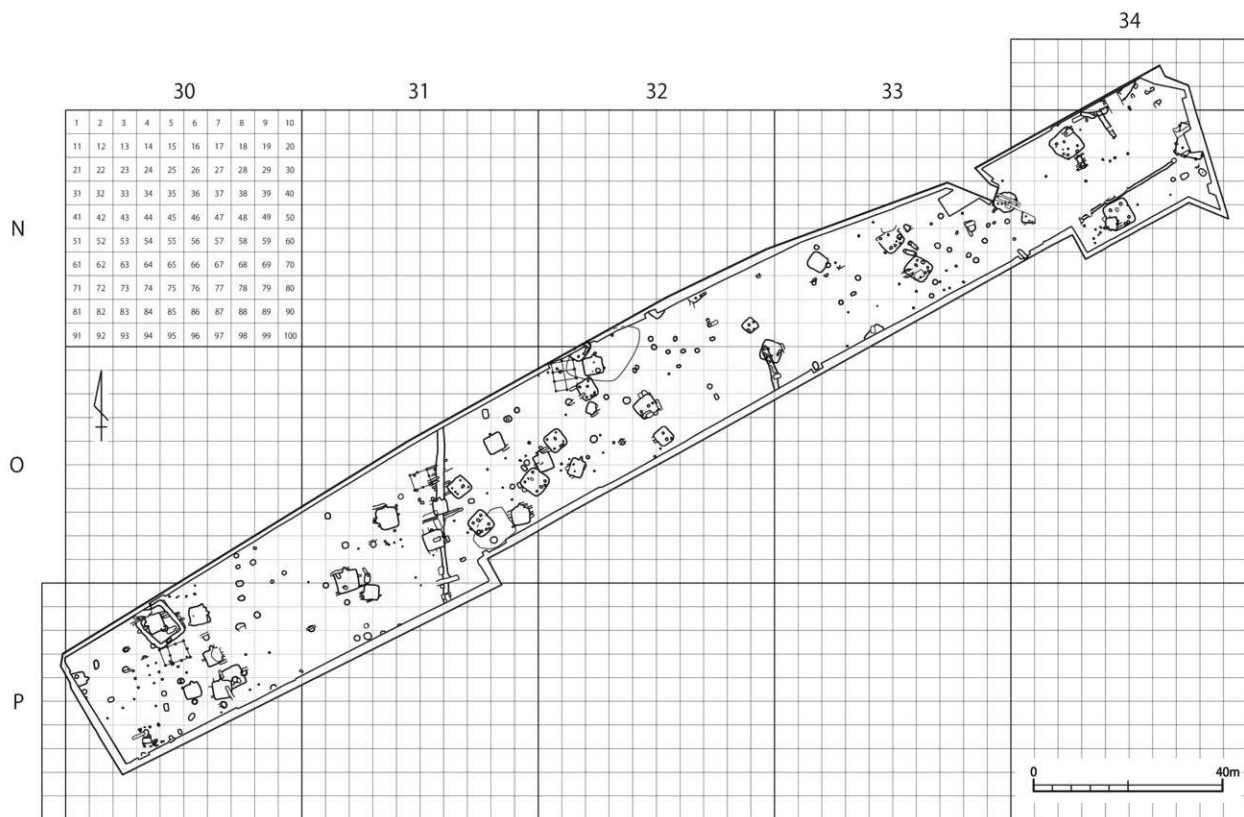
遺構 道路跡1条、土坑1基

遺物 陶器（皿、鉢類、すり鉢、片口鉢、碗、天目茶碗、壺、甕）、磁器（青磁）、石製品（磨石）、銭貨（嘉祐元宝、熙寧元宝、淳熙元宝）、炭化種実

《近世以降（現代を除く）》

遺構 溝1.035条、土坑737基、ピット18基、埋甕1基

遺物 陶磁器、土器類、土製品、石製品（砥石、蠟石）、金属製品（煙管、火打金、銭貨等）



第 17 図 縄文時代～中世遺構全体図 (1/800)

1 旧石器時代

今回の調査では、33N-60・70 グリッドを中心に遺物集中部 1 箇所が検出された。調査に際しては旧石器遺物にも十分注意が払われ、試掘坑による探索も行われたが、遺物が纏まって出土したのはこの範囲のみであった。したがって、本遺物集中部は、この周辺においてスポット的に残された活動地点であったとみられる。

1) 1号遺物集中部(第18～20、29、30図)

石器と礫、そして炭化物からなる。石器と礫の分布範囲は、南北約 6.0m、東西約 5.5m である。炭化物は、南北・東西ともに約 7.7m の範囲に広がる。33N-60 グリッドから同 70 グリッドにかかる範囲に石器と礫が密集する。出土層位は、2 層(立川ロームⅣ層相当)上部から 1 層(同Ⅲ層相当)下部を主体とする。垂直位置の度数分布をみると、石器は標高 89.70m～89.85m の区画の度数にあまり差がない分布を示す。礫の多くは標高 89.70m 付近に位置し、これは石器の極大範囲の下部にあたる。シャピロ・ウィルク検定の結果からはいずれも正規分布しないが(石器: $W=0.96075$, $p=0.00035$, 礫: $W=0.97195$, $p=0.00382$)、多峰性に関するシルヴァーマン検定では両者ともに単峰である(石器: モード 1: $p=0.08300$, 礫: モード 1: $p=0.77723$)。炭化物は標高 89.65m と 89.80m 付近に峰をもつが(モード 2: $p=0.19319$)、石器と礫の垂直分布範囲に概ね一致する。

石器総数は 145 点である。細石刃(69 点、47.6%)と剥片(70 点、48.3%)がそれぞれ半数近くを占め、その他にスクレイパー(3 点、2.1%)、楔形石器(1 点、0.7%)、石核(1 点、0.7%)等を含む。石器石材は黒曜石(125 点、86.2%)がほとんどを占め、その他にホルンフェルス(9 点、6.2%)、ガラス質黒色安山岩(6 点、4.1%)、細粒緑色凝灰岩(3 点、2.1%)等がある。

礫は総数 150 点である。これらは平面的な纏まりをもって出土しており、66 点(44.0%)が被熱により赤化し、15 点(10.0%)にスモしくはタール状の付着物が観察されることから、礫群と認定することが可能である。密集域を中心に多くの礫・礫片が接合している(16 個体、73 点)。

2) 遺物(第21～28図、第3～6表)

細石刃とした資料は 69 点である。このうち 6 点が折れ面で接合しており、総個体数は 66 個体となる。すべて黒曜石製である。完形・準完形 14 点、末端部側欠損 21 点、中間部 17 点、打面部側欠損 17 点である。完形・準完形のものでは、長さ 27.4～4.0mm (Avg.=13.9mm, SD=6.75)、幅 8.3～1.8cm (Avg.=4.7mm, SD=1.44) である。正面観は、上部から中間部にかけては両側縁が直線的かつ平行的で、末端に向かい先細り、側面観は片側縁に緩やかにねじれて内湾するものが多い(1～3・38・39等)。打面は平坦な単剥離面(1・3・4・8)と点状打面(2・7・22・26)がほとんどである。単剥離面打面のは、剥離開始部が幅を有してリップ状になる。先行剥離面のほとんどは主剥離面と同一方向だが、一部に逆行するものも認められる(34・46)。稜付は 4 点ある(2・18・37等)。微小剥離痕が観察されるものが 28 点あり(7・14・42等)、43 は彫器状剥離痕をあわせ持つ。

49 は黒曜石製の石核である。厚手・小型の剥片を素材とする。裏面全面に自然面を残す。平坦面を打面とし、細石刃状の剥片を剥離している。上下の小ぶりの剥離が対向しており、両極剥離による可能性もある。

50・52・53はスクレイパーである。すべてホルンフェルス製である。50は上部を欠損する。正面全面に自然面を残す。剥片遠端の右側の両面に小ぶりの二次加工を施して半急角度の刃部を形成している。52は下部をわずかに欠損する。自然面を残すやや縦長の剥片を素材とする。右側縁背面上に急角度の二次加工を施して鋸歯状の刃部を形成している。

51はガラス質黒色安山岩製の楔形石器である。裏面に自然面を大きく残す剥片を素材とする。正面において求心状に小型剥片を剥離している。最終的に両極剥離による上下の小ぶりの剥離が対向している。

54は、剥離痕跡のある礫である。砂岩製である。大ぶりの剥離により右側面が形成されている。右側面、裏面上部、下側面の左上部に小ぶりの剥離痕が認められる。本資料は被熱していないが、被熱により赤化し、黒色付着物のある礫と接合している。

石器の接合資料は、剥離面接合9個体(25点)、折れ面接合3個体(6点)の合計12個体(31点)が得られた。細石刃の折れ面接合(1-1~1-3)、細石刃・剥片剥離、石核の打面・側面調整、トウールの刃部形成・再生を示すものに大別できる。

1-4:細石刃剥離過程を示す。平坦打面から1を剥離し、打点を図上左側に移動して2を剥離している。

1-5:小型剥片の剥離過程を示す。

1-6:極小型剥片の剥離過程を示す。細石刃核の打面調整に関わる可能性がある。

1-7:縦長剥片の剥離過程を示す。礫の自然稜から1a+1b→2を剥離した後、打面を90度転移して小型剥片(3)を剥離している。3は石核の側面調整と考えられる。

1-8:剥片剥離過程を示す。自然面を大きく残す厚手剥片の腹面を打面として、まず1a+1bを剥離し、同時割れによって生じた1bから細石刃状の剥片を剥離している。その後、打点を左右に移動しながら、厚手縦長(3)、長方形状(4)の剥片を剥離している。3・4は発達した打痕を有し、打点部に明瞭な円錐体が観察される。

2-1:スクレイパーの刃部形成もしくは再生過程を示す。小ぶりの剥片(1)を剥離し、鋸歯状の刃部を作出している。

2-2:スクレイパーの刃部形成もしくは再生過程を示す。大ぶりの剥片(2)を剥離し、刃部を作出している。1の小ぶりの剥片剥離も刃部形成の可能性はある。

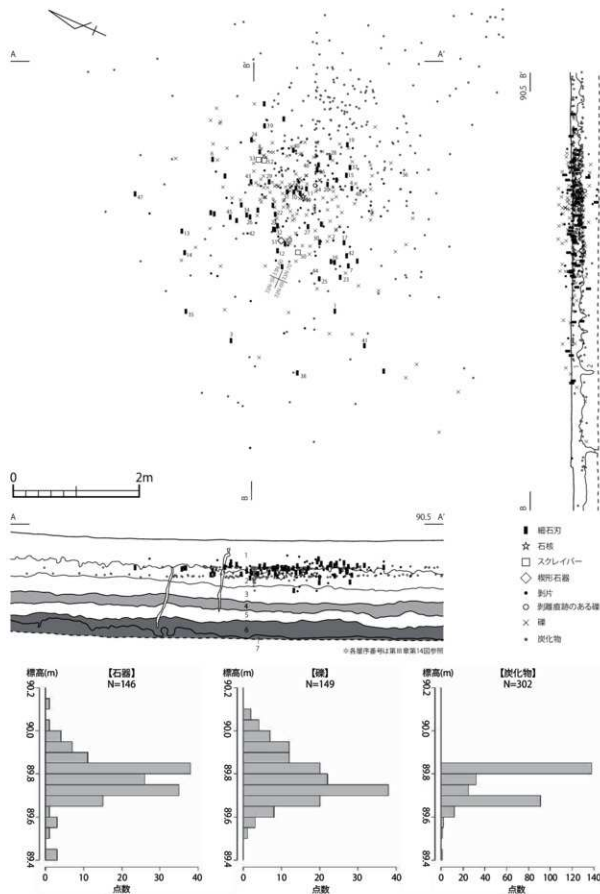
3-1:剥片剥離過程を示す。求心状石核(両極石器)の周囲から貝殻形状の剥片(1a+1b)を剥離している。

(尾田識好)

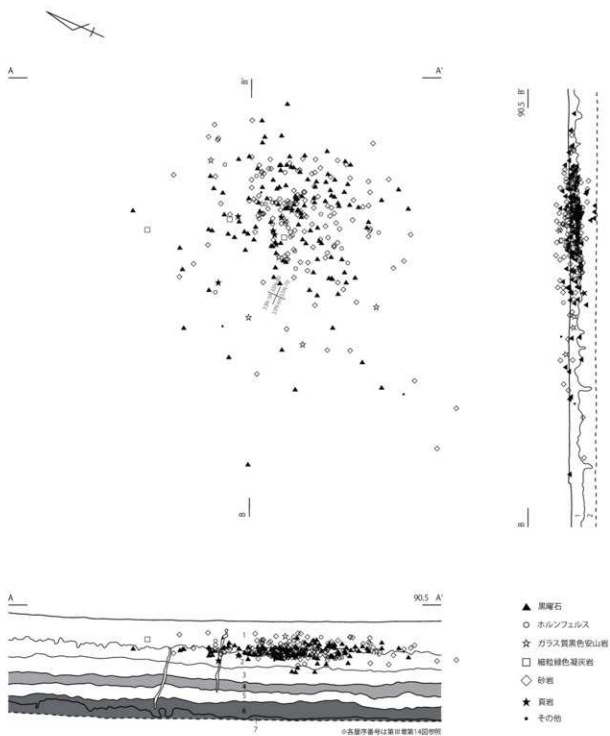
第3表 石器組成表

	黒曜石	ホルンフェルス	ガラス質黒色安山岩	緑泥質黒色安山岩	砂岩	頁岩	その他	合計
細石刃	69(69)							69
スクレイパー		3						3
楔形石器			1					1
二次加工剥片				1				1
剥片	55(54)	6	5(4)	2	2			70
石核	1							1
礫					1			1
剥離痕跡のある礫		4			132	9	4	149
合計	125	13	6	3	135	9	4	295

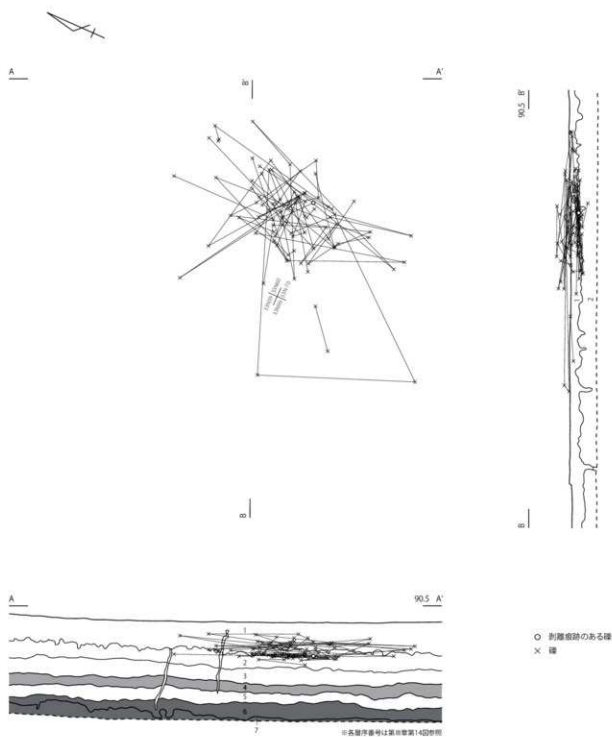
*括弧内は接合後の個体数



第 18 図 SBL1(1) 器種別分布図 (1/60) と遺物垂直位置の度数分布

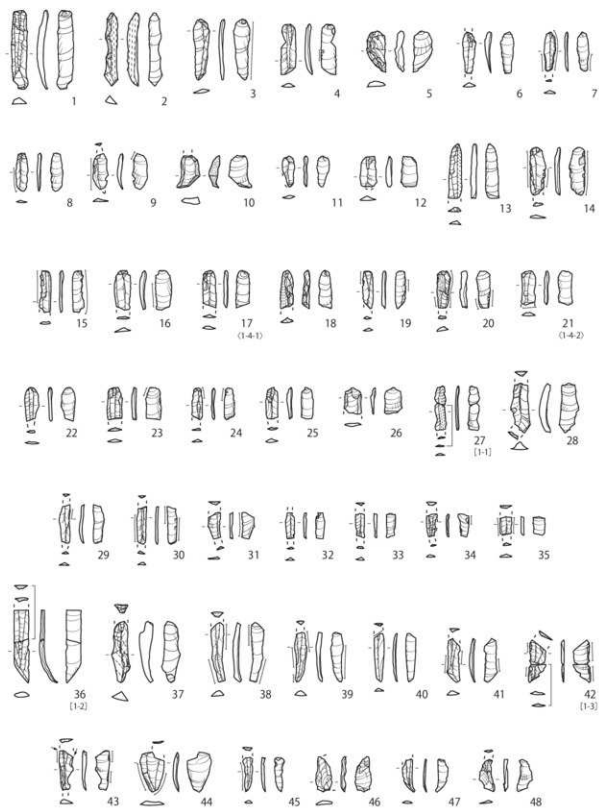


第19図 SBL1(2) 石材別分布図 (1/60)

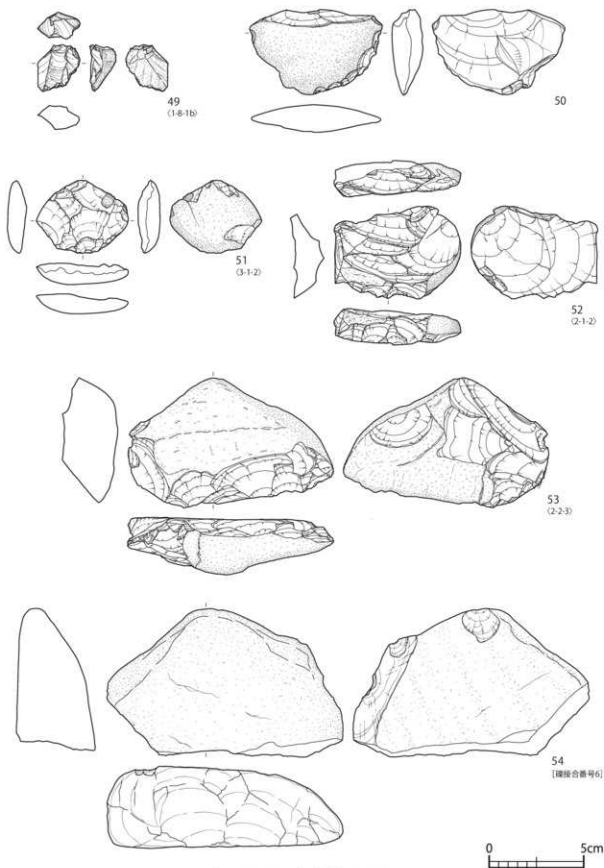


第20図 SBL1(3) 礫接合図(1/60)

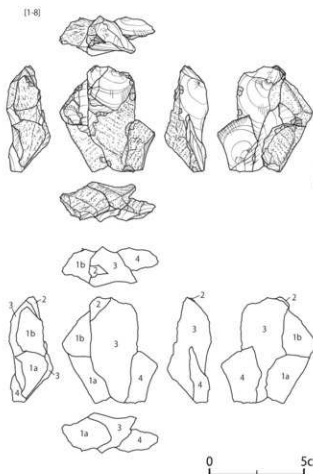
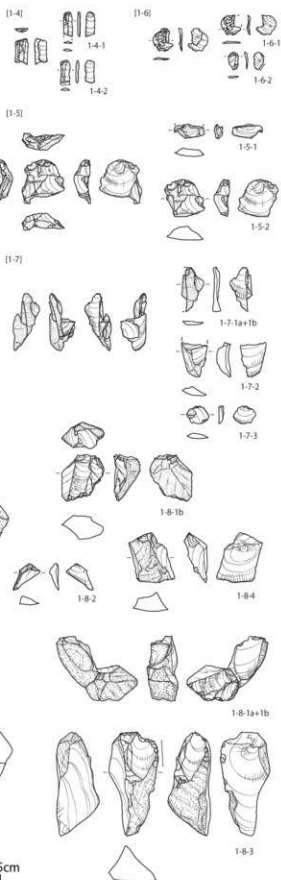
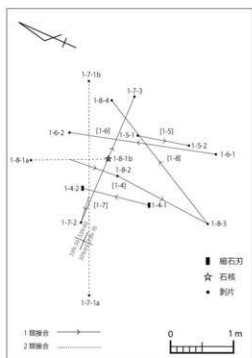
0 2m



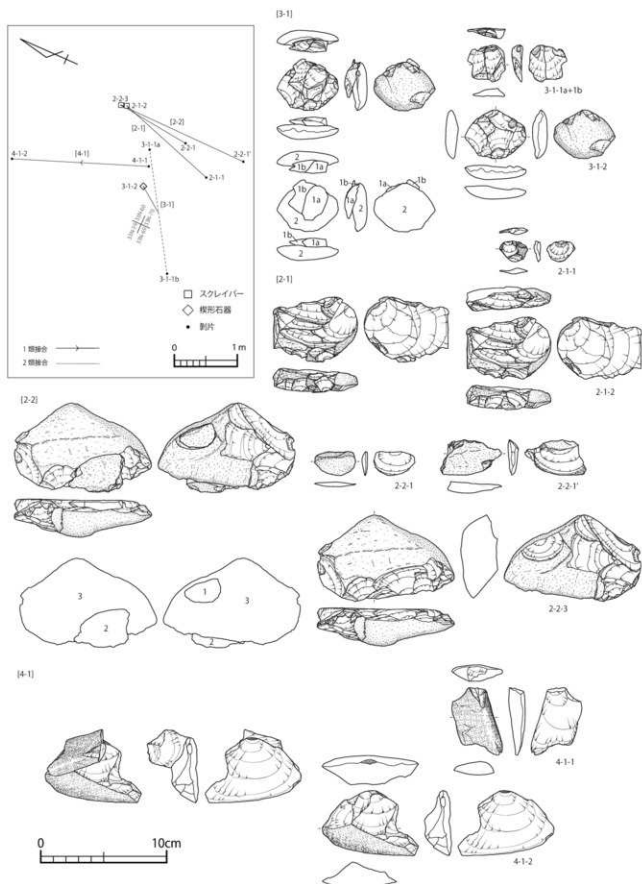
第21図 SBL1出土遺物(1)(3/4)



第22図 SBL1出土遺物(2)(1/2)



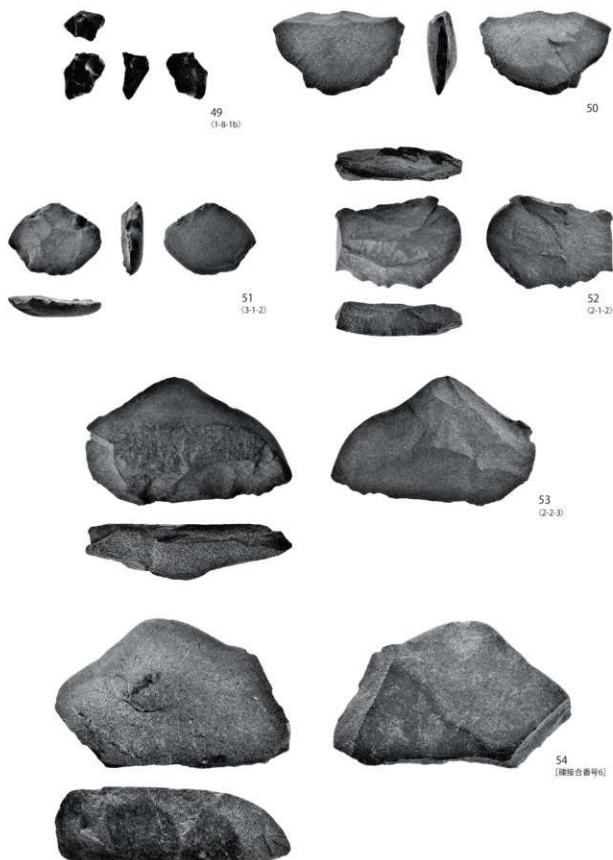
第23図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(1)(1/60・1/2)



第24図 SBL1石器接合分布図・石器接合個体(2)(1/60・1/3)



第 25 図 SBL1 出土遺物写真(1)



第 26 図 SBL1 出土遺物写真 (2)



第 27 图 SBL1 石器接合个体写真 (1)

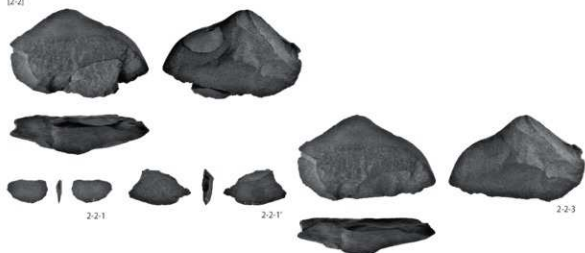
[3-1]



[2-1]



[2-2]



[4-1]



第 28 図 SBL1 石器接合個体写真 (2)

第4表 SBL1 出土遺物観察表(1)

遺物番号	遺物名称	発掘年度	発掘・観察	調査状況	石種	最大長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	表面	備考	図	Y	Z
SBL1-124	第2101	鎌倉市	宮前	宮前	27.4	5.2	2.0	0.3	×	×	表面・片側面	埋付	38431021	41031057	89180
SBL1-125	第2102	鎌倉市	宮前	宮前	25.3	4.5	2.0	0.3	×	×	表面・片側面	埋付	38430344	41040002	89180
SBL1-126	第2103	鎌倉市	宮前	宮前	20.8	5.5	1.2	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429704	41062002	89180
SBL1-127	第2104	鎌倉市	宮前	宮前	17.5	5.2	1.4	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38430477	41031217	89180
SBL1-128	第2105	鎌倉市	宮前	宮前	14.3	6.5	2.2	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38430872	41031435	89180
SBL1-129	第2106	鎌倉市	宮前	宮前	14.2	4.6	1.3	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429270	41031001	89180
SBL1-130	第2107	鎌倉市	宮前	宮前	13.5	3.7	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430325	41042004	89180
SBL1-131	第2108	鎌倉市	宮前	宮前	13.0	4.0	0.8	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429366	41031280	89180
SBL1-132	第2109	鎌倉市	宮前	宮前	12.3	5.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429441	41041071	89180
SBL1-133	第2110	鎌倉市	宮前	宮前	10.8	9.3	2.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429754	41031635	89180
SBL1-134	第2111	鎌倉市	宮前	宮前	10.5	4.1	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429822	41031515	89180
SBL1-135	第2112	鎌倉市	宮前	宮前	10.3	5.5	1.8	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429801	41041000	89180
SBL1-136	第2113	鎌倉市	宮前	宮前	10.5	4.2	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429287	41041031	89180
SBL1-137	第2114	鎌倉市	宮前	宮前	16.3	5.1	1.5	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38429404	41051225	89180
SBL1-138	第2115	鎌倉市	宮前	宮前	14.4	3.7	0.9	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430315	41031003	89180
SBL1-139	第2116	鎌倉市	宮前	宮前	13.5	5.5	1.3	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430702	41041401	89180
SBL1-140	第2117	鎌倉市	宮前	宮前	13.3	4.8	1.2	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430174	41041055	89180
SBL1-141	第2118	鎌倉市	宮前	宮前	13.2	4.2	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429867	41041453	89180
SBL1-142	第2119	鎌倉市	宮前	宮前	12.8	3.5	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430132	41021023	89180
SBL1-143	第2120	鎌倉市	宮前	宮前	12.4	4.4	1.7	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430099	41031217	89180
SBL1-144	第2121	鎌倉市	宮前	宮前	11.8	4.5	1.4	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429480	41041028	89180
SBL1-145	第2122	鎌倉市	宮前	宮前	11.5	5.0	0.9	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429333	41041006	89180
SBL1-146	第2123	鎌倉市	宮前	宮前	11.1	5.0	1.2	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430881	41041581	89180
SBL1-147	第2124	鎌倉市	宮前	宮前	10.9	3.8	1.1	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429709	41031130	89180
SBL1-148	第2125	鎌倉市	宮前	宮前	10.7	4.3	1.3	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430387	41041737	89180
SBL1-149	第2126	鎌倉市	宮前	宮前	9.0	5.6	1.10	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429184	41041288	89180
SBL1-150	第2127	鎌倉市	宮前	宮前	15.4	3.8	0.7	0.0	×	×	表面・片側面	埋付	38429603	41031572	89180
SBL1-151	第2128	鎌倉市	宮前	宮前	13.4	3.8	0.7	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430088	41041024	89180
SBL1-152	第2129	鎌倉市	宮前	宮前	17.5	7.0	2.5	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38429364	41021009	89180
SBL1-153	第2130	鎌倉市	宮前	宮前	13.5	4.0	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429234	41031654	89180
SBL1-154	第2131	鎌倉市	宮前	宮前	13.0	3.5	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429258	41041210	89180
SBL1-155	第2132	鎌倉市	宮前	宮前	9.5	4.5	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429660	41031044	89180
SBL1-156	第2133	鎌倉市	宮前	宮前	9.0	3.0	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429628	41041311	89180
SBL1-157	第2134	鎌倉市	宮前	宮前	8.5	3.2	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429700	41031619	89180
SBL1-158	第2135	鎌倉市	宮前	宮前	8.0	4.0	0.9	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429122	41041280	89180
SBL1-159	第2136	鎌倉市	宮前	宮前	6.5	4.5	1.1	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429881	41031068	89180
SBL1-160	第2137	鎌倉市	宮前	宮前	25.0	5.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38431087	41021677	89180
SBL1-161	第2138	鎌倉市	宮前	宮前	25.0	5.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429857	41031174	89180
SBL1-162	第2139	鎌倉市	宮前	宮前	21.5	6.5	4.5	0.4	×	×	表面・片側面	埋付	38430136	41021927	89180
SBL1-163	第2140	鎌倉市	宮前	宮前	21.0	4.5	2.0	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38429674	41031623	89180
SBL1-164	第2141	鎌倉市	宮前	宮前	17.5	4.5	1.7	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429810	41031191	89180
SBL1-165	第2142	鎌倉市	宮前	宮前	17.0	3.5	1.1	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429383	41031040	89180
SBL1-166	第2143	鎌倉市	宮前	宮前	15.5	5.0	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38431872	41051416	89180
SBL1-167	第2144	鎌倉市	宮前	宮前	15.0	6.0	1.1	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429253	41041540	89180
SBL1-168	第2145	鎌倉市	宮前	宮前	15.0	6.0	1.1	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430836	41041228	89180
SBL1-169	第2146	鎌倉市	宮前	宮前	14.0	5.0	1.4	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430711	41031760	89180
SBL1-170	第2147	鎌倉市	宮前	宮前	14.0	8.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430440	41041708	89180
SBL1-171	第2148	鎌倉市	宮前	宮前	12.0	3.5	1.0	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429899	41041117	89180
SBL1-172	第2149	鎌倉市	宮前	宮前	12.0	5.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429704	41031143	89180
SBL1-173	第2150	鎌倉市	宮前	宮前	11.5	4.5	0.8	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429736	41031403	89180
SBL1-174	第2151	鎌倉市	宮前	宮前	11.0	4.7	0.8	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38430019	41031193	89180
SBL1-175	第2152	鎌倉市	宮前	宮前	24.5	20.3	12.5	5.4	×	×	表面・片側面	埋付	38429825	41031648	89180
SBL1-176	第2153	鎌倉市	宮前	宮前	44.3	60.5	15.4	40.5	×	×	表面・片側面	埋付	38430105	41041802	89180
SBL1-177	第2154	鎌倉市	宮前	宮前	37.6	48.1	10.8	22.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429788	41031473	89180
SBL1-178	第2155	鎌倉市	宮前	宮前	66.5	49.1	16.3	60.5	×	×	表面・片側面	埋付	38429026	41031375	89180
SBL1-179	第2156	鎌倉市	宮前	宮前	108.1	67.9	29.4	207.0	×	×	表面・片側面	埋付	38429830	41031802	89180
SBL1-180	第2157	鎌倉市	宮前	宮前	77.7	124.4	40.5	40.0	×	×	表面・片側面	埋付	38429824	41031409	89180
SBL1-181	第2158	鎌倉市	宮前	宮前	9.5	5.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429095	41031520	89180
SBL1-182	第2159	鎌倉市	宮前	宮前	10.5	10.5	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38431351	41021804	89180
SBL1-183	第2160	鎌倉市	宮前	宮前	7.5	16.0	4.5	0.4	×	×	表面・片側面	埋付	38430101	41031126	89180
SBL1-184	第2161	鎌倉市	宮前	宮前	19.5	21.0	7.3	2.2	×	×	表面・片側面	埋付	38430000	41021841	89180
SBL1-185	第2162	鎌倉市	宮前	宮前	12.6	3.3	1.5	0.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429043	41021650	89180
SBL1-186	第2163	鎌倉市	宮前	宮前	22.9	9.1	2.3	0.4	×	×	表面・片側面	埋付	38430426	41051733	89180
SBL1-187	第2164	鎌倉市	宮前	宮前	17.7	13.2	3.6	1.0	×	×	表面・片側面	埋付	38429330	41041711	89180
SBL1-188	第2165	鎌倉市	宮前	宮前	9.0	11.5	2.5	0.2	×	×	表面・片側面	埋付	38429804	41021282	89180
SBL1-189	第2166	鎌倉市	宮前	宮前	26.3	24.0	3.8	4.1	×	×	表面・片側面	埋付	38429307	41021789	89180
SBL1-190	第2167	鎌倉市	宮前	宮前	14.4	14.0	4.5	0.3	×	×	表面・片側面	埋付	38429070	41031828	89180
SBL1-191	第2168	鎌倉市	宮前	宮前	30.0	17.3	17.2	6.5	×	×	表面・片側面	埋付	38429719	41041182	89180
SBL1-192	第2169	鎌倉市	宮前	宮前	54.5	24.6	21.7	20.5	×	×	表面・片側面	埋付	38431086	41031347	89180
SBL1-193	第2170	鎌倉市	宮前	宮前	28.9	15.7	7.3	3.7	×	×	表面・片側面	埋付	38429042	41031802	89180
SBL1-194	第2171	鎌倉市	宮前	宮前	26.0	16.2	4.7	1.9	×	×	表面・片側面	埋付	38430005	41051546	89180
SBL1-195	第2172	鎌倉市	宮前	宮前	15.6	22.1	5.7	1.2	×	×	表面・片側面	埋付	38430042	41031804	89180
SBL1-196	第2173	鎌倉市	宮前	宮前	49.7	76.4	21.5	65.5	×	×	表面・片側面	埋付	38429736	41041113	89180
SBL1-197	第2174	鎌倉市	宮前	宮前	54.0	39.5	12.1	23.8	×	×	表面・片側面	埋付	38427703	41041685	89180

第4表 SBL1 出土遺物観察表(2)

遺物番号	遺物名称	調査番号	種類・形状	通称	石種	最大長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	形状	自然産	備考	X	Y	Z
SBL1 193	第2492-2-1	調査	文部	カルデラス	27.8	49.4	8.4	160	×	×	×	図2-2	3843.078	4103.431	807.17
SBL1 26	第2492-2-1	調査	文部	カルデラス	166	32.1	38	26	×	×	×	図2-2	3843.120	4103.241	809.89
SBL1 1	調査	調査	文部	カルデラス	76.0	—	—	40.4	×	×	×	—	3843.144	4103.126	807.76
SBL1 2	調査	調査	文部	カルデラス	91.0	—	—	26.5	×	×	×	—	3842.142	4103.098	807.99
SBL1 3	調査	調査	文部	カルデラス	84.0	—	—	25.5	×	×	×	—	3842.191	4103.141	808.12
SBL1 4	調査	調査	文部	カルデラス	76.0	—	—	88.8	×	×	×	—	3842.000	4102.926	807.07
SBL1 6	調査	調査	文部	カルデラス	28.0	—	—	1.5	×	×	×	—	3842.996	4103.807	808.28
SBL1 7	調査	調査	文部	カルデラス	55.0	—	—	41.0	×	×	×	—	3842.100	4103.671	808.40
SBL1 8	調査	調査	文部	カルデラス	56.0	—	—	16.5	×	×	×	—	3842.195	4103.771	809.10
SBL1 9	調査	調査	文部	カルデラス	14.0	—	—	0.9	×	×	×	—	3842.277	4103.969	809.46
SBL1 10	調査	調査	文部	カルデラス	26.0	—	—	2.3	×	×	×	—	3842.257	4103.917	809.42
SBL1 11	調査	調査	文部	カルデラス	27.0	—	—	3.8	×	×	×	—	3842.382	4103.908	809.45
SBL1 12	調査	調査	文部	カルデラス	26.0	—	—	5.9	×	×	×	—	3842.343	4103.882	809.40
SBL1 13	調査	調査	文部	カルデラス	79.0	—	—	13.0	×	×	×	—	3842.306	4103.655	807.24
SBL1 14	調査	調査	文部	カルデラス	64.0	—	—	23.0	×	×	×	—	3842.306	4103.739	808.85
SBL1 16	調査	調査	文部	カルデラス	55.0	—	—	67.1	×	×	×	—	3842.671	4103.909	809.76
SBL1 17	調査	調査	文部	カルデラス	34.0	—	—	18.4	×	×	×	—	3842.665	4103.928	809.73
SBL1 19	調査	調査	文部	カルデラス	25.0	—	—	2.2	×	×	×	—	3842.790	4103.963	809.65
SBL1 20	調査	調査	文部	カルデラス	41.0	—	—	4.4	×	×	×	—	3842.106	4103.632	809.40
SBL1 21	調査	調査	文部	カルデラス	50.0	—	—	43.7	×	×	×	—	3842.287	4104.444	809.92
SBL1 22	調査	調査	文部	カルデラス	47.0	—	—	41.4	×	×	×	—	3842.952	4104.228	809.92
SBL1 23	調査	調査	文部	カルデラス	31.0	—	—	4.5	×	×	×	—	3842.218	4104.086	809.29
SBL1 24	調査	調査	文部	カルデラス	6.0	—	—	86.0	×	×	×	—	3842.263	4103.684	809.63
SBL1 25	調査	調査	文部	カルデラス	21.0	—	—	21.7	×	×	×	—	3842.218	4103.378	809.14
SBL1 27	調査	調査	文部	カルデラス	45.0	—	—	22.8	×	×	×	—	3842.361	4103.667	809.15
SBL1 28	調査	調査	文部	カルデラス	15.0	—	—	1.1	×	×	×	—	3842.865	4103.624	809.45
SBL1 29	調査	調査	文部	カルデラス	61.0	—	—	64.1	×	×	×	—	3842.664	4103.522	809.30
SBL1 30	調査	調査	文部	カルデラス	51.0	—	—	16.7	×	×	×	—	3842.640	4103.467	809.11
SBL1 31	調査	調査	文部	カルデラス	25.0	—	—	3.6	×	×	×	—	3842.020	4102.935	808.44
SBL1 32	調査	調査	文部	カルデラス	41.0	—	—	48.2	×	×	×	—	3842.227	4103.030	808.89
SBL1 33	調査	調査	文部	カルデラス	46.0	—	—	25.7	×	×	×	—	3842.650	4103.293	809.21
SBL1 34	調査	調査	文部	カルデラス	53.0	—	—	32.9	×	×	×	—	3842.821	4104.291	809.28
SBL1 38	調査	調査	文部	カルデラス	7.2	—	—	66.1	×	×	×	—	3842.013	4103.425	808.63
SBL1 43	調査	調査	文部	カルデラス	9.1	—	—	17.1	×	×	×	—	3842.304	4104.428	809.44
SBL1 44	調査	調査	文部	カルデラス	7.1	—	—	12.1	×	×	×	—	3842.047	4104.412	809.76
SBL1 47	調査	調査	文部	カルデラス	9.5	—	—	11.1	×	×	×	—	3843.024	4104.236	808.45
SBL1 49	調査	調査	文部	カルデラス	11.7	—	—	10.1	×	×	×	—	3842.266	4103.933	809.47
SBL1 50	調査	調査	文部	カルデラス	7.6	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.137	4103.735	808.40
SBL1 53	調査	調査	文部	カルデラス	6.3	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.185	4103.188	808.40
SBL1 54	調査	調査	文部	カルデラス	9.3	—	—	14.1	×	×	×	—	3842.009	4103.947	808.21
SBL1 56	調査	調査	文部	カルデラス	10.9	—	—	13.1	×	×	×	—	3842.844	4103.051	809.52
SBL1 61	調査	調査	文部	カルデラス	4.0	—	—	0.3	×	×	×	—	3842.673	4103.467	808.86
SBL1 62	調査	調査	文部	カルデラス	7.2	—	—	0.9	×	×	×	—	3842.578	4103.674	808.23
SBL1 63	調査	調査	文部	カルデラス	6.5	—	—	0.1	×	×	×	—	3842.342	4103.409	808.38
SBL1 68	調査	調査	文部	カルデラス	22.0	—	—	1.0	×	×	×	—	3842.120	4103.424	808.65
SBL1 69	調査	調査	文部	カルデラス	16.0	—	—	1.1	×	×	×	—	3842.120	4103.528	808.67
SBL1 70	調査	調査	文部	カルデラス	20.0	—	—	0.4	×	×	×	—	3842.785	4103.706	809.10
SBL1 71	調査	調査	文部	カルデラス	29.0	—	—	4.0	×	×	×	—	3842.219	4103.266	809.05
SBL1 72	調査	調査	文部	カルデラス	27.0	—	—	3.2	×	×	×	—	3842.413	4103.795	808.74
SBL1 73	調査	調査	文部	カルデラス	11.5	—	—	0.9	×	×	×	—	3842.061	4103.353	809.03
SBL1 74	調査	調査	文部	カルデラス	22.0	—	—	4.0	×	×	×	—	3842.806	4104.422	809.26
SBL1 75	調査	調査	文部	カルデラス	26.0	—	—	2.7	×	×	×	—	3842.371	4103.632	808.88
SBL1 76	調査	調査	文部	カルデラス	14.0	—	—	6.3	×	×	×	—	3842.616	4103.420	808.84
SBL1 77	調査	調査	文部	カルデラス	35.0	—	—	1.8	×	×	×	—	3842.083	4103.162	808.63
SBL1 78	調査	調査	文部	カルデラス	25.0	—	—	1.9	×	×	×	—	3842.691	4102.904	808.80
SBL1 79	調査	調査	文部	カルデラス	18.0	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.311	4102.828	808.91
SBL1 80	調査	調査	文部	カルデラス	16.0	—	—	0.3	×	×	×	—	3842.363	4103.301	808.97
SBL1 81	調査	調査	文部	カルデラス	44.0	—	—	6.1	×	×	×	—	3842.526	4103.002	808.26
SBL1 82	調査	調査	文部	カルデラス	22.0	—	—	3.2	×	×	×	—	3842.862	4104.326	809.28
SBL1 83	調査	調査	文部	カルデラス	51.0	—	—	12.8	×	×	×	—	3842.286	4103.422	808.44
SBL1 84	調査	調査	文部	カルデラス	35.0	—	—	6.6	×	×	×	—	3842.677	4104.711	809.07
SBL1 85	調査	調査	文部	カルデラス	38.0	—	—	31.3	×	×	×	—	3842.468	4103.357	808.29
SBL1 86	調査	調査	文部	カルデラス	56.0	—	—	28.1	×	×	×	—	3842.069	4103.215	808.88
SBL1 87	調査	調査	文部	カルデラス	56.0	—	—	5.4	×	×	×	—	3842.032	4103.070	808.18
SBL1 88	調査	調査	文部	カルデラス	35.0	—	—	12.3	×	×	×	—	3842.346	4103.671	808.67
SBL1 89	調査	調査	文部	カルデラス	7.0	—	—	1.4	×	×	×	—	3842.300	4104.803	809.11
SBL1 90	調査	調査	文部	カルデラス	45.0	—	—	29.5	×	×	×	—	3842.671	4103.701	809.29
SBL1 91	調査	調査	文部	カルデラス	53.0	—	—	31.4	×	×	×	—	3842.765	4103.465	809.27
SBL1 92	調査	調査	文部	カルデラス	28.0	—	—	8.2	×	×	×	—	3842.963	4103.554	809.04
SBL1 93	調査	調査	文部	カルデラス	31.0	—	—	12.1	×	×	×	—	3842.524	4103.257	808.17
SBL1 94	調査	調査	文部	カルデラス	25.0	—	—	3.7	×	×	×	—	3843.626	4103.684	807.98
SBL1 95	調査	調査	文部	カルデラス	38.0	—	—	12.5	×	×	×	—	3842.618	4104.696	809.29
SBL1 98	調査	調査	文部	カルデラス	5.3	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.658	4103.454	808.13
SBL1 99	調査	調査	文部	カルデラス	5.5	—	—	0.5	×	×	×	—	3842.520	4103.1078	808.07
SBL1 100	調査	調査	文部	カルデラス	16.0	—	—	1.0	×	×	×	—	3842.765	4103.465	809.04
SBL1 101	調査	調査	文部	カルデラス	5.8	—	—	0.1	×	×	×	—	3842.293	4103.003	808.17
SBL1 102	調査	調査	文部	カルデラス	7.7	—	—	4.4	×	×	×	—	3842.982	4103.356	808.32
SBL1 103	調査	調査	文部	カルデラス	56.0	—	—	55.7	×	×	×	—	3842.519	4102.621	808.13
SBL1 105	調査	調査	文部	カルデラス	4.0	—	—	17.9	×	×	×	—	3842.670	4103.876	807.87
SBL1 106	調査	調査	文部	カルデラス	7.5	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.902	4104.215	808.06
SBL1 107	調査	調査	文部	カルデラス	5.5	—	—	0.8	×	×	×	—	3842.862	4102.556	808.20

第4表 SBL1 出土遺物観察表(3)

遺物番号	遺物名称	出土場所	種類・形状	通称	年代	最大径(mm)	高さ(mm)	重量(g)	材質	保存	備考	X	Y	Z
SBL1-109	鏃	葬	葬		6.3	3.5	1.7	0.1	×			38429.702	4103.1480	89811
SBL1-110	鏃	大塚南西	葬		10.5	4.2	0.9	0.1	×			38432.116	4103.660	89818
SBL1-112	鏃	下	葬		4.4	4.3	0.8	0.0	×			38429.420	4103.343	89779
SBL1-113	鏃	下	葬		5.2	3.1	0.9	0.0	×			38429.305	4103.043	89780
SBL1-114	鏃	下	葬		2.2	2.2	0.1	0.0	×			38428.271	4103.284	89817
SBL1-115	鏃	大塚南西	葬		8.0	3.8	0.4	0.0	×			38428.157	4103.855	89820
SBL1-117	鏃	葬	葬		25.0	5.5	1.5	1.1	×			38428.390	4105.079	89811
SBL1-121	鏃	葬	葬		21.0			0.4	×			38428.000	4103.485	89778
SBL1-122	鏃	葬	葬		19.0			0.7	×			38431.201	4104.586	89799
SBL1-123	鏃	葬	葬	オウズ型羽状の鏃	22.7	22.6	4.0	2.6	×	無損		38431.523	4104.530	89763
SBL1-129	鏃	下	葬		2.7	3.0	0.7		×		修復済不可	38430.686	4104.207	89863
SBL1-132	鏃	下	葬		4.1	5.0	1.5	0.0	×			38429.015	4103.609	89725
SBL1-133	鏃	下	葬		3.9	2.9	0.3	×			修復済不可	38430.353	4103.955	89775
SBL1-134	鏃	葬	葬		16.5	19.5	3.4	0.5	×			38429.732	4103.540	89705
SBL1-135	鏃	下	葬		5.8	4.5	0.9	0.0	×			38429.800	4103.830	89722
SBL1-136	鏃	下	葬		3.7	4.2	0.8	0.0	×			38429.310	4104.255	89717
SBL1-137	鏃	下	葬		4.8	6.2	0.7	0.0	×			38429.253	4103.158	89722
SBL1-138	鏃	下	葬		4.8	4.7	1.0	0.0	×			38429.214	4103.885	89716
SBL1-139	鏃	下	葬		5.6	3.9	0.7	0.0	×			38429.424	4103.033	89773
SBL1-140	鏃	下	葬		9.2	6.5	0.6	0.0	×			38429.317	4103.448	89733
SBL1-141	鏃	下	葬		11.6	6.5	1.4	0.1	×	羽根・片断		38429.205	4103.540	89737
SBL1-142	鏃	中塚南	葬		9.3	3.8	0.5	0.1	×		鏃小羽根	38429.253	4104.138	89716
SBL1-143	鏃	下	葬		10.2	10.3	2.7	0.3	×			38429.204	4102.899	89786
SBL1-144	鏃	下	葬		11.2	4.8	1.9	0.1	×			38429.345	4103.059	89732
SBL1-145	鏃	下	葬		7.6	6.5	1.7	0.1	×			38428.808	4102.775	89806
SBL1-146	鏃	下	葬		7.4	2.3	0.3		×		修復済不可	38429.424	4103.033	89705
SBL1-147	鏃	下	葬		13.1	8.3	1.3	0.1	×			38429.015	4103.609	89725
SBL1-149	鏃	不明	葬		2.1	9.9	0.6	×			修復済不可	38430.291	4102.628	89767
SBL1-150	鏃	下	葬		6.6	2.1	1.5	0.0	×			38430.860	4103.347	89772
SBL1-153	鏃	下	葬		9.8	7.7	2.3	0.1	×			38430.327	4103.301	89745
SBL1-154	鏃	下	葬		4.5	3.8	0.8	0.0	×			38430.296	4103.266	89729
SBL1-155	鏃	下	葬		9.2	5.3	1.8	0.1	×			38430.051	4103.198	89701
SBL1-157	鏃	葬	葬		10.3	6.2	1.8	0.1	×			38429.345	4103.176	89736
SBL1-158	鏃	下	葬		6.1	5.8	2.3	0.1	×	羽根・片断		38429.726	4103.389	89747
SBL1-160	鏃	下	葬		12.0	10.0	1.0	0.1	×			38429.852	4103.704	89756
SBL1-164	鏃	中塚南	葬		12.3	4.0	0.5	0.1	×			38429.581	4103.684	89737
SBL1-169	鏃	下	葬		11.7	14.3	3.7	0.5	×			38428.924	4102.153	89767
SBL1-171	鏃	下	葬		10.0	6.6	0.6	0.1	×			38428.307	4103.849	89776
SBL1-172	鏃	下	葬		7.2	4.0	1.1	0.1	×			38428.980	4104.189	89709
SBL1-173	鏃	大塚南西	葬		7.8	5.3	0.9	0.1	×			38428.545	4103.472	89712
SBL1-174	鏃	大塚南西	葬		8.1	4.6	1.3	0.1	×		鏃小羽根	38428.548	4103.478	89714
SBL1-176	鏃	下	葬		9.3	8.1	2.1	0.1	×			38429.919	4104.424	89707
SBL1-178	鏃	葬	葬		24.0			1.5	×			38429.114	4103.686	89776
SBL1-179	鏃	葬	葬		23.0			0.8	×			38429.251	4104.001	89777
SBL1-180	鏃	葬	葬		16.0			0.2	×			38429.823	4104.002	89744
SBL1-181	鏃	葬	葬		26.0			3.0	×	鏃09		38428.802	4104.128	89794
SBL1-182	鏃	葬	葬		14.0			0.8	×			38429.400	4103.629	89759
SBL1-183	鏃	葬	オウズ型羽状の鏃		15.0			0.5	×			38428.468	4103.049	89747
SBL1-184	鏃	下	葬		19.1	9.3	3.0	0.8	×	無損		38428.178	4103.489	89754
SBL1-185	鏃	葬	葬		7.0			0.2	×			38429.390	4102.852	89767
SBL1-186	鏃	葬	葬		21.0			0.9	×			38429.727	4103.610	89786
SBL1-187	鏃	葬	葬		16.0			0.2	×			38429.814	4102.873	89786
SBL1-188	鏃	葬	葬		26.0			0.6	×			38430.167	4102.656	89800
SBL1-189	鏃	葬	葬		7.0			0.2	×			38429.420	4102.177	89826
SBL1-190	鏃	葬	葬		16.0			0.3	×			38428.398	4102.788	89800
SBL1-191	鏃	葬	葬		27.0			2.6	×			38430.756	4103.108	89773
SBL1-192	鏃	葬	葬		19.0			0.7	×	鏃16		38430.592	4103.125	89792
SBL1-194	鏃	葬	葬		25.0			2.1	×			38430.463	4104.142	89748
SBL1-195	鏃	葬	葬		21.0			1.9	×	鏃13		38431.086	4105.648	89790
SBL1-196	鏃	葬	鏃小羽根		19.0			1.4	×			38432.497	4105.615	89780
SBL1-197	鏃	葬	葬		3.4	3.5	0.3	×				38429.722	4104.213	89869
SBL1-198	鏃	葬	葬		10.8			53.0	×	鏃10		38429.976	4103.484	89863
SBL1-202	鏃	葬	葬		36.0			12.3	×	鏃02		38431.117	4105.634	89764
SBL1-203	鏃	下	葬	オウズ型羽状の鏃	19.0	9.1	3.0	0.4	×			38430.824	4103.676	89756
SBL1-204	鏃	葬	葬		24.0			8.9	×	鏃04		38430.306	4103.440	89705
SBL1-205	鏃	葬	葬		25.0			6.1	×	鏃03		38430.144	4103.844	89805
SBL1-206	鏃	葬	葬		18.0			0.7	×			38430.271	4103.811	89705
SBL1-207	鏃	葬	葬		12.0			0.3	×			38430.054	4103.742	89719
SBL1-208	鏃	葬	葬		34.0			17.0	×	鏃03		38430.243	4103.424	89837
SBL1-209	鏃	葬	葬		18.0			3.1	×	鏃15		38429.417	4103.188	89766
SBL1-210	鏃	葬	オウズ型羽状の鏃		26.0			4.4	×			38429.250	4103.747	89802
SBL1-211	鏃	葬	オウズ型羽状の鏃		16.0			0.1	×			38429.284	4103.641	89700
SBL1-212	鏃	葬	葬		34.0			3.6	×	鏃09		38429.095	4103.771	89742
SBL1-213	鏃	葬	葬		26.0			2.2	×			38429.050	4103.752	89714
SBL1-214	鏃	葬	葬		27.0			4.1	×	鏃09		38429.690	4102.779	89707
SBL1-215	鏃	葬	葬		21.0			1.3	×	鏃01		38429.727	4103.328	89703
SBL1-216	鏃	葬	葬		55.0			37.8	×	鏃02		38429.924	4103.139	89766
SBL1-217	鏃	葬	葬		32.0			4.1	×			38429.034	4103.315	89725
SBL1-218	鏃	葬	葬		24.0			1.1	×	鏃14		38428.980	4103.219	89735
SBL1-219	鏃	葬	葬		22.0			1.9	×	鏃04		38428.909	4103.226	89778
SBL1-221	鏃	葬	葬		22.0			1.6	×	鏃05		38429.537	4104.084	89718
SBL1-222	鏃	葬	葬		28.0			2.9	×	鏃05		38428.936	4104.402	89701

第4表 SBL1 出土遺物観察表(4)

遺物番号	遺物名称	検出番号	種類・形状	遺物形状	石種	最大長(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	場所	位置	備考	X	Y	Z
SBL1 223	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	31.0	3.1	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38427.720	4103.018	89733
SBL1 224	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	41.0	28.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38430.395	4103.560	89837
SBL1 225	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	17.0	0.4	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38430.486	4103.632	89863
SBL1 226	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	67.0	147.4	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38430.130	4104.307	89836
SBL1 227	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	44.0	27.2	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38430.261	4103.227	89833
SBL1 228	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	111.0	79.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38430.184	4103.275	89827
SBL1 229	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	66.0	107.6	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.930	4103.304	89743
SBL1 230	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	83.0	219.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.932	4104.408	89874
SBL1 231	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	97.0	784.5	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.802	4104.361	89838
SBL1 232	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	57	36.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.607	4104.259	89728
SBL1 233	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	88.0	246.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.594	4104.219	89805
SBL1 234	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	108.0	460.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.845	4103.942	89877
SBL1 235	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	108.0	280.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.654	4103.480	89869
SBL1 236	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	127.0	536.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.599	4103.650	89793
SBL1 237	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	70.0	68.5	31.3	122.0	×	遺物13	遺物13	38429.593	4103.570	89724
SBL1 238	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	95.0	225.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.516	4103.801	89719
SBL1 239	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	52.0	47.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.980	4103.895	89766
SBL1 240	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	72.0	201.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.684	4103.659	89792
SBL1 241	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	68.0	127.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.840	4104.071	89868
SBL1 242	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	62.0	26.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.739	4103.440	89744
SBL1 243	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	61.0	152.3	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.698	4103.429	89868
SBL1 244	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	95.0	238.0	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.575	4103.371	89799
SBL1 245	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	70.0	111.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.552	4103.558	89710
SBL1 246	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	55.0	74.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.675	4103.864	89705
SBL1 247	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	54.0	30.5	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.421	4103.590	89732
SBL1 248	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	18.0	6.6	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.596	4103.686	89804
SBL1 250	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	70.0	113.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.530	4103.618	89745
SBL1 251	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	47.0	36.6	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.481	4103.989	89727
SBL1 252	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	54.0	28.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.583	4104.133	89734
SBL1 254	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	49.0	29.4	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.720	4104.800	89746
SBL1 255	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	63.0	31.9	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.807	4104.419	89878
SBL1 256	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	62.0	86.5	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.579	4103.598	89862
SBL1 257	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	61.0	52.8	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.509	4103.620	89848
SBL1 258	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	62.0	81.3	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.580	4103.639	89721
SBL1 261	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	8.4	7.8	27	0.1	×	遺物13・SBL13	遺物13	38429.719	4104.386	89867
SBL1 263	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	9.4	8.8	23	0.2	×	遺物13・SBL13	遺物13	38429.981	4104.285	89819
SBL1 264	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	41.0	13.9	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.218	4103.967	89849
SBL1 265	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	31.0	5.9	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.329	4103.165	89839
SBL1 266	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	107	5.2	1.4	0.1	×	遺物13・SBL13	遺物13	38429.438	4103.980	89880
SBL1 267	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	7.4	13.6	32	0.2	×	遺物13・SBL13	遺物13	38429.514	4103.340	89870
SBL1 270	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	8.1	5.8	1.7	0.1	×	遺物13・SBL13	遺物13	38429.906	4103.688	89856
SBL1 271	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	42.0	9.6	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.740	4103.322	89862
SBL1 272	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	18.0	1.4	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.303	4103.656	89820
SBL1 273	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	21.0	1.9	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.801	4103.433	89875
SBL1 274	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	19.0	0.7	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.680	4102.588	89855
SBL1 275	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	31.0	4.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.518	4103.367	89836
SBL1 276	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	38.0	8.1	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.162	4104.058	89825
SBL1 278	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	22.0	1.9	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.074	4103.180	89818
SBL1 279	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	50.0	24.8	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.331	4105.481	89827
SBL1 280	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	33.0	13.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.312	4106.188	89810
SBL1 281	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	23.0	1.7	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.595	4103.057	89842
SBL1 282	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	6.1	6.7	23	0.1	×	遺物13	遺物13	38429.500	4103.405	89844
SBL1 284	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	5.4	3.1	0.4	×	遺物13	遺物13	遺物13	38429.632	4103.430	89838
SBL1 286	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	3091.5	211.2	150.4	0.0	×	遺物13	遺物13	38429.071	4107.034	89837
SBL1 289	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	13.0	9.8	2.2	0.1	×	遺物13	遺物13	38429.733	4103.591	89779
SBL1 290	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	142.0	1021.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38429.943	4103.599	89724
SBL1 291	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	146.0	963.0	×	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38428.891	4103.486	89725
SBL1 292	遺物	遺物	遺物	遺物	遺物	75.0	25.3	0.2	遺物13	遺物13	遺物13	遺物13	38428.770	4103.135	89731

第5表 石器接合表

石器接合番号	検出番号	接合式(1) (遺物番号)	接合式(2)	点数	重量(g)
1.4	遺物23 16	48/41	1/2	2	0.2
1.8	遺物23 16	103+162/51/10319/60	1(a+1b)/2/3/4	5	36.8
1.7	遺物23 16	125+160/126/59	0(a+1b)/2/3	4	1.7
1.5	遺物23 16	156/52	1/2	2	2.6
2.2	遺物24 16	26+193/200	1*1/3	3	219.6
2.1	遺物24 16	262/249	1/2	2	61.7
3.1	遺物24 16	115+67/253	1(a+1b)/2	3	27.7
4.1	遺物24 16	18/5	1/2	2	89.3
1.6	遺物23 16	269/108	1/2	2	0.2
1.1	遺物23 16	131+163	0(a+1b)	2	0.12
1.2	遺物23 16	157+116	1a+1b	2	0.2
1.3	遺物23 16	128+287	1a+1b	2	0.2

* 石器接合番号の括弧内の数字は材料を表す

1: 黒曜石、2: カルシフェルス、3: ガラス質黒色火山岩、4: 緑泥石黒色火山岩

第6表 礫接合表

礫接合番号	石種	点数	重量(g)
1	砂岩	5	899.6
2	砂岩	14	664.3
3	砂岩	11	416.5
4	砂岩	7	76.3
5	砂岩	8	1035.3
6	砂岩	4	1020.0
7	砂岩	8	800.7
8	砂岩	8	525.3
9	砂岩	13	1712.4
10	砂岩	2	556.8
11	砂岩	3	968.0
12	砂岩	2	58.9
13	砂岩	2	14.4
14	砂岩	2	1.7
15	砂岩	2	6.2
16	砂岩	2	3.4
合計		93	8557.1



1. SBL1 全景 (南南東から)



2. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



3. SBL1 遺物出土状況 (北北西から)



4. SBL1 遺物出土状況 (北西から)



5. SBL1 遺物出土状況 (南東から)



6. SBL1 炭化物出土状況 (西南西から)



7. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



8. SBL1 遺物出土状況 (南東から)

第 29 図 SBL1 写真 (1)



1. SBL1 遺物出土状況 (西南西から)



2. SBL1 遺物出土状況 (北北西から)



3. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



4. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)



5. SBL1 遺物出土状況 (南南東から)

第 30 図 SBL1 写真 (2)

2 縄文時代

縄文時代の遺構は、調査区内の各所において、竪穴状遺構1基、集石1基、礫集中1箇所、土坑8基、ビット2基を検出した。各遺構は、SK167・168が近接して構築されている以外は、調査区内に散在している状況である。

また遺物は、包含層内を中心に早期前半から後期前半にかけての土器、土製品（土製円板・土偶・土鈴）、石器（尖頭器、石鏃、石匙、剥片、二次加工剥片、石核、打製石斧、磨製石斧、磨石、石皿、敲石）、礫、炭化材が出土した。

1) 遺構

A 竪穴状遺構

1基が調査区北東の2-5区より検出された。遺構略号はSIである。

SI57（第32～35図）

33N-40・50、34N-31・41グリッドに位置する。2-5区内を南北に貫く現道（生活道路）下で、南東から北西に伸びる2本の掘削により大きく破壊された状態で検出された。炉が確認されなかったことから、竪穴状遺構とした。

遺構 Ⅲ層を掘り込んで構築されている。東西にやや長く伸びる楕円形を呈し、壁は緩やかに開き気味に立ち上がる。規模は長軸（南西-北東）500cm、短軸（南東-北西）418cmである。

床面はローム層まで掘り込まれた後、Ⅲ2層土ベースの貼床土が薄く貼られている。比較的平坦で、中心部へ向けてやや窪んでいる。掘り方も平坦で、顕著な凹凸は見られない。

覆土は4層に分層され、1～3層は黒褐色土をベースとし、4層はロームをベースとする土壌で構成されている。なお、土層断面B-B'の観察から、遺構の上面がⅢ2層相当土で覆われていることが確認されている。

柱穴は、遺構の長軸に沿うように5基が検出された。このうちP1・3・4は床面に検出されたが、P5については掘り方底面にて検出された。P2は掘削底面での検出である。床面からの深さは、P1は69cm、P3は67cm、P4が48cmである。

各ビットとも2～5層に分層され、P3で柱痕跡が確認されている他、P5最下層の3層は黒褐色土がベースで、突き固められたように締まっている。

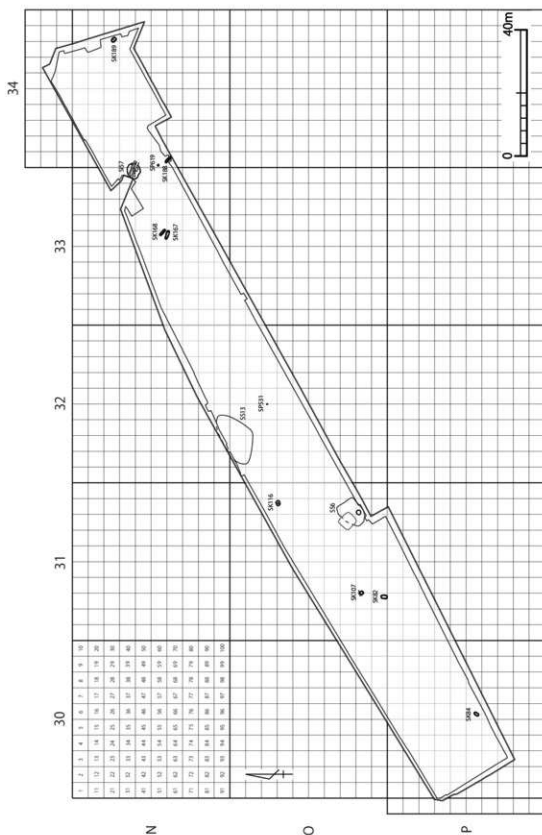
前述の通り、炉は検出されなかった。ただし、遺構中央部を埋設管関連の掘削が貫通しており、本来存在していたものが破壊されてしまった可能性も否定できない。

遺物 遺物は土器18点、石器33点、礫24点の計75点が出土した。

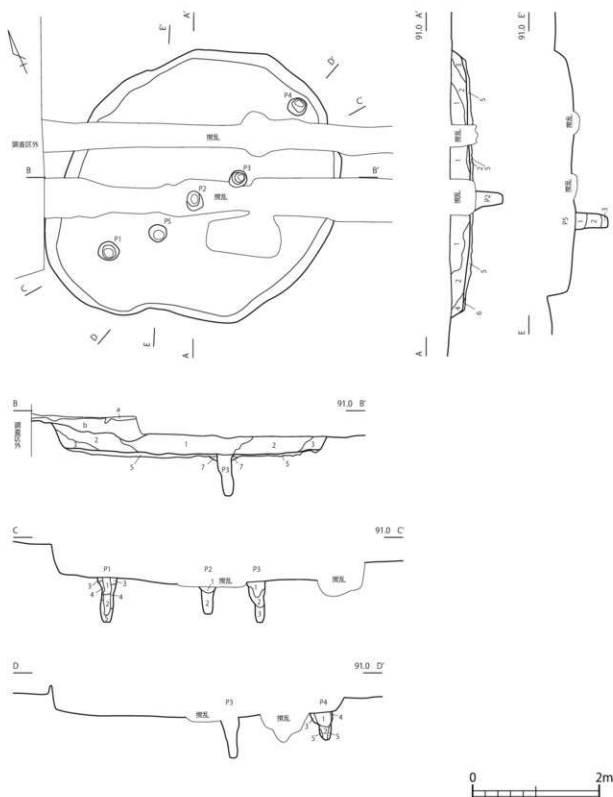
土器は18点が覆土内に散在する状態で出土した。その中で時期が判別できたものは9点で、勝坂式が口縁部や胴部片計7点、加曽利E式が胴部片2点である。いずれも小片のため、細別形式は判別できず、図示し得るものも無かった。

石器33点は全て剥片で、ホルンフェルス1点を除いて全て黒曜石である。黒曜石は、覆土の上～下層に散在しており、平面的には、比較的北部に纏まって検出される傾向にあった。SI57の近接地において行われた石器製作に伴い廃棄されたことが想定される。

遺構の廃絶時期については、出土した土器片から縄文時代中期以前と考えられる。

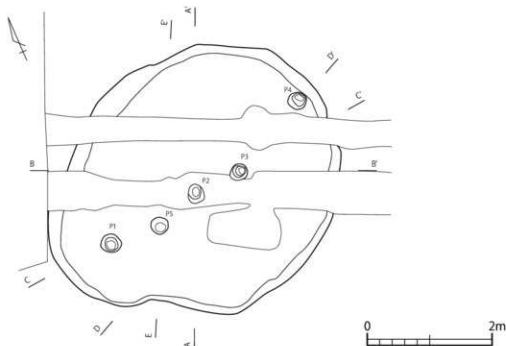


第31図 縄文時代遺構分布図(1/1,200)



第 32 图 SI57(1)(1/60)

掘り方



S57

- a. 10YR2/1 黒色土層 表土
 b. 10YR2/1 黒色土層 第2層土
 1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア7%, 黄褐色スコリア5%, ローム粒子3%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア7%, 黄褐色スコリア5%, ローム粒子15%、直径2mm以下の炭化物粒子1%を含む。層間土(10YR3/2)15%が微かに混じる。締まり強、粘性有り、粒子細かい。3層よりも黄褐色が強い。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径3mm以下の褐色スコリア5%, 黄褐色スコリア3%, ローム粒子7%を含む。褐色土(10YR4/6)3%が微かに混じる。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。
 4. 10YR3/2 灰黄褐色土層 第2層土をベースとし、直径4mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子3%, 炭化物粒子30%を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。自然堆積。
 5. 10YR3/1 黒褐色土層 層間土、第2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア10%, ローム粒子15%、直径20mm以下のロームブロック5%を含む。締まりやや強、粘性やや弱、粒子細かい。
 6. 10YR3/2 灰黄褐色土層 層間土、第2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア3%, ローム粒子30%を含む。締まり有り、粘性やや強、粒子細かい。
 7. 10YR3/1 黒褐色土層 第2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア2%, ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック3%を含む。締まり有り、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。
 8. 10YR4/2 灰黄褐色土層 人為的堆積。

P1

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア1%, ローム粒子7%, 炭化物粒子1%未満を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。柱状跡。
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア1%, ローム粒子25%を含む。締まりやや強、粘性強、粒子極めて細かい。柱状跡。
 3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子15%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。人為的堆積。
 4. 10YR4/4 灰黄褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア2%, 直径15mm以下の炭化物粒子7%を含む。締まりやや強、粘性強、粒子細。
 5. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子20%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まり有り、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。

P2

1. 10YR3/1 黒褐色土層 直径10mm以下の赤褐色スコリア5%, ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック2%を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子30%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まりやや強、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。

P3

1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア5%, ローム粒子10%を含む。締まり強、粘性有り、粒子細かい。
 2. 10YR4/2 灰黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%, ローム粒子30%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まり弱、粘性やや強、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 3. 10YR5/4 灰黄褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子40%、直径10mm以下のロームブロック5%を含む。締まりに欠け、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。

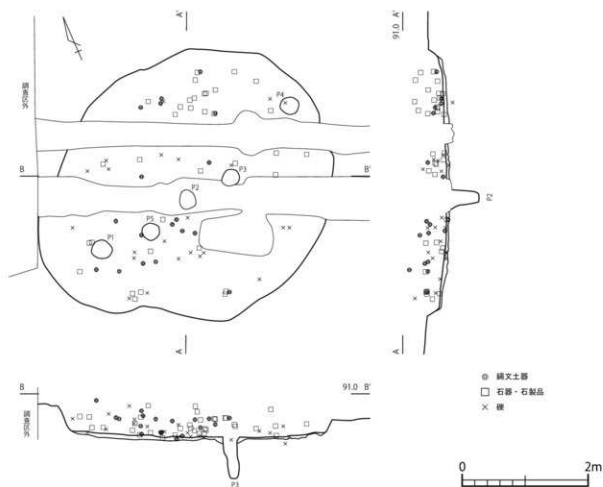
P4

1. 10YR3/2 黒褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子20%、直径10mm以下のロームブロック1%未満、炭化物粒子1%を含む。締まりやや強、粘性有り、粒子極めて細かい。
 2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア2%, ローム粒子15%、直径5mm以下のロームブロック1%を含む。締まり・粘性有り、粒子極めて細かい。
 3. 10YR4/3 灰黄褐色土層 直径5mm以下の赤褐色スコリア3%, ローム粒子15%を含む。締まり強、粘性やや強、粒子細かい。人為的堆積。
 4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア1%, ローム粒子10%を含む。締まりやや強、粘性弱、粒子細かい。人為的堆積。

P5

1. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア2%, ローム粒子10%、直径5mm以下のロームブロック3%を含む。締まり・粘性有り、粒子細かい。人為的堆積。
 2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径2mm以下の赤褐色スコリア2%, ローム粒子15%、直径10mm以下のロームブロック2%を含む。締まりやや強、粘性強、粒子極めて細かい。人為的堆積。
 3. 10YR2/2 黒褐色土層 第2層土をベースとし、ローム粒子10%を含む。締まり強、粘性に富み、粒子極めて細かい。人為的堆積。突き詰められたような感がある。締まり強、粘性に富み、粒子極めて細かい。

第33図 S157(2)(1/60)



第 34 図 SI57(3) 遺物分布図 (1/60)

B 集石・礫集中

広範囲に分布する礫と土坑状の下部施設が検出された「集石」1基と、礫が散漫に分布し、下部施設を伴わない「礫集中」が1箇所検出された。検出面はⅢ層上で、遺構略号はいずれもSSである。

SS6 (第36～40図)

調査区中央やや南西寄りで検出された集石である。発掘調査当初は、検出順に西寄りをSS6、東寄りをSS7として別個の遺構としたが、調査の進行により、礫の分布が連続していることが明らかとなったため、1基の遺構(SS6)と判断して調査を継続した。

遺構 北西部分は弥生時代終末期の竪穴建物跡SI34により湮滅し、南東側は調査区外へと続いていると思われる、正確な範囲は不明である。検出された範囲での長軸は918cm、短軸819cmで、東西にやや広く礫が分布していた。その範囲内の南西部では掘り込みを伴う下部施設が検出された。

下部施設を除くと、礫は下部施設の北側と旧SS7とした南東寄りにやや集中するが、それ以外では散漫に分布している。

下部施設は、上面の平面形は円形を呈し、長軸144cm、短軸136cmを測る。断面形態は鍋底状を呈し、底部平坦面には、中心部に不整形な窪みを有する。深さは、窪み部分も含めて59cmである。



1. SI57 全景 (東南東から)



2. SI57 P1 土層断面 (南から)



3. SI57 P3 土層断面 (南から)



4. SI57 土層断面 B-B' (南南西から)



5. SI57 掘り方全景 (東南東から)

第 35 図 SI57 写真



第 36 図 SS6(1)(1/60)

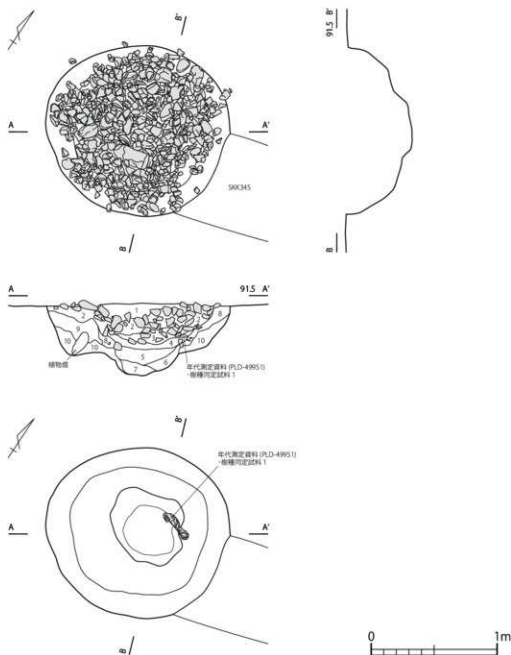
下部施設の覆土は 10 層からなり、礫は、概ね上部の 1～3 層で集中して検出されている。

また、下部施設からは礫の他に炭化したクリ材が 1 点検出されている。

遺物 遺物は、土器 31 点、土製品 1 点、石器 13 点、礫 2,573 点、炭化材 1 点である。

土器 31 点はいずれも口縁部や胴部の破片が中心である。形式の判明したものは前期後半の諸磯式 1 点を除いては中期に帰属し、五領ケ台 2 点、勝坂式 6 点、加曾利 E 式 3 点、曾利式 4 点で、その他は不明である。土製品 1 点は土製円盤である。出土状況は、遺構とした範囲内に散在する状況だが、東側にやや纏まっている傾向がある。

石器は剥片 2 点、打製石斧 6 点（うち未製品 1 点）、磨石 2 点、石皿 1 点、不明 2 点である。石器は、



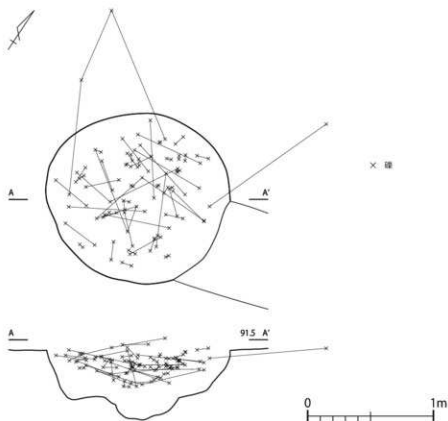
556

1. 7.5YR3/2 黒褐色土層
粒子細かい。量1層下部相当層。
2. 10YR2/1 黒色土層
量1層下部相当層。
3. 10YR1.7/1 黒色土層
直径1mm程度の明赤褐色スコリア(5YR5/8)5%、直径1mm程の濃い黄褐色粒子(10YR6/3)5%を含む。礫をほとんど含まない。締まり有り、粘性弱。
4. 10YR1.7/1 黒色土層
3層より上部があり、5層より灰色(青灰色)がかっている。直径2mm以下の明赤褐色スコリア1%、炭化物粒子7%、長さ50mm以下の炭化材1%を含む。締まり・粘性有り。粒子極めて細かい。
5. 10YR1.7/1 黒色土層
直径2mm以下の明赤褐色スコリア2%、ローム粒子2%、炭化物粒子5%を含む。締まりは4層より有り。粘性やや強。粒子極めて細かい。カーボンの沈着が顕著。
6. 10YR3/1 黒褐色土層
ローム粒子7%を含む。締まりやや強で5層より強。粘性やや強。粒子極めて細かい。
7. 10YR4/2 灰黄褐色土層
ローム粒子20%を含む。締まりやや強で6層と同程度。粘性有り。粒子極めて細かい。人為的埋蔵の可能性有り。
8. 10YR2/1 黒色土層
ローム粒子1%、焼土粒子1%、炭化物粒子1%を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。
9. 10YR3/1 黒褐色土層
ローム粒子2%、焼土粒子1%未満。炭化物粒子2%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子は極めて細かい。
10. 10YR3/2 黒褐色土層
直径3mm以下の赤褐色スコリア(5YR4/8)2%、ローム粒子25%、炭化物粒子1%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子細かい。

第37図 SS6(2)(1/30)



第 38 図 SS6(3) 遺物接合図 (1/60)



第39図 SS6(4) 下部施設遺物接合図 (1/30)

主に下部施設内やその周辺で出土している。

これら出土遺物のうち、五領ヶ台式土器の底部（第52・58図21）と土製円盤（第57・63図5）及びホルンフェルス製の打製石斧2点（第65・72図22、第66・73図37）は別途図示した。

礫は2,573点を数えるが、うち大多数の2,489点（96.7%）が砂岩である、他にシルト岩21点、粘板岩18点、礫岩10点、チャート7点、ホルンフェルス7点、頁岩6点、中粒緑色凝灰岩6点、変質安山岩5点、珪質粘板岩1点、細粒緑色凝灰岩1点、閃緑岩1点、粗粒緑色凝灰岩1点となっている。いずれも、概ね遺跡近隣の浅川流域で採取できる石材の組成である。

また、礫のうち51.5%の1,323点が下部施設から検出されている。下部施設の礫は多くが被熱し、破碎されている。接合資料のうち大部分が下部施設内での接合であり、下部施設内で被熱し、割れたことが想定できる。

下部施設の炭化材はクリ材で、覆土中層から出土している。下部施設から出土した礫の多くが、この炭化材より上位で出土している。クリ材については、分析の結果、縄文時代中期前半に相当する暦年代範囲を示した（第V章第1節参照）。

当遺構の帰属時期は、出土土器片と炭化材の分析結果から、縄文時代中期前半と考えられる。

SS13（第41～42図）

調査区中央のやや北寄りで検出された。下部施設を有さず、礫が散漫に分布していることから礫集中とした。



1. SS6 全景 (北北西から)



2. SS6 下部施設検出状況 (南南東から)



3. SS6 下部施設土層断面 (南南東から)

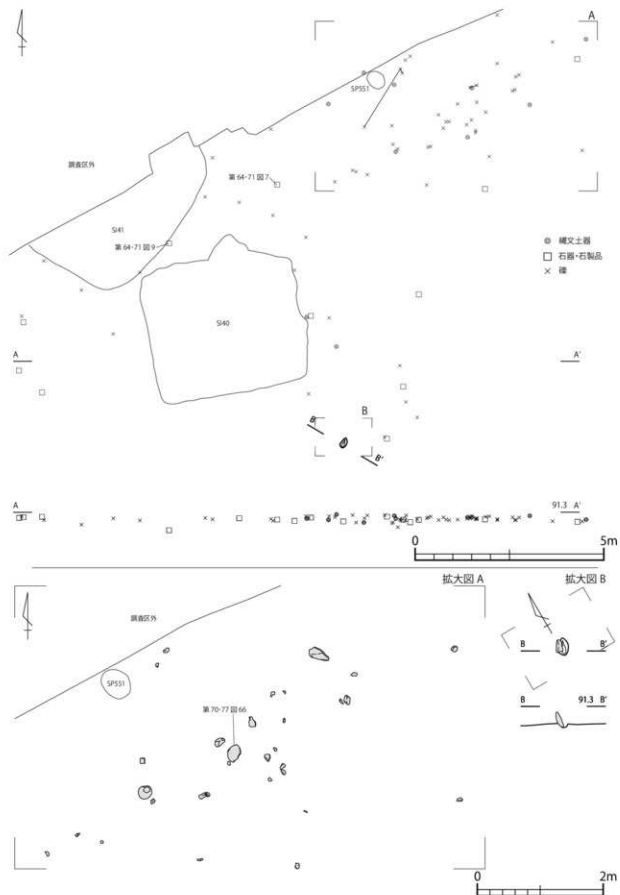


4. SS6 下部施設炭化材出土状況 (南南東から)



5. SS6 下部施設全景 (南南東から)

第 40 図 SS6 写真



第41図 SS13(1/100・1/60)



1. SS13 北東部全景 (南南東から)



2. SS13 全景 (東北東から)



3. SS13 礫出土状況 (南東から)



4. SS13 礫掘り方 (南東から)

第42図 SS13写真

遺構 凡そ東西1,750cm、南北950cmの範囲に77点の遺物が散在していた。西側は竪穴建物跡SI40(古代)とSI41(弥生時代終末期)により湮滅し、北側は調査区外へと続いている。検出面はⅢ層上である。SS6と比較すると遺物の密度は薄い、北東側に比較的分布の纏まった範囲があり、石皿や大型の礫も検出された。

また、検出範囲の南端部では、立石状の礫が検出された。礫は重さ4,156gの粗粒緑色凝灰岩で、煤が付着していた。礫に伴う明確な掘り込みは検出されず、ピット等に埋設されたものか、立石状に立てられていたかは不明である。

遺物 総数77点で、内訳は土器10点、石器14点、礫53点である。

土器は勝坂式2点、加曾利E式2点、曾利式1点、連弧文3点、不明2点の10点である。いずれも胴部の小片で、細別分類は確認できなかった。

石器は14点で、石鏃3点、石核2点、剥片2点、打製石斧1点、磨石1点、石皿が5点である。石鏃1点を除いてはいずれも割れており、うち8点は被熱していた。このうち石鏃2点(第64・71図7・9)と石皿1点を図示した(第70・77図66)。

礫は53点で、うち30点が被熱していたが、煤の付着は2点のみである。石材は砂岩が主体(40点)で、その他緑色凝灰岩4点、粘板岩・シルト岩・変質安山岩各2点、頁岩・礫岩・変質ドレライト各1点である。

当遺構の帰属時期は、出土土器から縄文時代中期と考えられる。

C 土坑（第43～48図、第7表）

土坑は8基が検出された。遺構略号はSKである。SK107以外は陥し穴で、陥し穴のうちSK167・168・188は、溝形で底部の幅が狭い、いわゆる「Tビット」である。

いずれの土坑からも遺物は出土していないが、検出された層位と形状、覆土の様相から、縄文時代に帰属すると判断した。

SK82 陥し穴。Ⅲ層で検出され、隅丸長方形を呈する。長軸は凡そ南北方向を示している。上部の一部を古代～中世の土坑SK67と攪乱に破壊されている。覆土は、上層の1～4層がⅢ層土ベースの上層で、5・6層はローム粒子を多く含む。下部施設は検出されなかった。

SK84 陥し穴。検出面はⅣ層で、隅丸長方形を呈する。覆土は、上部の1～4層がⅢ層土ベース、5・6層はⅢ・Ⅳ層土ベース、7層はⅣ・Ⅴの混合土層で、下層に行くに従って締まりは強くなる。下部施設は検出されなかった。

SK107 Ⅳ～Ⅴ層で検出された。平面形態は隅丸長方形を呈し、底部は平坦である。北西部はトレンチにより破壊されている。覆土は、最上部の1層がⅢ2層相当土で、他の2～4層はローム粒子やブロックを含む層である。

SK116 包含層掘削中に、Ⅳ～Ⅴ層上で検出された陥し穴である。平面形態は楕円形で、底部は比較的平坦である。下部施設は確認されていない。覆土は9層に分けられ、1層がⅢ層相当土、2～3層が黒褐色土で、4層以下は暗褐色土が中心となる。

なお、半裁時に底部が掘り切れていなかったため、追加で下部の調査を実施している。

SK167 後述するSK168とともにⅣ層面で検出された陥し穴である。平面形態溝形のTビットで、底部は西端がわずかにオーバーハングしている。底面の幅は狭く、壁は開き気味に立ち上がっている。底面には東西それぞれの端部付近にビット状の掘り込みが確認された。

覆土は、1・2層が黒褐色土、3・4層が黄褐色土系で、明赤褐色のスコリアを多く含んでいる。5～9層は下部ビットの覆土で、人為的に堆積したものと思われる。

SK168 SK167と隣接してⅣ層面で検出された陥し穴（Tビット）である。平行ではなく、SK167とは南東側がやや狭まる状態で「ハ」字状に位置している。南東端部がわずかにオーバーハングしており、底部の幅は狭く、壁は、底部から垂直気味に立ち上がり、中位からは開き気味に立ち上がる。下部施設は、南東側でビット状の掘り込みが確認された。

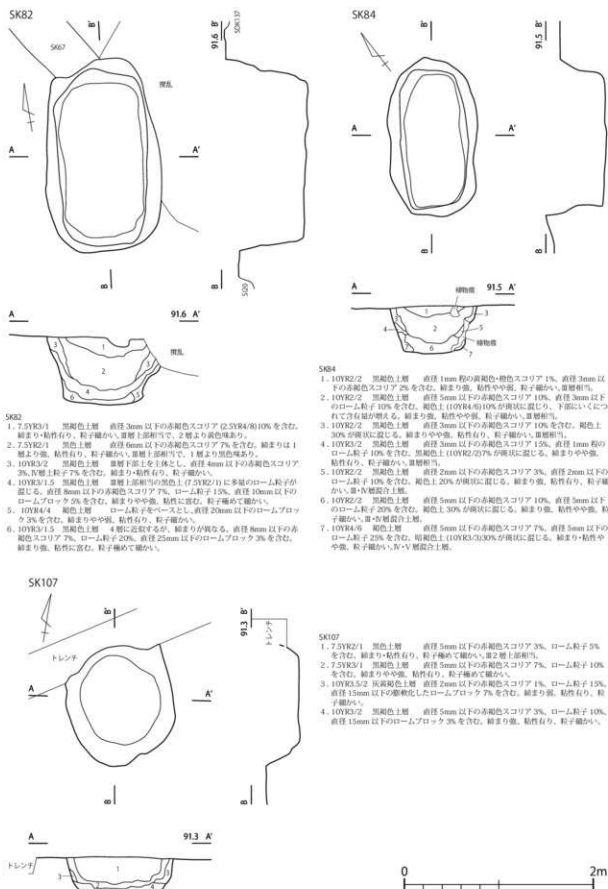
覆土は、1・2層がⅢ層系の黒褐色土、3・4層は壁面の崩落に伴うⅣ・Ⅴ層系の覆土である。

SK188 Ⅳ層面で検出された陥し穴（Tビット）である。検出時、南東側が調査区外へと続いていたため、調査範囲を拡張して調査を行った。

南東、北西の両端部がそれぞれわずかにオーバーハングしており、底部の幅は、中央部付近でやや狭まっている。壁は、中央部付近が開き気味に立ち上がり、それ以外は垂直気味に立ち上がる。また、底面は中央部付近がやや高まりを見せている。下部施設は確認されていない。

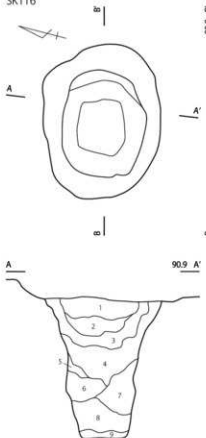
覆土は、1～3層がⅢ2層系の黒褐色土で、5層を中心に径の大きな明赤褐色スコリアを多く含んでいる。

SK189 調査区東端で検出された陥し穴である。検出面はⅢ～Ⅳ層で、隅丸長方形を呈している。壁はやや開き気味に直線的に立ち上がり、中位にわずかな段差を有している。底面は比較的平坦であ

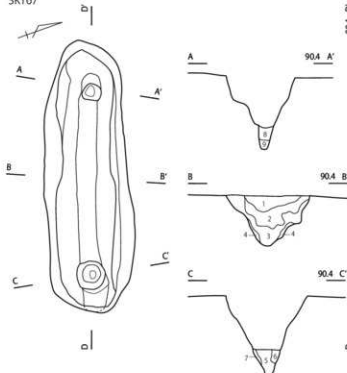


第 43 図 SK82・84・107(1/40)

SK116



SK167

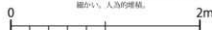


SK116

1. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の褐色スコリア 10%、直径 1mm 粒のローム粒子 3% を含む。締まり強、粘性や中強、粒子細かい。自然堆積。
2. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直径 3mm 以下のローム粒子 7% を含む。暗褐色土 (10YR3/4) 5% が散在に混入。締まり・粘性強、粒子細かい。
3. 10YR2/2 黒褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直径 5mm 以下のローム粒子 15% を含む。暗褐色土 20% が散在に混入。締まり・粘性強、粒子細かい。
4. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%、ローム粒子 15% を含む。暗褐色土 20%、黒褐色土 (10YR2/2) 10% が散在に混入。締まり極めて強、粘性強、粒子細かい。
5. 10YR3/2 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア 7%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 20% を含む。褐色土 (10YR4/6) 30% が散在に混入。締まり極めて強、粘性強、粒子細かい。
6. 10YR4/6 褐色土層 直径 3mm 以下の赤褐色スコリア 5%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 7% を含む。黒褐色土 5% が散在に混入。締まり・粘性極めて強、粒子細かい。
7. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 10%、直径 3mm 以下のローム粒子 20% を含む。褐色土 15% が散在に混入。締まり・粘性極めて強、粒子細かい。
8. 10YR3/4 暗褐色土層 直径 10mm 以下の赤褐色スコリア 15%、直径 3mm 以下の黒色スコリア 5%、ローム粒子 20% を含む。褐色土 20% が散在に混入。締まり・粘性極めて強、粒子細かい。
9. 10YR3/3 暗褐色土層 直径 5mm 以下の赤褐色スコリア 10%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 5%、直径 3mm 以下のローム粒子 30% を含む。褐色土 15% が散在に混入。締まり・粘性極めて強、粒子細かい。

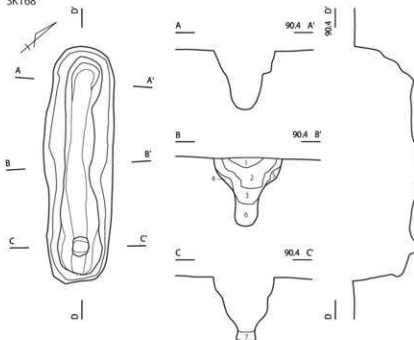
SK167

1. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 3% を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 7% を含む。締まり強、粘性有り。粒子極めて細かい。自然堆積。
3. 10YR4/2 灰黒褐色土層 各層上をベースとし、直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア 15% を含む。締まり強、粘性やや弱、粒子細かい。自然堆積。
4. 10YR5/3 に近い灰褐色土層 地表面に作る土層とし、灰褐色土をベースとし、直径 10mm 以下の明赤褐色スコリア 5% を含む。締まりやや強、粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
5. 10YR5/2 黒褐色土層 直径 5mm 以下の明赤褐色スコリア 3%、ローム粒子 10% を含む。締まり・粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
6. 10YR4/3 に近い灰褐色土層 直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 10%、ローム粒子 20%、直径 5mm 以下のロームブロック 5%、直径 2mm 以下の黒色スコリア 7% を含む。締まり強、粘性やや中強、粒子細かい。人為的堆積の可能性有り。
7. 10YR5/4 に近い灰褐色土層 ローム粒子をベースとし、直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 7% を含む。締まり強、粘性有り。粒子細かい。人為的堆積の可能性有り。
8. 10YR3/2 黒褐色土層 直層上にIV層上が混在。直径 7mm 以下の明赤褐色スコリア 10% を含む。締まりやや中強、粘性強。粒子極めて細かい。人為的堆積。
9. 10YR4/4 褐色土層 ローム粒子をベースとし、直径 20mm 以下のロームブロック 15%、直層上粒子 20% を含む。締まり有り、粘性強。粒子極めて細かい。人為的堆積。



第44図 SK116・167(1/40)

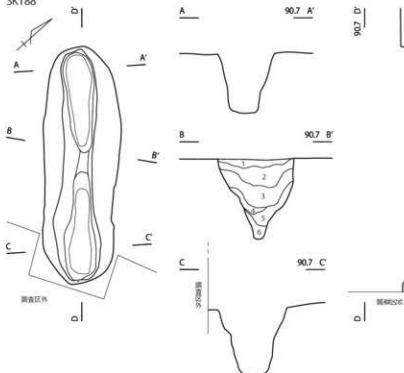
SK168



SK168

1. 7.5YR3/3 黒褐色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア3%を含む。締まり・粘性有り。粒子極めて細かい。自然堆積。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 直径7mm以下の明赤褐色スコリア7%を含む。締まり強。粘性有り。粒子極めて細かい。自然堆積。
3. 10YR4/2 灰黒褐色土層 灰黒土をベースとし、直径10mm以下の明赤褐色スコリア15%を含む。締まり強。粘性やや強。粒子細かい。自然堆積。
4. 10YR5/3 濃い黄褐色土層 埋込層に伴うV3層上・V4層上をベースとし、直径10mm以下の明赤褐色スコリア5%を含む。締まりやや強。粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
5. 10YR3.5/2 灰黒褐色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア7%を含む。締まり強。粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
6. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径10mm以下の明赤褐色スコリア20%を含む。締まり強。粘性有り。粒子細かい。自然堆積。
7. 10YR3/2 黒褐色土層 直径7mm以下の明赤褐色スコリア5%、ローム粒子15%を含む。締まり強。粘性に富み、粒子極めて細かい。

SK188

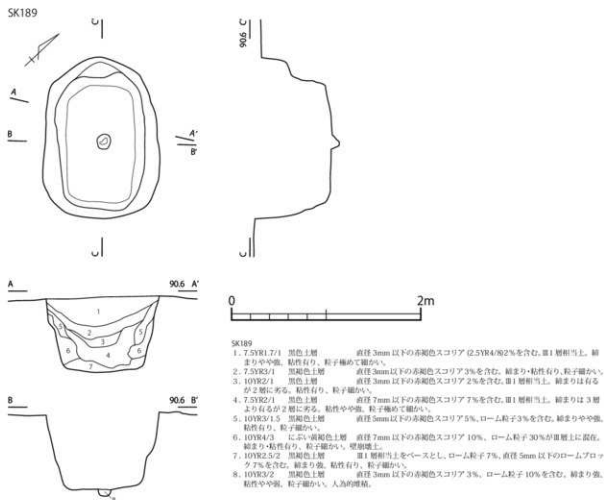


SK188

1. 7.5YR2.5/1 黒褐色土層 埋込層相当をベースとし、直径3mm以下の明赤褐色スコリア5YR5/6、V4層由来の赤褐色スコリア(2.5YR4/6)各1%を含む。締まり・粘性有り。粒子極めて細かい。
2. 7.5YR3/1 黒褐色土層 埋込層相当をベースとし、直径5mm以下の明赤褐色スコリア3%を含む。締まり・粘性有り。粒子極めて細かい。自然堆積。
3. 7.5YR2.5/2 黒褐色土層 埋込層相当をベースとし、直径10mm以下の明赤褐色スコリア・直径5mm以下の赤褐色スコリア各5%を含む。締まりはやや強で1-4層より有る。粘性有り。粒子極めて細かい。
4. 7.5YR3/2 黒褐色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各3%を含む。締まりはやや強。粘性有り。粒子極めて細かい。
5. 10YR3/3 暗褐色土層 直径10mm以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各10%を含む。締まり強。粘性有り。粒子極めて細かい。
6. 10YR4/3 濃い黄褐色土層 直径5mm以下の明赤褐色スコリア・赤褐色スコリア各5%を含む。締まり強。粘性有り。粒子極めて細かい。



第45図 SK168・188(1/40)



第46図 SK189(1/40)

る。また、底面には中央部に下部施設状の小さな円形の掘り込みを有している。

覆土は8層に分けられ、そのうち1・3・4層がⅢ1層系の土壌で、6層は壁面の崩落に伴う層と考えられる。また8層は下部施設の覆土である。

D ピット (第49・50図、第7表)

縄文時代のピット (遺構略号 SP) は、2基が調査された。土坑と同様、遺物からは帰属時期を同定することはできなかったが、覆土の様相から判断した。

SP531 調査区中央部、SKK380 底部のV層面に単独で検出された。平面形態は隅丸方形である。覆土のうち1・2層は柱抜取穴覆土、3・4層は掘り方覆土である。遺物は検出されなかった。

SP619 調査区の東側、SI57の南約5.5mで確認された。検出面はV層である。円形を呈し、底面は凹凸がある。覆土は2層に分けられ、1層はⅢ層土をベースとし、後述の礫を支えており、2層はローム粒子や同ブロックを主体としている。

中央部には、北東に傾いた状態で、細長い大型の礫が検出された。石材は閃緑岩で、上部に割れ口があり、被熱の痕跡は無い。石皿として使用された可能性が考えられる。この閃緑岩の他に遺物は検出されなかった。

(相原)



1. SK82 土層断面 (北から)



2. SK82 全景 (北から)



3. SK84 全景 (北東から)



4. SK107 全景 (南から)



5. SK116 検出状況 (西南西から)



6. SK116 土層断面 (西南西から)

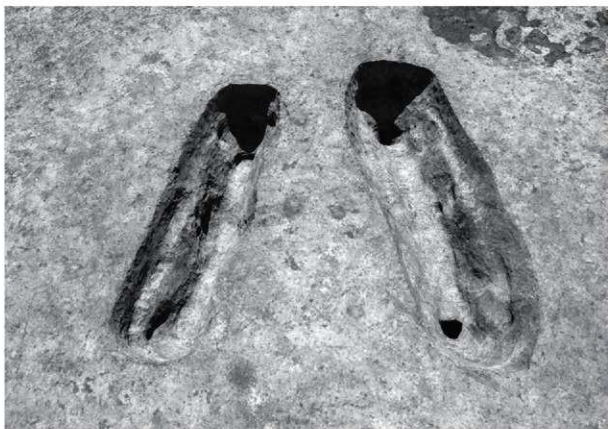


7. SK116 下部土層断面 (西南西から)



8. SK116 全景 (西南西から)

第 47 図 SK82・84・107・116 写真



1. SK167(右)・168 全景(北西から)



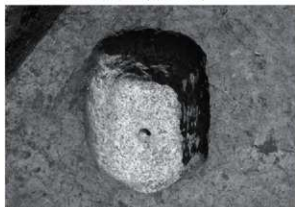
2. SK167 土層断面 B-B' (南東から)



3. SK168 土層断面 B-B' (南東から)

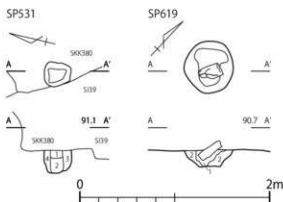


4. SK188 全景(北西から)



5. SK189 全景(北西から)

第48図 SK167・168・188・189写真



第49図 SP531・619(1/40)

SP531

1. 10YR2/1 黒色土層 ローム粒子3%を含む、締まり強、粘性弱、粒子極めて細かい、人為的堆積、柱状破に覆上。
2. 10YR3/1 黒褐色土層 直径20mm以下のロームブロック7%がやや散在を呈する。他に、ローム粒子5%を含む、締まり・粘性有り、粒子極めて細かい、人為的堆積、柱状破に覆上。
3. 10YR3/1 黒褐色土層 直径3mm以下の赤褐色スコリア 65YR4/801%、ローム粒子10%、直径15mm以下のロームブロック3%を含む、締まり強、粘性有り、粒子極めて細かい、人為的堆積。
4. 10YR3/2 黒褐色土層 直径20mm以下のロームブロック15%を含む、締まり強、粘性有り、粒子細かい。

SP619

1. 7.5YR2/1 黒色土層 厚層土をベースとし、直径3mm以下の赤褐色スコリア2%、ローム粒子3%を含む、締まり・粘性有り、粒子細かい、人為的堆積。
2. 10YR3/2 黒褐色土層 直径20mm以下の膨化化したロームブロック15%がやや中程度の散在を呈する。他に、ローム粒子40%、直径5mm以下の赤褐色スコリア3%を含む、締まり・粘性有り、粒子細かい、人為的堆積。



1. SP531 土層断面(東北東から)



2. SP619 土層断面(南東から)



3. SP619 遺物出土状況(南から)

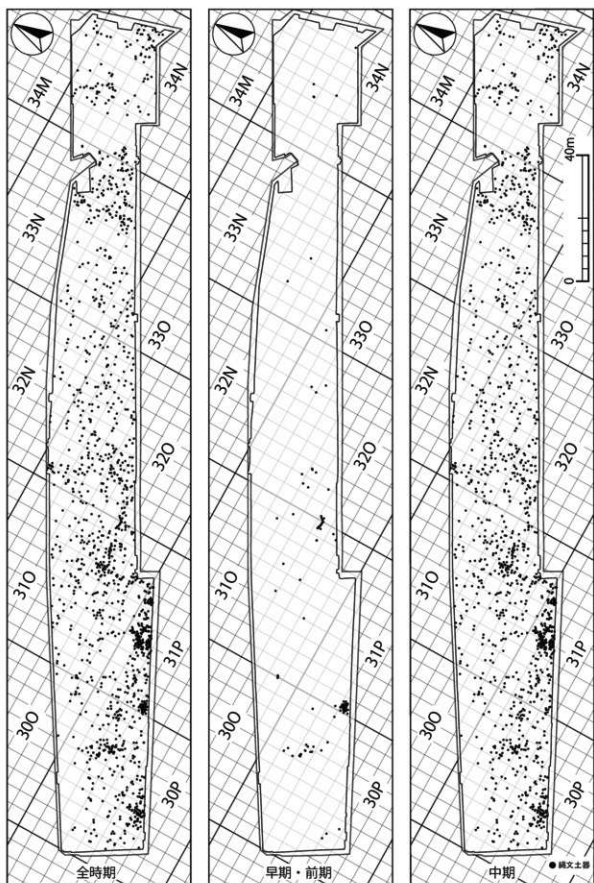


4. SP619 全景(南から)

第50図 SP531・619写真

第7表 縄文時代土坑・ピット一覧表

遺構名	グリッド	図面番号		形状			サイズ (cm)			様式	遺物	備考 (重複関係等)
		平面	断面	長軸	短軸	深さ						
SK82	310-93	第43図	第47図	圓丸長方形	C	202	123	87	Ⅲ	無し	SK67に切られる。	
SK84	30P-56	第43図	第47図	圓丸長方形	C	168	95	64	Ⅳ	無し		
SK107	310-83・84	第43図	第47図	不整形円形	C	126	113	37	Ⅲ-V	無し		
SK116	310-29・38	第44図	第47図	楕円形	B	162	124	171	Ⅲ-V	無し		
SK167	33N-56・66	第44図	第48図	圓丸長方形	B	283	92	87	Ⅳ	無し		
SK168	33N-56・57	第45図	第48図	圓丸長方形	E	246	73	72	Ⅳ	無し		
SK188	34N-51・61	第45図	第48図	圓丸長方形	B	249	82	85	Ⅳ	無し		
SK189	34N-28・29	第46図	第48図	圓丸長方形	E	171	122	89	Ⅲ-V	無し		
SP531	320-25・26	第49図	第50図	圓形	A	28	26	24	50X380cm (V)	無し	SK89、SK389に切られる。	
SP619	34N-51	第49図	第50図	円形	B	55	52	18	Ⅲ-V	Ⅰ		



第 51 図 縄文時代土器分布図 (1/1,200)

2) 遺物

A 土器 (第51～63図、第8表)

今回の調査区で出土した縄文土器は、断続的ではあるが早期前半から後期前半までを確認している。時期的な分布状況を概観すると、中期に帰属する資料が圧倒的に多くほぼ全域に分布しており、30・31 Pグリッドの南端でやや密に分布する傾向が窺える (第51図)。ただし、当該期の遺構に伴うものではない。出土土器は大半が小破片であり復元率も低く、接合する資料が少ない。この状況は、特に出土点数を誇る中期において集落本体に直接廃棄された状況とは異なる二次廃棄的な様相を示すものと思われ、当該区が集落本体の隣接もしくは近接箇所に対応する可能性を示唆するものと考えられる。

以下、型式判定可能で掲載可能な資料を提示し、解説を行う。なお、本文では記載しない各資料の文様、胎土、色調等の属性に関しては、観察表 (第8表) を参照されたい。

早期の土器 (1～3)

1～3は、いずれも早期前半の土器の燃糸文系土器である。胎土に繊維を含み早期後半に属する条痕文系土器の小破片も数点出土しているが、掲載に耐えないため割愛した。1・2は、夏島式もしくは稲荷台式に相当しよう。1は口唇部がやや肥厚する口縁部破片であり、条は太く条間が密な燃糸文Rを施文している。2は胴部破片であり、条は細く条間が密な燃糸文Lを施文している。3は無文の胴部破片で砂粒を多く含み、厚みのある断面であり、燃糸文系終末期の平板式と思われる。

前期の土器 (4～10)

4～10は、いずれも前期後半の諸磯式に帰属しよう。今回の調査では明確に前期前半と特定できる土器を確認できていない。4・5は、幅の狭い半截竹管を用いた施文の特徴から諸磯a式に帰属する。4・5ともに地文として縄文LRを施文後、半截竹管による2本単位の平行沈線描出で横帯もしくは曲線文を施している。図示すると同一個体の様であるが、胎土の違いから明らかに別個体である。6・7は、同一個体の可能性がある諸磯b式の破片である。頸部が大きく外反し、口縁部が強く内屈する形状を呈する深鉢である。いずれも器面が荒れており明確な主文様は認められず、6には条の粗い縄文LRが、7にはLLもしくはRRの撚り戻し縄文が施されているようである。8～10は、文様の特徴から諸磯c式と判断した。8は口唇部に浅い刻みを巡らせ、口縁部には諸磯c式に特徴的な幅の狭い半截竹管を用いた細条線による集合沈線をヨコ・ナナメに施す。10の胴部資料にも同様な集合沈線を認める。9は集合沈線を施した上に、隆帯へ半截竹管による連続刻みを加えた諸磯c式に特徴的な結節状浮線文を口唇部では横位、口縁部には斜位に施文する。

中期の土器 (11～12)

今回の調査区では、当該期の土器が最も多く出土している。中期については、従来の型式記載に加えて近年、縄文集落研究グループ・セツルメント研究会により関東地方西南部、多摩丘陵・武蔵野台地の中期編年案が「多摩丘陵・武蔵野台地を中心とした縄文時代中期の時期設定」(以後、「新地平編年」と呼称)として提示されているので、併記したい (小林・中山・黒尾 2004)。

11～21は、中期初頭の五領ヶ台式である。文様の特徴から11～13は五領ヶ台Ⅰ式 (新地平編年1期) に、14～17は五領ヶ台Ⅱ式 (新地平編年2～4期) に該当しよう。11は口縁部直下に小形の橋状把手が付く胴部上半片である。橋状把手の両端には刻みを連続させ、胴部本体にはタテ・ヨコに集合沈線を施す。12の口縁部には3段の微隆帯上に縄文RLを施し、微隆帯間には沈線楕円文

を付加する。13の口縁部には口唇部に浅い刻みを巡らせ、隆帯区画を施した口縁部には格子の細沈線を充填した上に横位の連続刺突を付加し、直下の胴部上半には結節状沈線を斜行させている。14は波状口縁を成す。無文帯である口縁部直下より、半載竹管を用いて連続刺突を加えた隆帯文が斜行する。地文は縄文RL。15・17はいずれも小波状を成す口縁部資料であり、口唇部には連続刺突が巡り、口縁部内には太沈線による円文もしくは渦巻文の脇に三角文を印刻する。15の口唇部には縄文RLを認める。16は頸部に隆帯で横帯区画した口縁部文様帯で、15・17と同様な文様構成を持つ資料と思われる。胴部には隆帯が斜行し、隆帯間に横位の短沈線を充填させているようである。18は地文縄文RLに幅狭な半載竹管による平行沈線を施す。21は五領ケ台式の深鉢底部破片である。底部付近まで隆帯文が垂下し、隆帯脇には結節状の沈線文が並走する。

19・20は、浅鉢の口縁部資料である。ともに幅狭な口縁部が内屈する器形を呈する。19の口縁部文様帯には横位の角押文が3段重畳する。20は刻みを施した扇状隆帯文が展開し、隆帯文区画内に角押文が5段重畳する。

22～48は、中期前半の勝坂式に帰属しよう。22～33は、勝坂1式（中部地方の井戸尻編年による貉沢～新道式に併行）である。文様の特徴から22～24は、貉沢式併行（新地平編年5期）に概ね相当しよう。22・23の口縁部には2列の角押文を矩形に施す。24は波状口縁で、波頂部に向かって3列の角押文を弧状に施している。25～30は新道式併行（新地平編年6期）に比定されよう。充填文様として「ペン先文」と呼称される三角押文と半載竹管の連続押捺による「キャタピラ文」を特徴的に使用。25の口縁部には、隆帯による三角区画内に1列のペン先文と三叉文を施す。26はキャタピラ文とペン先文を組み合わせる。27は波状口縁で隆帯三角区画内に幅広と幅狭なペン先文をタテ・ヨコに充填する。28は渦巻状の小突起を有し、隆帯による楕円区画内もしくは三角区画内に幅狭なキャタピラ文を多段に施す。29は隆帯楕円区画内に沿って幅狭なキャタピラ文を巡らせ、ペン先文をタテに充填する。33の胴部破片は次段階へ続くパネル文の初見とされ、半載竹管による方形区画内に刺突を巡らせている。

31・32は、共に勝坂式と併行する阿玉台式の影響を受けた胴部破片である。阿玉台式に特徴的なヒダ状圧痕を認めるが、雲母を多量に含む胎土を有しておらず、阿玉台式とは分別した。

34～40は、勝坂2式（井戸尻編年による藤内式、新地平編年による7・8期）に概ね帰属しよう。34は三角状の幅広な微隆帯上に縄文RLを施し、隆帯脇に波状沈線を巡らせる。35は刻みを付加した隆帯三角区画に沿ってやや幅狭なキャタピラ文が巡り、内部に「玉抱き三叉文」を認める。36の胴部破片には刻みを有する隆帯に沿って幅広なキャタピラ文とペン先文が楕円に巡り、藤内式に特徴的な「ワラジムシ文」を施す。37は隆帯楕円区画に沿って幅広なキャタピラ文を施す。38・39にはともに隆帯楕円区画内へ楕円もしくは縦位・横位沈線文を充填する。40の胴部破片には交互刺突を加えた垂下隆帯文に沿って斜行沈線を多段に施し、沈線間に刻みを充填する。

41～44・46は、勝坂3式（井戸尻編年による井戸尻式、新地平編年の9期）に相当しよう。41・42は井戸尻式に特徴的な大波状口縁を有する深鉢「多喜窪タイプ」の口縁部である。いずれも多喜窪タイプの特徴である口唇部に向かって口縁部が強く内屈し大きく張り出す器形が窺える。41はタテに長いU字状の幅広隆帯に交互刺突を加え、隆帯脇に沈線と横位の短沈線を施す。42は幅広の隆帯区画内に三叉文と大形の円形刺突文を認める。43は刻みを有する多段の斜行隆帯文下の胴部

に縄文Lを充填する。44は頸部に交互刺突を加えた幅広隆帯による区画を施す。46は眼鏡状突起が残存し、直下より連続刺突を加えた隆帯文を垂下させ燃系文Lを施す。

45・47・48は、勝坂式の浅鉢に分類した口縁部資料である。概ね勝坂2～3式に相当しよう。45は口唇部が外反し、口縁部が強く内屈する器形を呈する。内面に赤色塗彩がわずかに残存している。47は波状口縁であり、口唇部がやや肥厚し波頂部に刻みを施す。48は強く内屈する口縁部に隆帯と沈線の組み合わせによる楕円区画文が展開する。

49～52は阿玉台式に帰属しよう。いずれも阿玉台式に特徴的な雲母を多量に含む胎土を有し、文様から勝坂1式後半～2式前半（新道～藤内1式）併行の阿玉台I b～II式（新地平編年6～7a期）に比定されよう。49は波状口縁であり、口縁部に2列の結節沈線と1条の平行沈線が横位に巡る。50・51の胴部資料には刻みを付加する隆帯曲線文を施し、隆帯脇に2列もしくは1列の結節沈線文が並走する。52の器面には阿玉台I a～II式の胴部に特徴的なヒダ状王痕を認める。

53～78は、中期後半の加曾利E式（E1～3式、新地平編年10～12期）である。今回、明確なE4式は確認していない。53～61は口縁部破片で、53・54はE1式（新地平編年10期）、55～61はE2式（新地平編年11期）に分類されよう。53・54はいずれも口縁部文様帯内に隆帯脇に沈線を付加した横S字文が横位に展開する。地文はE1式に多い燃系文である。55・56の口縁部は隆帯による渦巻文と楕円区画文が交互に展開する文様帯構成と考える。楕円区画内には55が縄文RL、56が縦位の短沈線を施す。57は渦巻文に剣先文を付加する。59は細沈線描出、60は幅広の太沈線描出による渦巻文と楕円区画文が交互に展開しよう。61は無文で加曾利E式に一般的なキャリパー形を呈さず直線的に開く器形で、頸部に口縁部区画の平行沈線が巡る。62の胴部破片はE1式に比定され、地文燃系文Lに半截竹管による半隆起伏の沈線文を施す。63～70・76・77はE2式に比定され、地文縄文に2～3本単位の沈線文が特徴である。64は東北地方大木8b式に共通する渦巻文を認める。66は重弧線文の直下より1本の蛇行沈線文が垂下する。

71～75・78は、E3式に概ね帰属しよう。71は小突起を有する波状口縁で、波頂部に渦巻文、直下に対向する円孔文と渦巻文を施す。72・74はE3式に特徴的な磨消縄文を認める。73は72より一段階新しいE3式新（新地平編年12b期）で口縁部文様帯を喪失する。78は今回の調査では数少ない接合資料である。胴部は大きく直線的に開きながら立ち上がり、口縁部が内湾する器形を呈する。口縁部は2重沈線による弧線文が展開しており、後述する連弧文土器の影響を受けたものと判断する。胴部は弧線文間から磨消の逆U字文が垂下する文様構成である。口縁部径は推定23.5cm、残存高は22.1cmを測り、比較的小形の深鉢である。75はE3式段階の鉢である。屈曲する肩部に横位隆帯を施し、2～4単位の橋状把手が付くタイプと思われる。胴部には蛇行沈線を施すようである。

79～86は、連弧文土器である。概ね加曾利E2式併行（新地平編年11期）に相当しよう。いずれも地文条線に2～3本の平行沈線と連弧文を組み合わせた文様構成を取る。81a・bは接合していないが、胎土、施文描出より同一個体と思われる資料である。地文は半截竹管を用いた平行沈線であり、平行沈線間に円形刺突を加えた頸部区画を境に、連弧文が崩れた波状文が上下に展開する。

87～121は、中期後半の曾利式である。87は勝坂式終末期の水煙文土器の系譜にある曾利1式（加曾利E1式併行）深鉢口縁部の中空把手であり、波頂部に円環状の把手を付し、直下より蛇行隆帯等の装飾を密に施している。88・89も曾利1式に帰属しよう。88は頸部に2段の蛇行隆帯が横走し、

胴部には地文に半截竹管を用いた縦位の平行沈線を充填した後、同様の半截竹管で押し引き刺突を施す2本隆帯が垂下する。89の口縁部には半截竹管による斜行平行沈線と逆方向に斜行する細隆帯で格子目状の文様構成を成す「籠目文」が窺える。90・91はE2式併行の曾利Ⅱ式に分類できよう。口縁部に曾利式特有の「重弧文」を認める。92・93は間隔が疎らで崩れた重弧文の点からE3式併行の曾利Ⅲ式と思われる。94・95・99は斜行沈線文を施す深鉢口縁部である。曾利Ⅱ～Ⅲ式に相当しよう。頸部より大きく開く器形を呈し、94には頸部に蛇行隆帯が巡る。97・98は無文の口縁部で、口唇部が内側に肥厚する曾利式に特徴的な形状である。96は波状口縁を成し、71のE3式と同様な文様構成を取る曾利Ⅲ～Ⅳ式であるが、地文に縄文ではなく曾利式特有の短沈線を用いる。103も同様に隆帯渦巻文間に短沈線を充填する。104～107は概ね曾利Ⅱ式～Ⅲ式に帰属しよう。地文に条線もしくは沈線を縦位に充填する。104の胴部破片には隆帯渦巻文から2本の懸垂文が派生し、105は隆帯懸垂文と蛇行文を交互に配する。108～111は曾利Ⅳ～Ⅴ式に分類されよう。108・109・111は沈帯懸垂文間に斜行短沈線もしくは綾杉文を充填し、Ⅳ式新段階からⅤ式古段階（加曾利E3式新段階）に相当しよう。110は幅広沈線による懸垂文間に短沈線の「雨垂文」を充填しており、加曾利E4式（新地平編年13期）併行の曾利Ⅴ式新段階に帰属しよう。

115は曾利Ⅲ～Ⅳ式に特有の鉢もしくは壺形土器の底部付近の資料である。おそらく胴部には大形の渦巻文を施し、地文として残存部の様に円形刺突を充填するものと思われる。

114・116～121は曾利式の浅鉢に該当する。但し、118は加曾利E式の可能性もある。いずれも肩部区画文内に沈線もしくは条線を施し、概ね曾利Ⅱ式～Ⅲ式に相当しよう。114は半截竹管による押し引きを施した隆帯区画文が一部に残存しており、曾利Ⅰ式に遡る可能性があろう。116～120は肩部に渦巻文と楕円区画文を組み合わせた文様構成を取る。121は口縁部無文のタイプで、口唇部は曾利式特有の肥厚する形状となる。

後期の土器ほか（122～137）

122・123は、後期初頭の称名寺Ⅰ式（新地平編年の14期）に相当する。沈線描出によるJ字文に充填縄文を施している。124～127は、後期前半の堀之内Ⅰ式に概ね該当しよう。124・127は「下北原タイプ」と呼称される沈線文系深鉢である。横位沈線を施す有段口縁、縦位展開の沈線文が特徴である。125は胴部が大きく張り出す鉢形土器の胴部と判断され横位と斜位の2本沈線が認められる。128は崩れた重三角文もしくは渦巻文が描かれており、堀之内Ⅱ式の新段階の可能性があろう。

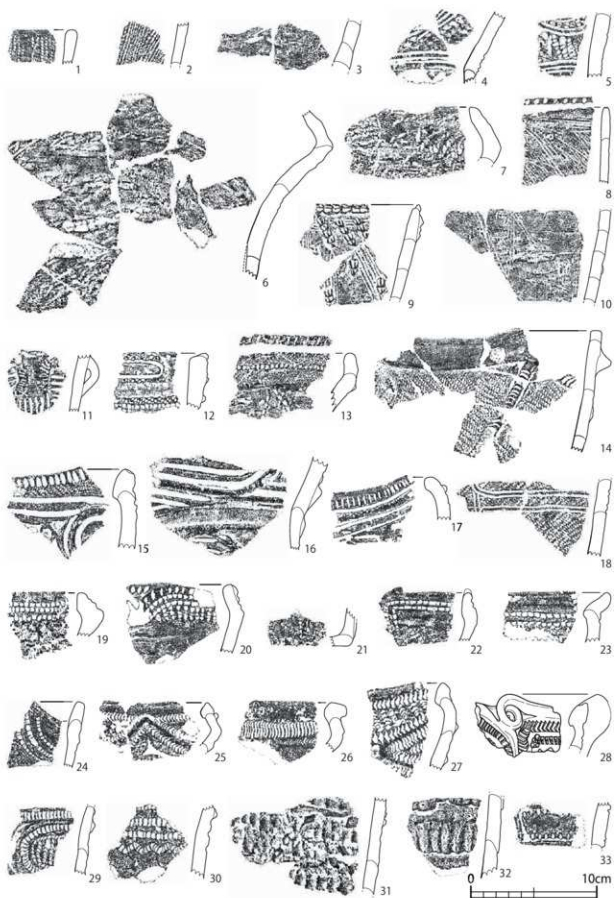
129～137は中期～後期の胴部下半から底部の資料を一括した。135を除きいずれも文様が認められない。断面形状から130・132・133・136は浅鉢に分類されよう。

B 土製品（第57・63図1～9、第8表）

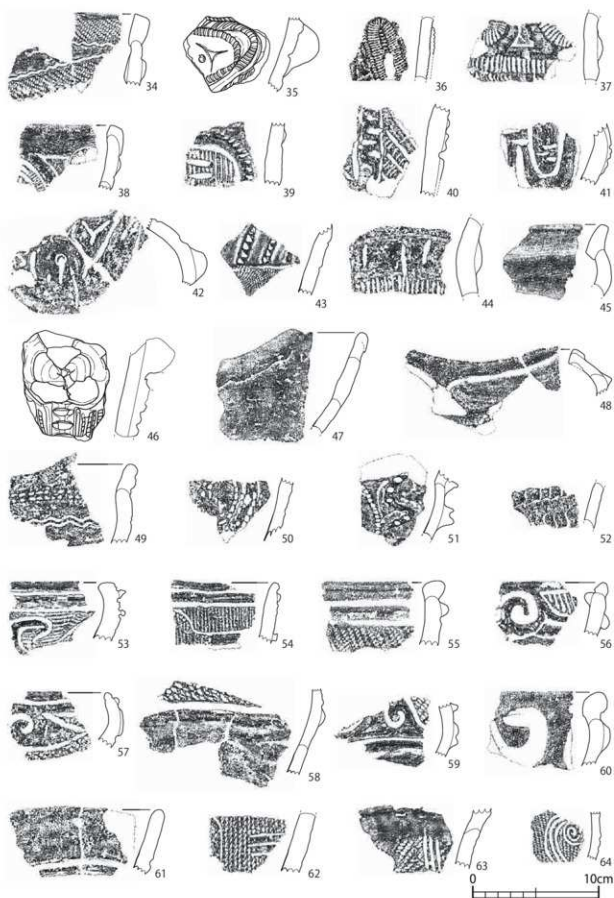
縄文時代の土製品は、出土土器の時期的傾向を考慮すれば、概ね中期に帰属するものとする。

1～5は、深鉢土器破片の側縁を加工した「土製円盤」である。1は勝坂Ⅰ式、2は勝坂Ⅱ式、3～5は加曾利E2式の胴部破片を用いる。側縁加工は3タイプに分かれ、2・4は側縁の打ち欠きのみであり、1は一部に磨きを加え、3・5はほぼ全周に磨きを施す。平面形態は1～4が垂円形もしくは円形に近い多角形状を呈しており、5のみ長方形を呈する。

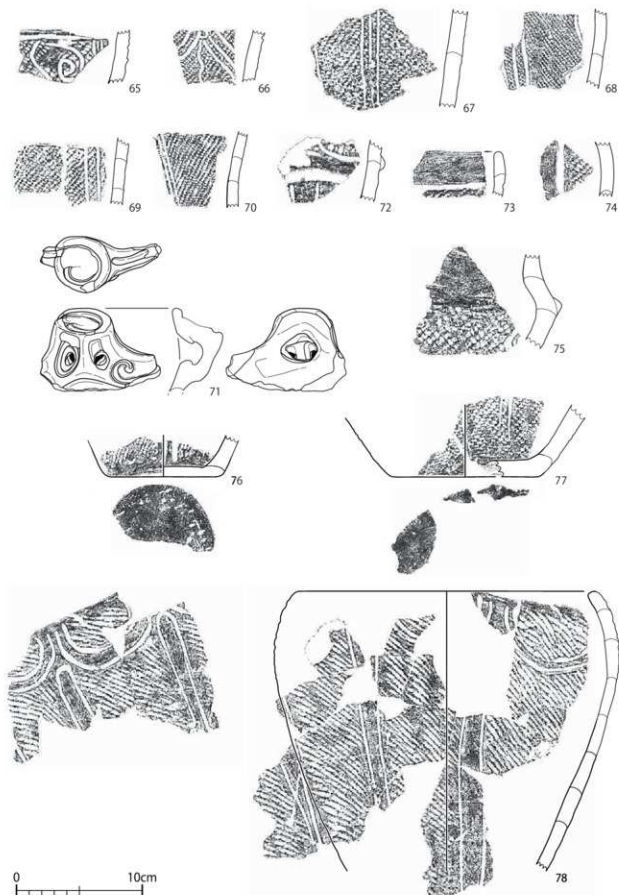
6は、土偶の腕部破片と判断する。残存部の平面形状はやや湾曲している。両面に2本沈線を認める。おそらく中期に帰属するものと思われるが、中期後半の関東地方西南域、武蔵野台地・多摩丘陵



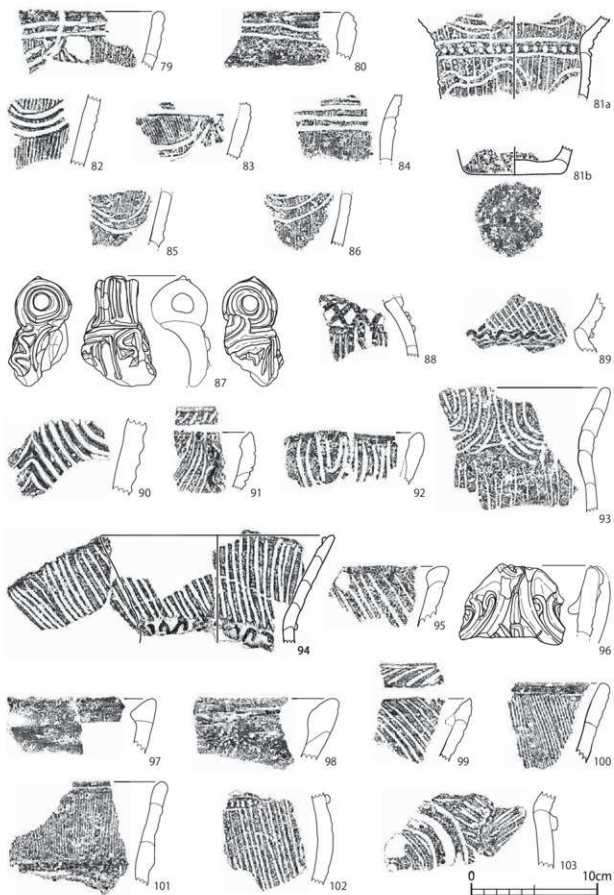
第 52 図 縄文土器 (1)(1/3)



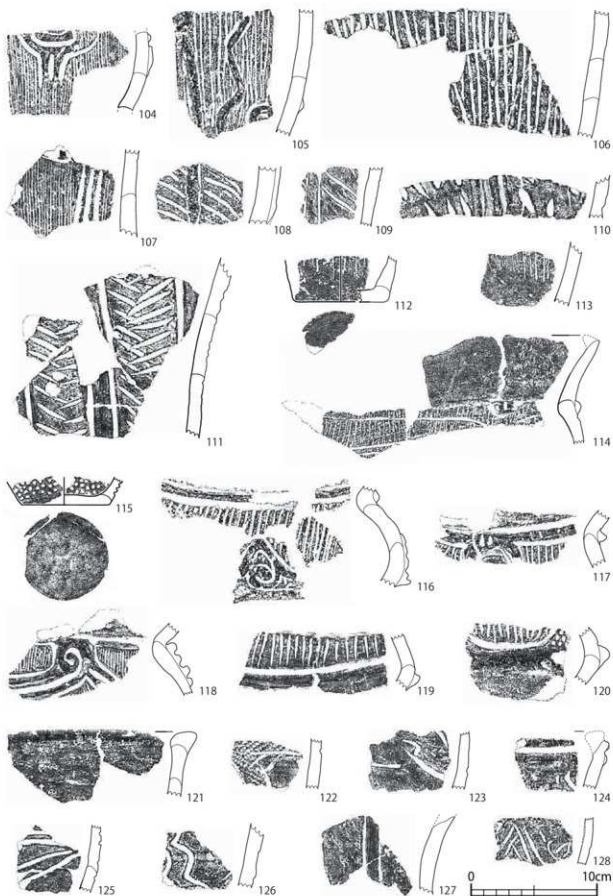
第 53 図 縄文土器 (2)(1/3)



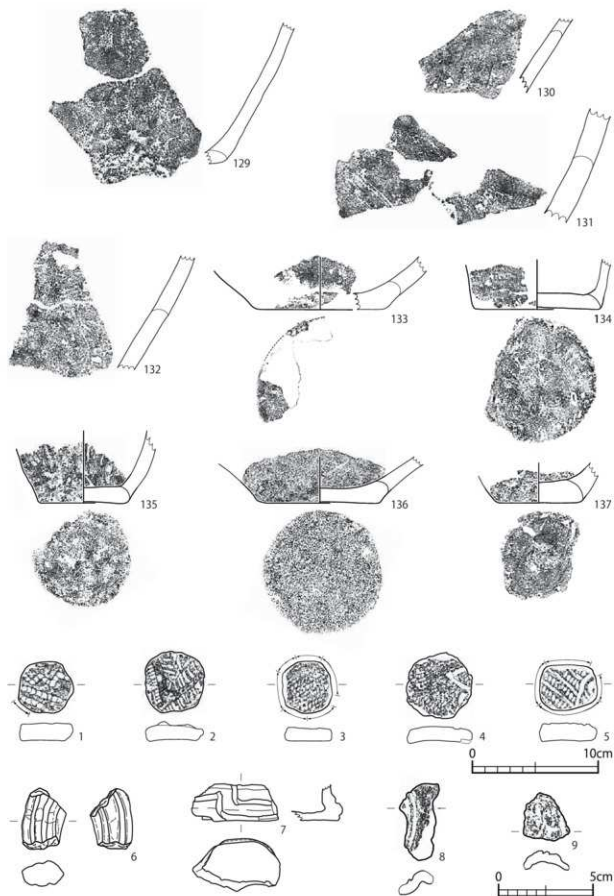
第 54 図 縄文土器 (3)(1/3)



第55図 縄文土器 (4)(1/3)



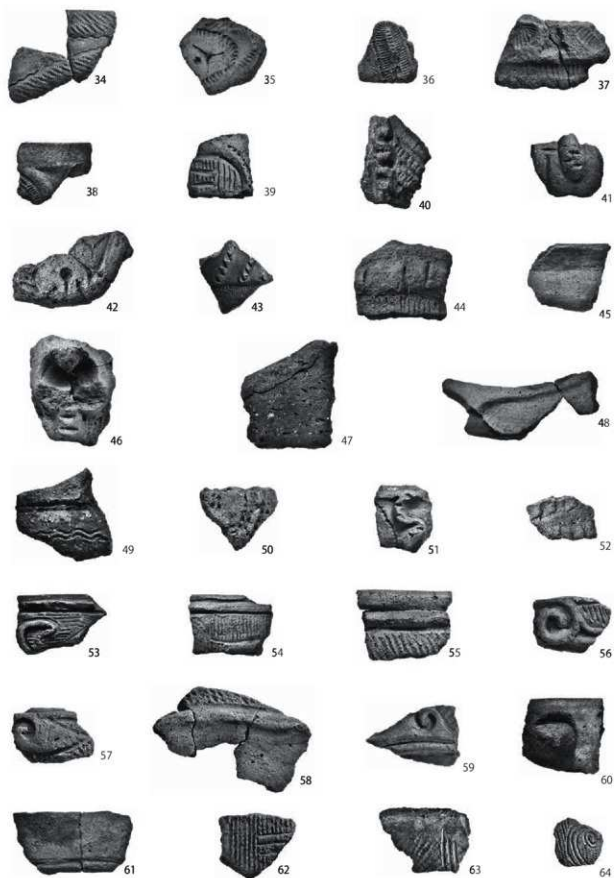
第 56 図 縄文土器 (5)(1/3)



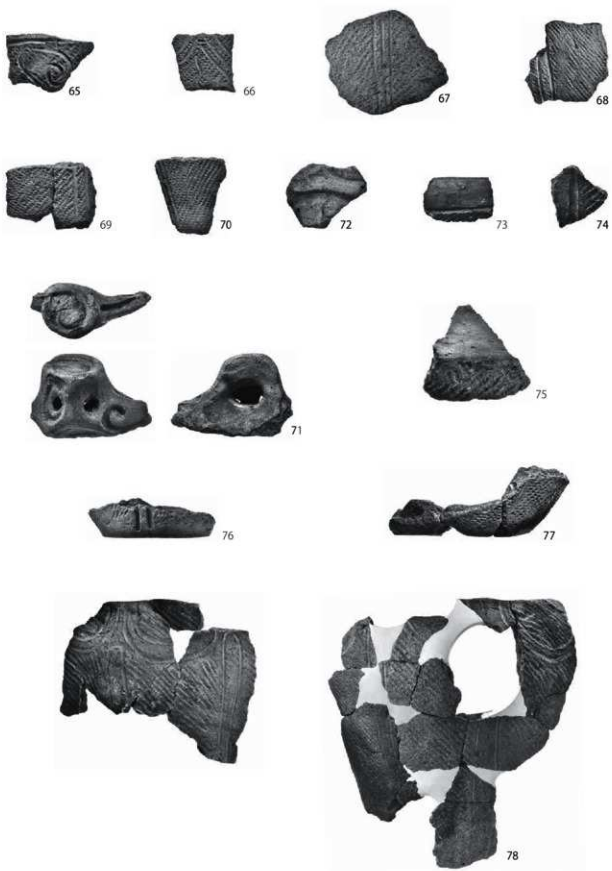
第 57 図 縄文土器 (6)・土製品 (1/3・1/2)



第 58 図 縄文土器写真 (1)



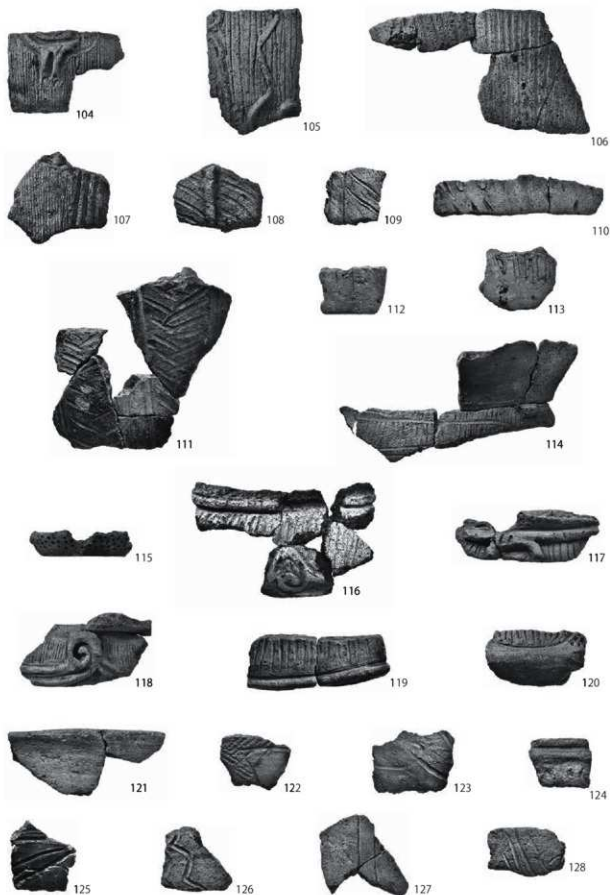
第 59 図 縄文土器写真 (2)



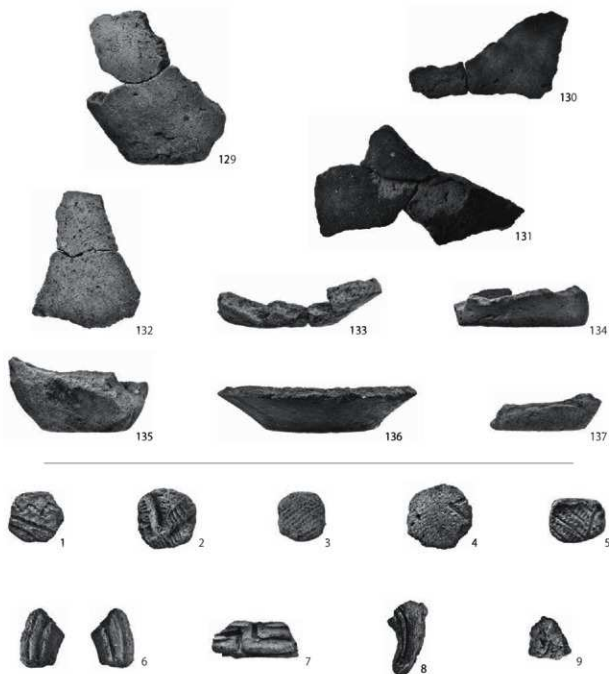
第 60 図 縄文土器写真 (3)



第 61 図 縄文土器写真 (4)



第 62 図 縄文土器写真 (5)



第63図 縄文土器・土製品写真(6)

に主たる分布をなす「背面人体文土偶」に属するならば、比較的大形のサイズと推察する。

7は、ミニチュア土器の底部付近の破片と思われる資料である。底部がやや張り出す断面形状を呈し、底部直上にクランク状の沈線文が2本観察される。残存部から推察すると、底面は円形ではなく不整楕円形を呈する様であり、他の土製品である可能性も否定できない。

8・9は、断面形態がかなり湾曲し、内面の調整が土器に比べて不十分であり、その残存状況からミニチュア土器ではなく土鈴と判断する。8には2本沈線を認める。

第8表 縄文時代土器観察表(1)

図 番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の描文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	34N-45	早期前半	夏島～稲荷台	深鉢	口縁	条が太く条間が密な燕条文	長石、輝石、石英を含む。	普通	外10YR6/4にぶい黄褐色 内10YR6/4にぶい黄褐色	
2	31O-85	早期前半	夏島～稲荷台	深鉢	胴	条が細く条間が密な燕条文	石英、雲母、チャートを含む。	普通	7.5YR7/6褐色 7.5YR5/1黒灰	
3	SKK10530P-63・64 30P-63	早期前半	平坂	深鉢	底	無文	石英、長石、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
4	31O-46 33O-1	前期後半	諸磯a	深鉢	胴	地文LR 縦状な平截文 管による平行沈線文	砂粒を多く含む。	普通	7.5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR4/3褐色	胎土からうとは別個体
5	31O-67	前期後半	諸磯a	深鉢	胴	地文LR 縦状な平截文 管による平行沈線文	長石、輝石、石英を含む。	普通	7.5YR7/6褐色 7.5YR7/4にぶい褐色	
6	DS1131O-60 31O-50・70 32O-42・61	前期後半	諸磯b	深鉢	口縁～胴	条の粗いLR	小礫、長石、石英を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
7	DS1132O-51 32O-61	前期後半	諸磯b	深鉢	口縁	条の粗いLR もしくは 縦状文	長石、石英、輝石を含む。	普通	7.5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR6/4にぶい赤褐色	6と同一個体の可能性あり
8	SKK29530P-26・27	前期後半	諸磯C	深鉢	口縁	口縁に連続切込み 地文燕条線による集合沈線	石英、長石、チャートを含む。	普通	7.5YR5/3にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい赤褐色	
9	31P-31	前期後半	諸磯C	深鉢	口縁	地文条線 口縁から口縁に結節状浮線文 内面に条痕状の平行沈線	石英、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR6/6褐色	
10	31P-31	前期後半	諸磯C	深鉢	胴	地文条線による集合沈線 ナメ・タテ	チャート、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR4/4褐色	
11	30P-65	中期初頭	五箇ヶ台Ⅰ	深鉢	胴	横状把手 平截文管によるタテ・ヨコ集合沈線	石英、雲母を多量に含む。	普通	7.5YR4/3にぶい赤褐色 2.5YR5/6明赤褐色	
12	DS1034N-36	中期初頭	五箇ヶ台Ⅰ	深鉢	口縁	隆帯上に 短 沈線横切文 縦状な押し文	石英、チャートを含む。	良好	5YR5/6明赤褐色 5YR6/6褐色	
13	34N-55	中期初頭	五箇ヶ台Ⅰ	深鉢	口縁	口縁に連続切込み 地文燕条子状の細沈線 縦状な押し文	石英、長石、チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/3にぶい赤褐色	
14	32O-12・14・21・52	中期初頭	五箇ヶ台Ⅱ	深鉢	口縁～胴	赤褐色 地文 短 平截文管による連続切込みを有する隆帯文	石英、雲母を多量に含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	
15	34N-51	中期初頭	五箇ヶ台Ⅱ	深鉢	口縁	口縁に連続切込み 短 横状の沈線文 三角印状文	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	
16	34N-51	中期初頭	五箇ヶ台Ⅱ	深鉢	口縁～胴	頸部に隆帯文 口縁に短沈線文と隆帯文	雲母、石英、長石、砂粒を多く含む。	普通	5YR4/6赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	
17	(SP518)33N-58	中期初頭	五箇ヶ台Ⅱ	深鉢	口縁	口縁に連続切込み 口縁に隆帯文と細沈線文 三角印状文	石英、長石、チャートを含む。	良好	5YR4/4にぶい赤褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	
18	33N-83・92	中期初頭	五箇ヶ台	深鉢	胴	地文LR 縦状な平截文管による平行沈線文	チャートを含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR4/4にぶい赤褐色	
19	31O-82	中期初頭	五箇ヶ台	浅鉢	口縁	3列の角押文	石英を多量に含む。	普通	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	
20	SK17034N-23	中期初頭	五箇ヶ台	浅鉢	口縁	結節隆帯に似る 隆帯に沿って複数列の角押文	チャートを含む。	良好	7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
21	55631O-79	中期初頭	五箇ヶ台	深鉢	底	垂下隆帯文に沿って結節沈線	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/6明赤褐色 5YR3/1黒褐色	
22	32N-100	中期前半	熊取Ⅰ(国沢)	深鉢	口縁	矩形の角押文が2列	石英、雲母、長石を含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	
23	32O-23	中期前半	熊取Ⅰ(国沢)	深鉢	口縁	2列の角押文	石英、砂粒を含む。	良好	7.5YR7/6褐色 7.5YR5/3にぶい褐色	
24	33N-48	中期前半	熊取Ⅰ(国沢)	深鉢	口縁	波状口縁に弧状の角押文が3列	石英を含む。	良好	7.5YR5/3にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい赤褐色	
25	31P-22・31	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	口縁	隆帯三角区画文内ベン先文(三角押文)と三叉文	チャート、赤色スコリアを含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/4にぶい赤褐色	
26	32O-14	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	口縁	細点のキャタピラ文とベン先文	石英、砂粒を多く含む。	普通	10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
27	31O-58	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	口縁	隆帯三角区画文内に細点と縦状な之様のベン先文	赤色砂子、砂粒を含む。	普通	5YR7/6褐色 5YR6/6褐色	
28	33N-67	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	口縁	口縁に曲線状小突起 隆帯区画文内に縦状なキャタピラ文	石英、チャートを含む。	良好	10YR5/4にぶい黄褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
29	31O-84	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	胴	隆帯三角区画文内に縦状なキャタピラ文とベン先文	雲母、石英を含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR6/6褐色	
30	32O-11	中期前半	熊取Ⅰ(新道)	深鉢	胴	縦状な多段のキャタピラ文に縦状のキャタピラ文	石英、砂粒を含む。	普通	5YR6/6褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	

第8表 縄文時代土器観察表(2)

区	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	施土	焼成	色調	備考
第52・58区	31	(SK66)4133N・57・58・33N・58	中前期	磨板1 (器底～新道)	深鉢	胴	器底にヒタ状圧痕 隆帯文の痕跡	石英、輝石を含む。	普通	7.5YR6/3 に近い・間 7.5YR7/3 に近い・間	阿玉台式の影響
	32	34N・3	中前期	磨板1 (器底～新道)	深鉢	胴	器底にヒタ状圧痕	赤色粘土、チャートを含む。	良好	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR4/2 灰褐色	阿玉台式の影響
	33	33N・85	中前期	磨板1 (器底～新道)	深鉢	胴	平截首管による彫刻区画内に刺突が通る	石英、長石、赤色スコリアを含む。	普通	5YR6/6 褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
第53・59区	34	34N・46	中前期	磨板2(器内)	深鉢	口縁	隆帯上に凹。隆帯に沿って波状沈線	チャートを含む。	良好	5YR6/6 褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
	35	320・20	中前期	磨板2(器内)	深鉢	口縁	隆帯三角区画内に斜め区画内に斜めなチャートビラ文と玉粒三叉文	チャート、石英を含む。	普通	2.5YR4/6 赤褐色 2.5YR4/4C に近い・赤褐色	
	36	34N・14	中前期	磨板2(器内)	深鉢	胴	斜めを持つ隆帯に細点のチャートビラ文とベン先文が横断に走る「ワラジムシ」	石英、長石、チャート、赤色粘土を含む。	良好	5YR4/4 に近い・赤褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
	37	34N・13・23	中前期	磨板2(器内)	深鉢	胴	隆帯横断区画内に細点のチャートビラ文	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
	38	30P・19	中前期	磨板2(器内)	深鉢	口縁	隆帯横断区画内に斜めと波状沈線	石英を含む。	良好	7.5YR5/4 に近い・間 7.5YR6/4 に近い・間	
	39	320・28	中前期	磨板2(器内)	深鉢	胴	斜めを持つ隆帯横断区画内にタテ・ヨコ沈線並列	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR5/6 明赤褐色	
	40	320・41	中前期	磨板2(器内)	深鉢	胴	交互刺突を備える隆帯並列文に沿って多量の斜行沈線	チャートを含む。	普通	7.5YR5/3 に近い・間 7.5YR6/4 に近い・間	
	41	320・22	中前期	磨板3 (片戸尻)	深鉢	口縁	多量窪タイプ 交互刺突を備える隆帯に沿って太沈線	雲母、石英を含む。	普通	7.5YR5/4 に近い・間 7.5YR4/2 灰褐色	
	42	33N・47・48	中前期	磨板3 (片戸尻)	深鉢	口縁	多量窪タイプ 玉粒三叉文を備える	雲母、石英を多量に含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR4/4 に近い・赤褐色	
	43	320・25	中前期	磨板3 (片戸尻)	深鉢	口縁	連続刺突を備える幾何列の斜行隆帯文 地文なし	石英を含む。	良好	5YR3/1 黒褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
	44	320・24	中前期	磨板3 (片戸尻)	深鉢	胴	口縁部を区画する彫刻の横断隆帯に間隔を附けた短沈線 彫刻に並列文R?	石英、長石を含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 7.5YR5/4 に近い・赤褐色	
	45	34N・28	中前期	磨板2～3	浅鉢	口縁	無文	チャート、石英を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐色 5YR6/6 褐色	内面に赤色の痕跡
	46	(S156)34N・45	中前期	磨板3 (片戸尻)	深鉢	口縁	彫刻状突起(欠損)から斜めを有する隆帯文が垂下	石英、雲母を含む。	良好	5YR7/6 褐色 7.5YR6/4 に近い・間	
	47	34N・14	中前期	磨板2～3	浅鉢	口縁	波状口縁 口唇部折り返し	石英、雲母を多量に含む。	普通	10YR5/3 に近い・黄褐色 10YR5/3 に近い・黄褐色	
	48	(S151)320・23・320・23	中前期	磨板2～3	浅鉢	口縁	横断区画文が横に走る	雲母、石英を含む。	良好	7.5YR6/4 に近い・間 7.5YR5/3 に近い・間	
	49	310・45	中前期	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁	波状口縁 波状の平行沈線	雲母、石英を多量に含む。	普通	7.5YR6/4 に近い・間 7.5YR5/4 に近い・間	
	50	320・6	中前期	阿玉台Ⅱ	深鉢	胴	隆帯曲線文に沿って2列の短沈線	雲母、石英、赤色スコリアを多量に含む。	普通	7.5YR6/6 褐色 7.5YR6/4 に近い・間	
	51	(SK594)320・10	中前期	阿玉台Ⅱ	深鉢	口縁	斜めを有する幾何隆帯文の彫刻に角押文	石英、小礫を含む。	良好	7.5YR5/2 灰褐色 7.5YR4/2 灰褐色	
	52	33N・75	中前期	阿玉台Ⅰb-II	深鉢	胴	器底にヒタ状圧痕	石英を含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR5/4 に近い・赤褐色	
	53	33N・47	中後期	加賀利E1	深鉢	口縁	地文彫文系R 断面三角状の隆帯並列文に沈線並列	石英を含む。	普通	5YR5/3 に近い・赤褐色 5YR5/2 灰褐色	
	54	320・24	中後期	加賀利E1	深鉢	口縁	地文彫文系R 隆帯S字文に沈線並列の痕跡	長石、石英を含む。	普通	5YR5/4 に近い・赤褐色 5YR5/3 に近い・赤褐色	
	55	32N・87	中後期	加賀利E2	深鉢	口縁	地文R。隆帯文	石英、赤色粘土、輝石を含む。	普通	7.5YR6/6 褐色 7.5YR5/3 に近い・間	
	56	30P・65	中後期	加賀利E2	深鉢	口縁	隆帯と沈線による波状文と横断区画文 区画内に沈線並列	長石、石英を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い・間 7.5YR5/2 灰褐色	
	57	310・68	中後期	加賀利E2	深鉢	口縁	地文R。隆帯と沈線による突起を有する波状文	石英、長石、輝石を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い・間 7.5YR5/3 に近い・間	

第8表 縄文時代土器観察表(3)

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の描文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第53・59図	58	33N-63・67	中期後半	加曽利E2	深鉢	口縁	隆部による口縁部文様帯区画 地文LR	チャートを含む。	普通	7.5YR6/4にぶい・橙 5YR6/6 橙	
	59	320-9	中期後半	加曽利E2	深鉢	口縁	溝文と横門区画文 区画内にRL	チャートを含む。	良好	5YR5/3にぶい・赤褐 5YR5/3にぶい・赤褐	
	60	30P-64	中期後半	加曽利E2	深鉢	口縁	沈部による溝文と横門区画文	砂粒を含む。	普通	5YR6/4にぶい・橙 5YR5/3にぶい・赤褐	
	61	320-1	中期後半	加曽利E2	深鉢	口縁	頸部にも文様帯区画の横位沈線が走る 口縁部無文	砂粒を含む。	普通	5YR6/4にぶい・橙 5YR5/4にぶい・赤褐	
	62	320-52	中期後半	加曽利E1	深鉢	胴	地文L 平截竹節による平隆起伏の平行沈線文	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい・橙 7.5YR5/2 灰褐	
	63	33N-56	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 3本沈線の懸垂文	砂粒、雲母を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい・橙 7.5YR6/4にぶい・橙	
	64	320-53	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文LR 3本沈線の溝文	砂粒、赤色粒子を含む。	良好	7.5YR6/4にぶい・橙 7.5YR6/4にぶい・橙	
	65	34N-28	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 横位・垂下する沈線と溝文の組み合わせ	砂粒を含む。	良好	5YR5/4にぶい・赤褐 5YR6/4にぶい・橙	
	66	310-79	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 3本沈線の孤線文と1本の垂下する蛇行文	チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい・赤褐 7.5YR6/4にぶい・橙	
	67	31P-7	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 3本沈線の懸垂文	石英、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR5/6 明赤褐	
第54・60図	68	310-86	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文LR 3本沈線の懸垂文と1本の垂下する蛇行沈線文を交互に配置	石英、チャート、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR5/4 灰褐	内面に炭化物付着
	69	310-55 320-62	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 2本もしくは3本沈線の懸垂文	砂粒を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR3/1 黒褐	
	70	5348/320-10	中期後半	加曽利E2	深鉢	胴	地文RL 2本もしくは3本沈線の懸垂文	石英、砂粒を含む。	良好	5YR5/4にぶい・赤褐 5YR5/3にぶい・赤褐	
	71	310-94	中期後半	加曽利E3	深鉢	口縁	小突起を有する波状口縁 波頭部に隆部溝文 口縁部に斜向する円孔文	チャート、石英を含む。	良好	7.5YR5/4にぶい・間 7.5YR7/6 橙	
	72	31P-5	中期後半	加曽利E3	深鉢	口縁	口縁部に沈部光輝の横門区画文 胴部に滑溝横文	石英、長石、小灰粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい・赤褐 5YR5/6 明赤褐	
	73	310-69	中期後半	加曽利E3	深鉢	口縁	口縁部文様付表文 地文LR	石英を含む。	普通	5YR5/3にぶい・赤褐 7.5YR6/4にぶい・橙	
	74	5334/310-78	中期後半	加曽利E3	深鉢	胴	2本本沈線による懸垂文 無垂文間に光輝横文	砂粒を含む。	普通	7.5YR5/1 間灰 7.5YR5/4にぶい・間	
	75	320-26	中期後半	加曽利E3	鉢	口縁	張り出す肩部に横位隆部貼付 口縁部無文 胴部地文RLに蛇行沈線文が垂下?	石英、赤色粒子、砂粒を含む。	普通	5YR4/4にぶい・赤褐 2.5YR4/4にぶい・間	
	76	310-53	中期後半	加曽利E2	深鉢	底	地文RL 2本単位の沈線懸垂文	小礫、砂粒、長石を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい・間 7.5YR5/3にぶい・間	底径推定 8.8cm 残存高 3.2cm
	77	31P-7・8	中期後半	加曽利E2	深鉢	底	地文RL 2本単位の沈線懸垂文	石英、砂粒を含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR5/4にぶい・赤褐	底径推定 11.8cm 残存高 5.7cm
第55・61図	78	310-67・68・69・77	中期後半	加曽利E3	深鉢	口縁	地文L 口縁部より2本沈線の孤線文と逆U字状の垂下沈線文が順に加層 沈線間を滑溝	石英、チャートを含む。	普通	5YR5/6 明赤褐 5YR4/4にぶい・赤褐	口径推定 23.5cm 残存高 22.1cm
	79	5DK458/300-80・90-310-71-72-73 31P-14	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口縁部に平行沈線が走り、直下より2本もしくは3本沈線の連弧文 地文無文	長石、輝石、赤色粒子、チャートを含む。	普通	7.5YR6/6 橙 7.5YR6/4にぶい・間	
	80	310-54	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口縁部断面肥厚 平行沈線が走る	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR5/4にぶい・間 7.5YR5/3にぶい・間	
	81a	31P-14	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	地文縦位の沈線 頸部4面の平行沈線間に円形刺突 口縁に連弧文、胴部に2本の波状沈線が走る	石英、砂粒を含む。	普通	5YR4/6 赤褐 5YR3/1 黒褐	頸部径推定 12.4cm 残存高 6.5cm
	81b	31P-15	中期後半	連弧文	深鉢	底	地文縦位の沈線	石英、砂粒を含む。	普通	5YR4/6 赤褐 5YR3/1 黒褐	底径 7.4cm 残存高 2.3cm 81aと同一個体
	82	310-68	中期後半	連弧文	深鉢	胴	地文やや間隔が広い全線 3本沈線の連弧文	細砂粒を多く含む。	良好	5YR5/4にぶい・赤褐 7.5YR6/4にぶい・間	

第8表 縄文時代土器観察表(4)

図 番 号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
83	310-81	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	口縁部に平行沈線が通る。直下より2本もしくは3本沈線の連弧文。地文変換	砂粒を含む。	良好	7.5YR5/4 に近い 7.5YR6/4 に近い	
84	310-73	中期後半	連弧文	深鉢	頸～胴	地文変換 頸部は4本の平行沈線で区画	石英、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR5/4 に近い 5YR5/4 に近い	
85	31P-11	中期後半	連弧文	深鉢	口縁	地文変換 2本沈線の連弧文	石英、砂粒を含む。	良好	7.5YR6/4 に近い 7.5YR6/3 に近い	
86	30P-57	中期後半	連弧文	深鉢	胴	地文変換 3本沈線の連弧文	長石、輝石、石英を含む。	普通	7.5YR6/6 程度 7.5YR6/4 に近い	
87	33N-70	中期後半	曽利Ⅰ	深鉢	口縁	口縁部の中空把手(いわゆる水煙状把手) 頂部は円筒状 航行隆帯等による立体的装飾	炭燐、石英を多量に含む。	良好	7.5YR5/3 に近い 5YR4/3 に近い	曽利Ⅲ式に準る可能性あり
88	300-90	中期後半	曽利Ⅰ	深鉢	頸～胴	頸部に2段の航行隆帯 胴部は平載竹管による縦位平行沈線の地文に同じく平載竹管による押引きを施した2本隆帯を貼付	石英、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 に近い 5YR4/3 に近い	
89	310-78	中期後半	曽利Ⅰ	深鉢	口縁～胴	口縁に平載竹管と縦隆帯による斜格文(いわゆる縄目文) 頸部に航行隆帯が通る	小礫を含む。	普通	10YR5/4 に近い 10YR6/4 に近い	
90	34N-5	中期後半	曽利Ⅱ	深鉢	口縁	隆帯と沈線地文による垂弧文	長石、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 に近い 7.5YR5/4 に近い	
91	31P-14	中期後半	曽利Ⅱ	深鉢	口縁	口縁部に沈線が通る 口縁は沈線による垂弧文、垂弧文間に重なる航行隆帯を貼付	長石、小礫を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い 5YR6/6 程度	
92	SKK132:30P-64・65 30P-56	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	口縁	複雑な単沈線地文による垂弧文	石英、長石、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い 5YR6/6 程度	
93	31P-15	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	頸～胴	口縁は複雑な単沈線地文による垂弧文 胴部は間隔が狭い縦位沈線	石英、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い 10YR6/4 に近い	92と同一個体か
94	30P-55・64・65	中期後半	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁～胴	口縁は単沈線による斜行文 頸部に航行隆帯が通る	石英、砂粒を含む。	普通	5YR6/6 程度 5YR5/3 に近い	口縁推定 18.2cm 胴部推定 12.0cm 残存高 8.6cm
95	310-87	中期後半	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	口縁	単沈線による斜行文	砂粒を含む。	良好	10YR7/4 に近い 10YR7/4 に近い	
96	31P-7	中期後半	曽利Ⅲ～Ⅳ	深鉢	口縁	波状口縁 隆帯装飾の頂部及び両脇に沈線渦巻文	石英、砂粒を含む。	良好	5YR4/4 に近い 5YR5/4 に近い	
97	31P-4	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	口縁	無文 口内面は断面三角形に肥厚	砂粒を含む。	普通	7.5YR7/6 程度 7.5YR6/4 に近い	
98	310-59	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	口縁	無文 口内面は断面やや三角形に肥厚	小礫、赤色粒子を含む。	普通	10YR6/4 に近い 10YR6/4 に近い	
99	320-30	中期後半	曽利Ⅲ～Ⅳ	深鉢	口縁	口縁頂部から口縁にかけて斜行文 口内面は断面三角形に肥厚	細砂粒、赤色粒子を含む。	普通	10YR5/2 に近い 10YR5/3 に近い	
100	310-53	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	口縁	口縁部ミガキ整形後に口縁部に条線を施す	石英、砂粒、赤色粒子を含む。	普通	10YR6/4 に近い 10YR6/4 に近い	
101	30P-43	中期後半	曽利Ⅲ	深鉢	口縁	口縁部ミガキ整形後に口縁部に条線を施す 口縁部下端に一条の縦隆帯	石英、長石、砂粒を含む。	普通	5YR4/4 に近い 5YR4/3 に近い	
102	310-65	中期後半	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	地文は平載竹管と棒状工具による沈線 胴部上端に平載竹管による押引きを施した隆帯貼付 胴部下平に曲線隆帯の痕跡	石英、長石、砂粒を多量に含む。	良好	5YR4/3 に近い 5YR4/4 に近い	
103	52203:31P-4 31P-32	中期後半	曽利Ⅲ～Ⅳ	深鉢	頸～胴	2本隆帯の渦巻文と1本隆帯の航行文の間に斜行短沈線を充填	砂粒、赤色粒子を含む。	普通	7.5YR7/6 程度 7.5YR4/2 程度	
104	31P-6・15	中期後半	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	地文変換 沈線と隆帯による渦巻文より2本隆帯が重なる	砂粒、赤色粒子を含む。	良好	7.5YR7/6 程度 7.5YR6/6 程度	
105	310-48	中期後半	曽利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	地文変換 1本沈線の隆帯文が複数重なる	石英、輝石、チャート、砂粒を含む。	良好	7.5YR7/6 程度 7.5YR6/6 程度	

第8表 縄文時代土器観察表(5)

図 番 号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施文工程・特徴	胎土	構成	色調	備考
第 56 ・ 62 図	106 SK1203/30-44 310-68・70 320-33	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	地文沈線	石炭、赤色粘土、 砂粒を含む。	普通	7.5YR7/6 橙 7.5YR5/2 灰黒	
	107 31P-23	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	深鉢	胴	地文条線 3本沈線の懸垂文 隆部貼付の面線	石炭、砂粒を含む。	普通	7.5YR5/4 に近い赤 7.5YR4/2 灰黒	内面炭化物付着 二次焼成顯著
	108 310-79	中期後半	曾利Ⅳ～Ⅴ	深鉢	胴	1本沈線の懸垂文の間に 斜行短沈線を充満	小礫、赤色粘土、 チャートを含む。	普通	5YR4/4 に近い赤 7.5YR5/4 に近い赤	
	109 310-95	中期後半	曾利Ⅳ～Ⅴ	深鉢	胴	2本沈線の懸垂文の間に 斜行短沈線を充満	砂粒を含む。	普通	7.5YR6/3 に近い赤 7.5YR6/2 灰黒	
	110 320-9	中期後半	曾利Ⅴ	深鉢	胴	太沈線による縦位区画内 にいわゆる雨垂れ文を充満	チャート、砂粒 を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR6/4 に近い赤	
	111 310-77・87	中期後半	曾利Ⅳ～Ⅴ	深鉢	胴	太沈線による縦位区画内 にいわゆる綾杉文を充満	石炭、小礫を含む。	普通	5YR5/3 に近い赤 5YR5/4 に近い赤	
	112 31P-15	中期後半	曾利	深鉢	底	地文沈線	長石、チャート を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR5/3 に近い赤	底径推定 7.2cm 残存高 3.7cm
	113 31P-5	中期後半	曾利	深鉢	胴	底面付近 地文沈線	長石、赤色粘土、 砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い赤 10YR4/1 灰黒	
	114 31P-6・7	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢 ～肩	口縁 ～肩	口内面に肥厚 隆部に 半環状に並ぶ 肩部に 隆部を施す 肩部に 地文条線文を施し隆部 と沈線による区画文	チャート、長石、 石炭を含む。	普通	5YR6/6 橙 5YR6/8 橙	曾利Ⅰ？ 二次焼成顯著
	115 30P-55・65	中期後半	曾利Ⅲ～Ⅳ	鉢	底	小形の円形刺突を充満	チャート、石炭、 砂粒を含む。	普通	5YR4/3 に近い赤 2.5YR4/6 赤黒	底径推定 7.0cm 残存高 2.2cm
	116 SK24/30P-38 (SK172)30P-28 30P-40・52・65	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢	肩	隆部による 地文沈線 隆部と沈線による溝文と 刺突文の組み合わせが 異なる	チャート、赤色 粘土、砂粒を含む。	普通	チャート、赤色 粘土、砂粒を含む。 10YR5/3 10YR6/4 10YR6/4 に近しい	
	117 SKK132/30P-64・ 65 30P-56	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢	肩	隆部による文様帯区画 地文沈線 斜めを施した 隆部溝文	チャート、砂粒 を含む。	普通	チャート、砂粒、 7.5YR6/4 に近い赤 7.5YR6/4 に近い赤	
	118 31P-14	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢 ～肩	口縁 ～肩	隆部と沈線による縦位 帯の溝文に横位区画文 の組み合わせ 横位区 画内に条線充満	砂粒を含む。	普通	10YR6/4 に近しい 10YR5/3 に近しい	
	119 30P-65 31P-14	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢	肩	隆部による分帯 区画内 に短沈線充満	チャート、赤色 粘土、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 に近い赤 7.5YR6/4 に近い赤	
	120 30P-25	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢	肩	隆部横位区画文が横に 展開 隆部上に刺突 区 画内に短沈線充満	砂粒、長石を含む。	普通	10YR6/4 に近しい 10YR5/3 に近しい	
	121 31P-14	中期後半	曾利Ⅱ～Ⅲ	浅鉢	口縁	口内面肥厚 無文	長石、チャート、 砂粒を含む。	普通	10YR6/3 に近しい 10YR5/3 に近しい	
	122 SK134/31P- 1・2	後期約前	赤名寺Ⅰ	深鉢	胴	沈線描出の「J」字文に横文 L充満	石炭、砂粒を含む。	普通	5YR5/4 に近い赤 7.5YR5/4 に近い赤	
	123 34M-96	後期約前	赤名寺Ⅰ	深鉢	胴	沈線描出の横状文に横文 L充満	チャート、砂粒 を含む。	普通	5YR6/6 橙 7.5YR5/1 灰黒	
	124 32N-88	後期前半	堀之内Ⅰ	深鉢	口縁	口内は有段、直下に横位 沈線が1条並ぶ 胴部に沈線文 いわゆる 下北原タイプの沈線系土 器	チャート、石炭、 砂粒を含む。	普通	5YR7/6 橙 7.5YR7/4 に近い赤	下北原タイプ
	125 33N-77・78	後期前半	堀之内Ⅰ	鉢	胴	2本単位で横位・斜位沈 線文	チャート、砂粒 を含む。	普通	7.5YR3/1 黒 7.5YR6/4 に近い赤	
	126 SK76/31P-23	後期前半	堀之内Ⅰ	深鉢	胴	2本単位で縦横状沈線文 が重なる	チャート、砂粒 を含む。	普通	5YR5/4 に近い赤 7.5YR6/4 に近い赤	
	127 310-73	後期前半	堀之内Ⅰ	深鉢	胴	2本沈線の懸垂文 下北 原タイプの沈線系土器 沈線による簡略化した重 三角文と溝文 部分的 に横文L充満	砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い赤 7.5YR5/4 に近い赤	下北原タイプ
	128 SKK177/30P- 28・29	後期前半	堀之内Ⅱ	鉢	胴	石炭、砂粒を含む。	石炭、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4 に近い赤 7.5YR5/3 に近い赤	
第 57 ・ 63 図	129 33N-57・67	中～後期	不明	深鉢	胴～底	無文	石炭、チャート、 赤色粘土を含む。	普通	7.5YR6/6 橙 5YR6/6 橙	後期前半？
	130 31P-15	中～後期	不明	浅鉢	胴	無文	石炭、砂粒を含む。	普通	7.5YR4/2 灰黒 7.5YR2/1 黒	

第8表 縄文時代土器観察表(6)・土製品観察表

図	番号	出土地点・層位	時期	型式	器種	部位	文様の施工程・特徴	胎土	焼成	色調	備考
第57・63図	131	30P 20・29・30	中～後期	不明	深鉢	胴	無文	石高、チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	
	132	31P-14	中～後期	不明	浅鉢	胴	無文	石高、チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	
	133	30P-20	中～後期	不明	浅鉢	胴・底	無文	石高、長石を含む。	普通	7.5YR6/6褐色 7.5YR6/6褐色	底径推定10.6cm 残存高4.2cm
	134	320-11・12	中～後期	不明	深鉢	底	無文	石高、小礫、黒石を含む。	普通	5YR5/6明赤褐色 5YR5/6明赤褐色	底径9.8cm 残存高4.0cm
	135	30P-27	中～後期	不明	深鉢	底	縦位沈線	チャート、石高を含む。	普通	5YR6/6褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	底径6.8cm 残存高5.8cm 中腹後半?
	136	320-61	中～後期	不明	浅鉢	底		砂粒、長石、石高、赤色粘土を含む。	良好	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR4/3にぶい赤褐色	底径9.5cm 残存高3.7cm
	137	31P-22	中～後期	不明	深鉢	底		チャート、砂粒を含む。	普通	5YR5/4にぶい赤褐色 5YR5/6明赤褐色	底径推定6.6cm 残存高3.2cm
第57・63図	1	34N-8	中期	甕版1	土製 円盤		甕版1式(角押文)の胴部破片を使用 周縁打ち欠き。一部研磨加工。平面多角形	チャート、砂粒を含む。	普通	7.5YR5/4にぶい褐色 7.5YR6/4にぶい褐色	長さ4.0×幅4.3 ×厚さ1.4cm
	2	34N-46	中期	甕版2	土製 円盤		甕版2式(キタピラ文)の胴部破片を使用 周縁打ち欠きのみ 平面圓丸方形	石高、小礫を含む。	普通	5YR6/6褐色 7.5YR7/4にぶい褐色	長さ4.7×幅4.6 ×厚さ1.4cm
	3	32N-100	中期	加曽利E2	土製 円盤		加曽利E2式と思われる胴部破片使用 周縁ほぼ全周研磨加工 平面圓丸方形	石高、チャートを含む。	普通	5YR6/6褐色 10YR7/4にぶい黄褐色	長さ4.1×幅3.8 ×厚さ1.1cm
	4	32N-99	中期	加曽利E2	土製 円盤		加曽利E2式と思われる胴部破片使用 周縁打ち欠きのみ 平面多角形	石高、長石、砂粒を含む。	普通	5YR5/6明赤褐色 7.5YR5/4にぶい褐色	長さ5.2×幅5.2 ×厚さ1.1cm
	5	S56-310-79	中期	加曽利E2	土製 円盤		加曽利E2式(左上にRの付加染織文)の胴部破片を使用 周縁ほぼ全周研磨加工 平面圓丸長方形	長石、石高、赤色粘土を含む。	普通	7.5YR6/4にぶい赤褐色 7.5YR6/4にぶい赤褐色	長さ3.6×幅4.6 ×厚さ1.4cm
	6	S519310-92	中期	土偶	胴		平面がやや湾曲する形状 表面に2本沈線	石高、チャート、長石を含む。	普通	7.5YR5/6明褐色	長さ3.2×幅2.2 ×厚さ1.3cm
	7	30P-28	中期	ミニ チュア 土器	底		2本沈線によるクラック状の文様	チャート、石高、砂粒を含む。	良好	10YR6/4にぶい黄褐色 10YR5/2灰黄褐色	残存高2.1×幅4.6 ×厚さ0.9cm
	8	30P-28	中期	土鈴			2本沈線	砂粒を含む。	普通	5YR4/4にぶい赤褐色 5YR4/6赤褐色	長さ4.1×幅1.8 ×厚さ0.6cm
	9	30P-36	中期	土鈴			無文	石高、小礫、砂粒を含む。	普通	2.5YR4/6赤褐色	長さ2.4×幅2.4 ×厚さ0.6cm

※出土位置圖の〔 〕内は縄文時代以降の遺構を示す。

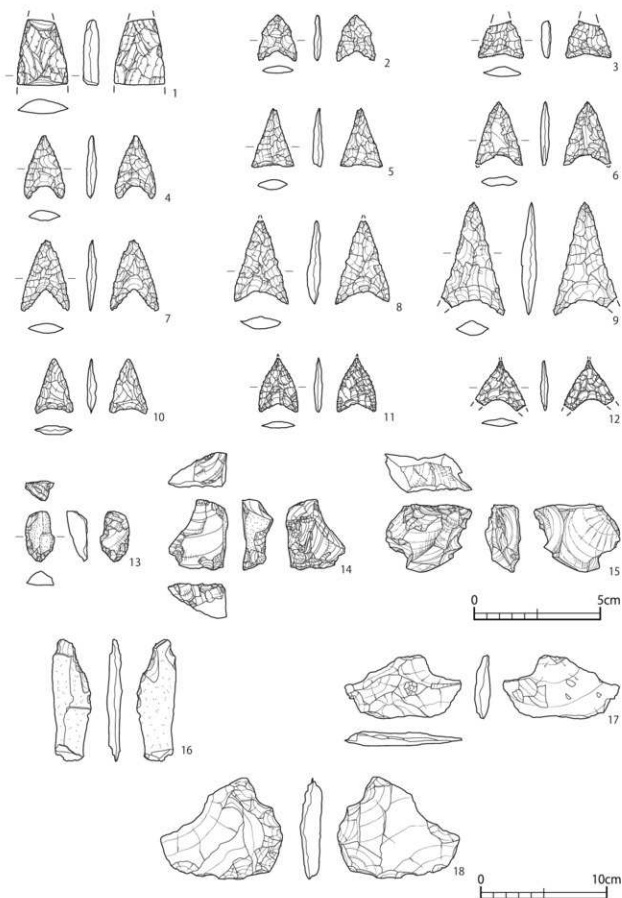
C 石器(第64～77図、第9表)

今回の調査で出土した縄文石器は、土器と同様にほぼ全域に分布しており、偏在する傾向は窺えない。器種としては打製石斧が大半であり、欠損品も多く出土している。また石器製作時に生じた剥片も多く出土しているが製品と同様に偏在する傾向は窺えず、いずれも廃棄によるものと推察する。以上の所見より、石器に関しても土器と同様に集落本体で直接廃棄された状況とは異なる二次廃棄的な様相を示しているものと思われ、当該区が集落本体の隣接もしくは近接箇所に相当する可能性を支持するものとする。石器の帰属時期については、土器のそれから判断すると一部を除き、早期前半から後期前半までと思われ、特に打製石斧や磨石、敲石は概ね中期に帰属するものであろう。

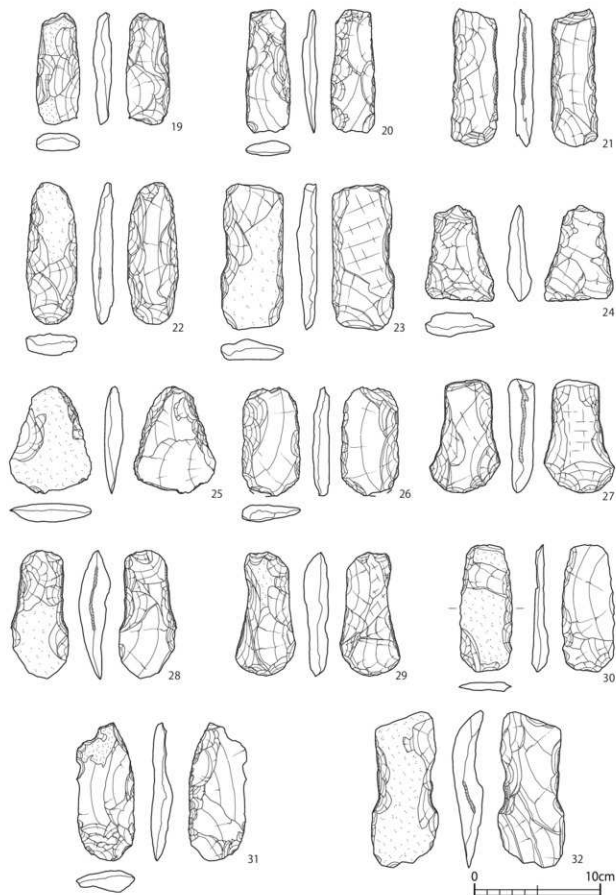
以下、機種別に掲載可能な資料を提示し、特筆すべき資料を中心に解説を行う。なお、本文では記載しない各資料の石材、法量に関しては、観察表(第9表)を参照されたい。

尖頭器

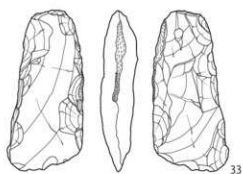
1は草創期以前の尖頭器もしくは有舌尖頭器と判断する。先端と胴下半部は欠損する。両欠損部は長軸に対して直交、水平に破断している状態である。欠損部の断面を観察すると、使用(投射)によ



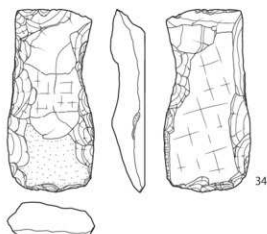
第 64 図 縄文時代石器 (1)(2/3・1/3)



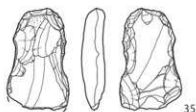
第 65 図 縄文時代石器 (2)(1/3)



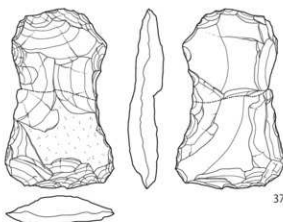
33



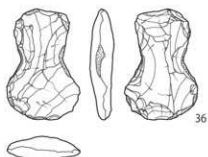
34



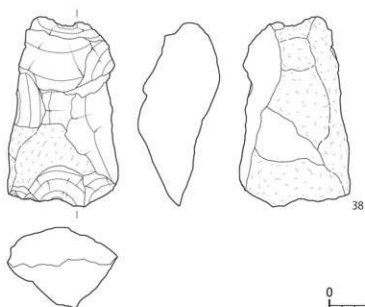
35



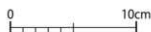
37



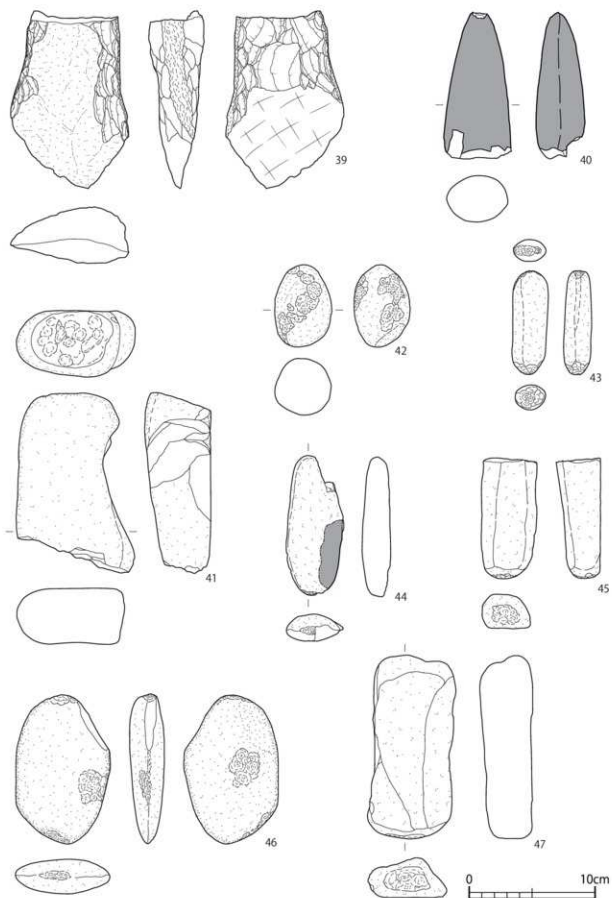
36



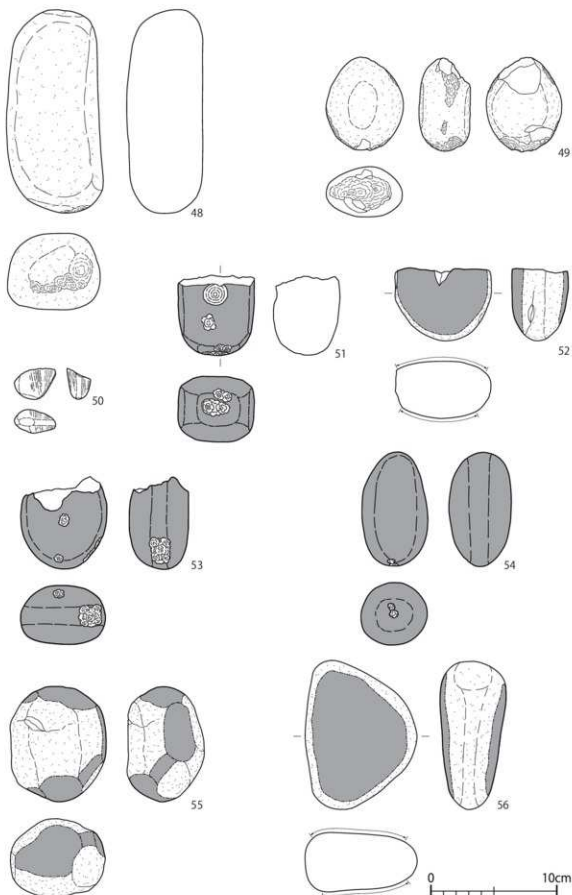
38



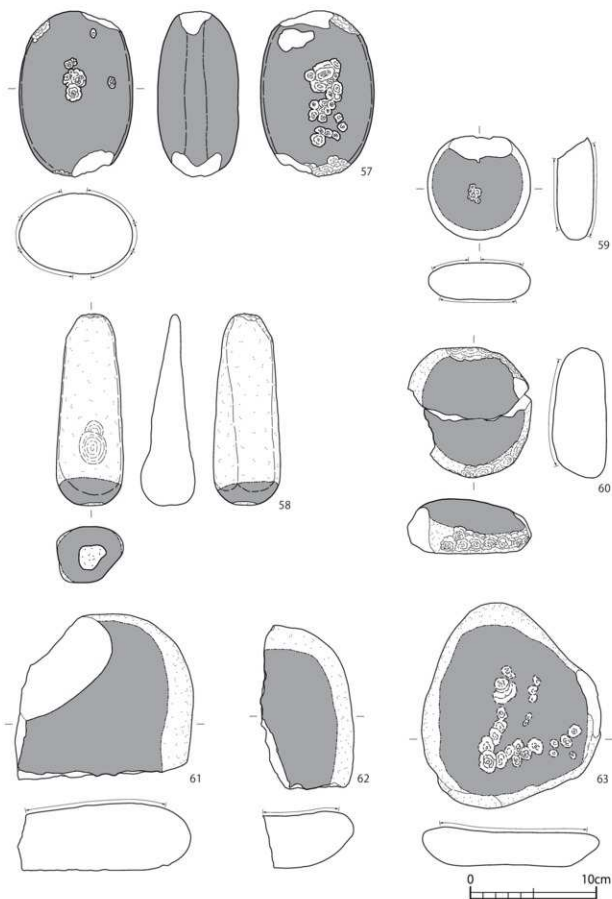
第 66 図 縄文時代石器 (3)(1/3)



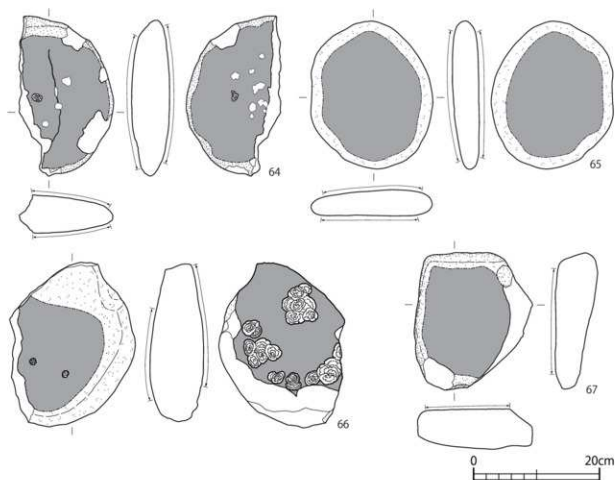
第 67 図 縄文時代石器 (4)(1/3)



第 68 図 縄文時代石器 (5)(1/3)



第69図 縄文時代石器 (6)(1/3)



第70図 縄文時代石器 (7)(1/6)

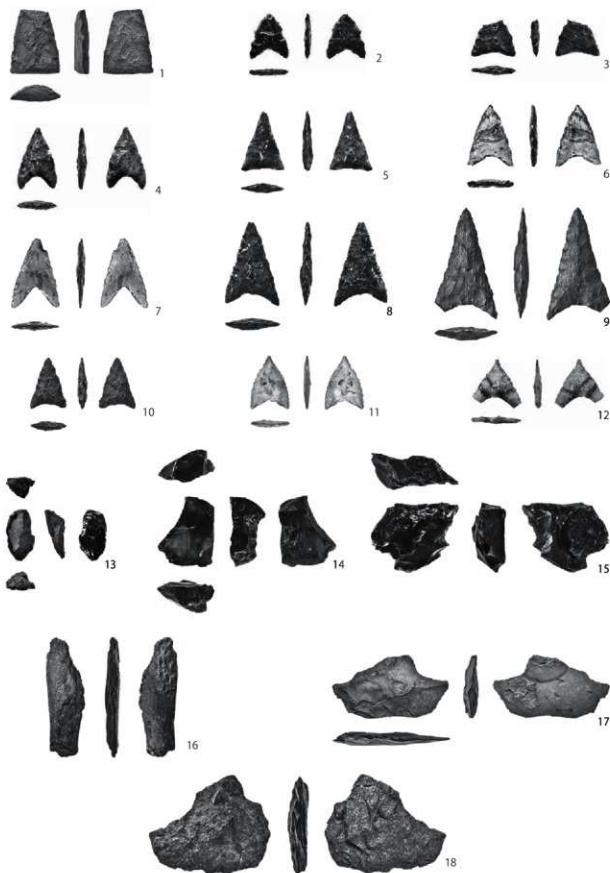
て生じるものと判断される「衝撃剥離」による折れ（御堂島 1991・2005）、「横断的剥離痕」（岩瀬他 2022）が確認できた。ただし、上記の剥離及び剥離痕は先端と胴部いずれにも認めることから、どのような使用プロセスを経て遺物に至ったのかは判然としない。

石鏃

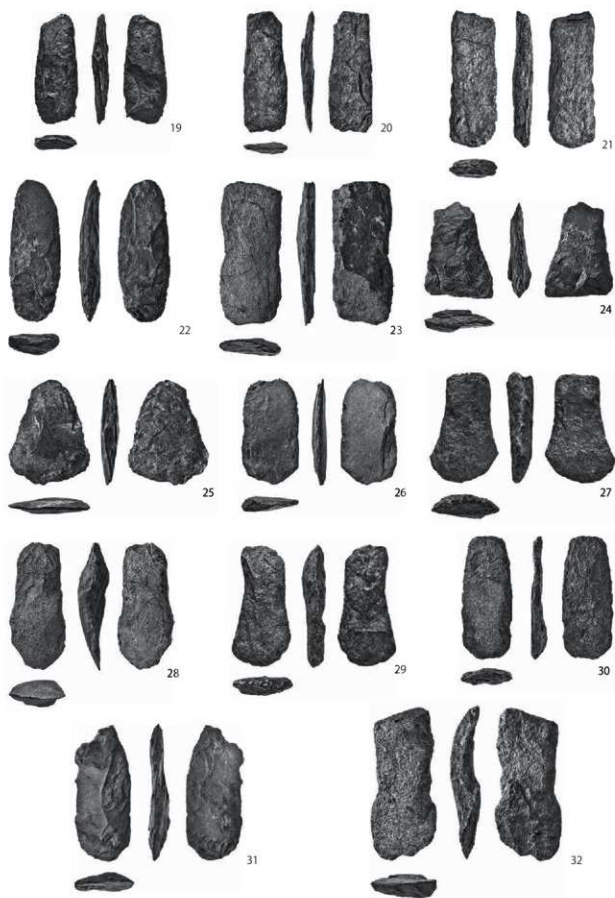
2～12は石鏃である。いずれも無茎である。そのサイズは2・10～12の小形から8・9の様に大形のものまで様々である。大半が中期に帰属するものと思われるが、12のように短い長軸に対して横幅が広く比較的基部の挟りが深い「長脚鏃」は、早期に特徴的な形態である。石材は黒曜石・チャートが大半であるが、ガラス質黒色安山岩や玉髄（めのう）の稀少な石材も使用している。各資料を観察すると、4の先端部には使用（弓射）によって生じたとされる「衝撃剥離」の一種である「縦溝状剥離」（御堂島 1991・2005）を確認できる。6の先端部も「縦溝状剥離」に類似しており、使用で生じた剥離の可能性があろう。

石錐

13は石錐に分類できよう。今回の調査で石錐と認定できた資料は、この1点のみである。形態的には定型的なタイプではなく、表面に自然面を残した黒曜石の横長剥片を用いて両面から側縁調整で先端部の加工を施している。ただし、先端部は鋭利でなく、使用による摩耗痕も認められないことから、先端部を成形途中で廃棄した未製品の可能性が高い。



第71図 縄文時代石器写真(1)



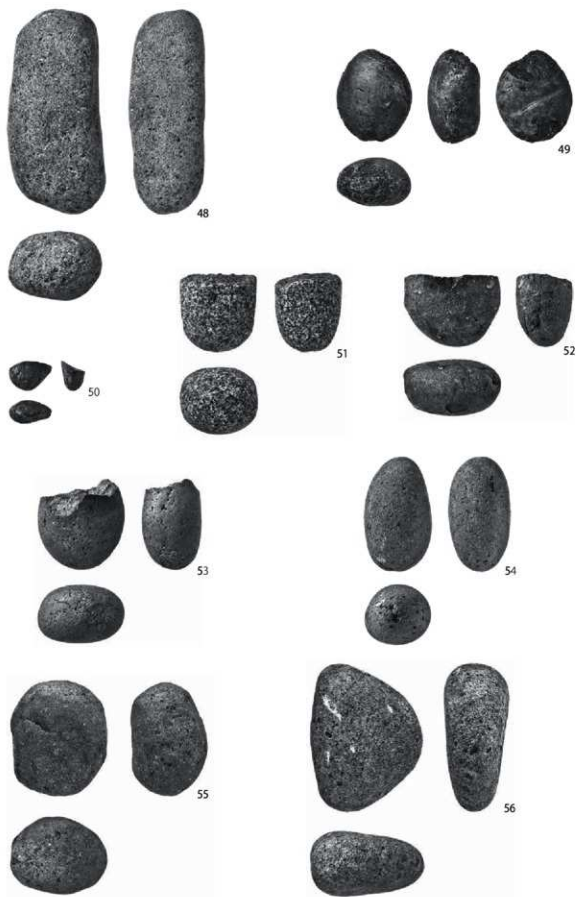
第 72 図 縄文時代石器写真 (2)



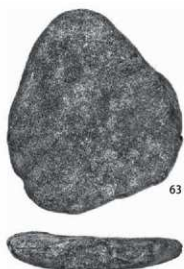
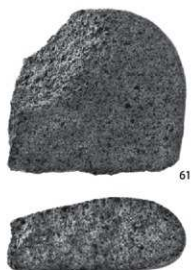
第 73 図 縄文時代石器写真 (3)



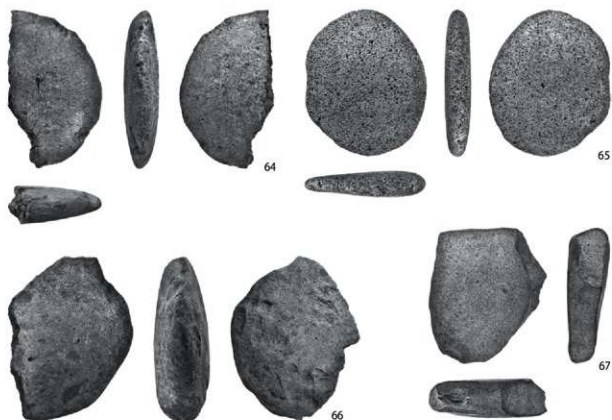
第 74 図 縄文時代石器写真 (4)



第 75 図 縄文時代石器写真 (5)



第 76 図 縄文時代石器写真 (6)



第77図 縄文時代石器写真(7)

石核

14・15の2点を掲載した。いずれも黒曜石の残核であり、打面を転移させて打点の角度を変えながら剥片を作出した残核である。残存形状から石鏃等の小形石器用の剥片を作出したものであろう。

石匙

16～18は、いずれも中期に特徴的な粗製石匙に相当しよう。16は縦長の石匙である。細長い粘板岩の礫を用いて基部の調整加工を施しているが刃部調整が認められないことから、未製品と判断する。17・18はホルンフェルスの剥片を用いた横長石匙に分類されよう。いずれも横長剥片を用いているが基部調整及び横刃の刃部調整加工が不十分であり、未製品の可能性もあろう。

打製石斧

19～37は打製石斧である。完形もしくは完形に近い資料のみ掲載した。今回出土した土器の帰属時期を踏まえると、前期後半から中期に該当するものが大半であろう。製作に用いた素材は、残存する主要剥離面の観察から、横長剥片を用いたものが多く縦長剥片を用いたものは少ない。礫素材を用いたと思われる打製石斧は35の1点のみである。使用石材はホルンフェルスが圧倒的である。平面形態で分類すれば、19～23は短冊形、24～29・32～34は楕形、35～37は分銅形に分類できよう。35・36は小形のものであり、後期に帰属する可能性も否定できない。30・31は短冊形と楕形の中間形態の様相である。いずれも胴部に側縁調整加工を施しているが、中には21・27・28・32～34・36の様に柄の装着用と想定する敲打を両側縁に加えた資料を認める。

礫器

38は矩形に近く厚みを有する形状の砂岩の大形礫を用いており、長軸の一端に片刃の刃部を作出したものである。今回の調査で礫器に特定できた資料は、この1点のみであった。本資料はその形状と今回の出土土器より、早期後半の条痕文土器に伴う可能性がある。

磨製石斧

39・40は磨製石斧である。40は中粒緑色凝灰岩製で、その形状から中期に多い「乳棒状石斧」に分類できよう。刃部を欠損しているが基部から胴部にかけて丹念な敲打整形を施した後に丁寧な磨き加工を施している。39は厚みのある緑色凝灰角礫岩の大形礫素材を用いており、成形のため両側縁からの打撃調整加工の後に丹念に敲打を加えたものである。素材の形状と加工状況から判断すると、磨製石斧の未製品に相当するものと思われ、成形・整形調整加工から敲打、磨き加工の製作過程における成形・調整加工から敲打の段階で廃棄されたものと推察する。

敲石・磨石

使用及び加工痕跡より敲打痕があるものを敲石、摩耗痕があるものを磨石に分類しているが、摩耗痕・敲打痕の両方の加工痕があるものについては、主たる痕跡を持っていずれかに分類した。

41～48は敲石である。素材は平面形状が棒状、板状、亜円状等のバリエーションに富む砂岩礫を主に使用する。礫の端部及び側縁に敲打痕を認め、43・46の様に両端を使用するものは少なく、大半は一端にのみ敲打痕を認めるものである。また、46・49の様に側縁に敲打痕が確認できる資料もあり、特に46は片面の中央部分にも敲打痕がある。

42は石英の卵形の礫（転石）を用いており、片手で握りやすい形状と大きさ、適度な重量の敲石である。位置を変えながら敲打を繰り返しており、硬質の石材とその形状及び敲打痕から判断すれば、石器製作用のハンマーと考える。49も手に持ちやすく、適度な重量である良質なチャートの円礫（転石）を用いており、一端と一側縁に頻繁に敲打を繰り返した痕跡を認める。素材と敲打痕の状況を鑑みれば、やはり石器製作用のハンマーである可能性が高いものと判断する。

50は小形のチャートに対象物への研磨で生じた擦痕が確認でき、土器製作用の「研磨礫」であろう。

51～60は磨石である。素材は棒状、板状、亜円状等の平面形態が多様な礫を使用する。石材は砂岩と閃緑岩が主体を占める。摩耗痕は51・53・54・57の様に全面に認めるもの、58の様に端部に認めるもの、56・59・60の様に両面に認めるもの、55の様に両端と一側縁に認めるもの等、敲石同様に多岐にわたる。また51・53・57～60は、磨面に加えて端部もしくは中央部に敲打痕もしくは「凹痕」が確認できる。51の様に厚みのある長方形を呈し敲打痕、凹痕を有するタイプ、53・57・59・60の様に楕円もしくは円礫に敲打痕を有するタイプは、中期に特徴的なものである。

石皿

61～67は石皿に分類されよう。大形の円礫、亜円礫、隅丸方形形状の礫を使用している。石材は閃緑岩、砂岩、片状砂岩、安山岩、変質安山岩と多種である。残存状況から、サイズとしては61～63の小形と64～67の大形に2分される。使用面（磨面）からは61～63・67の片面のタイプと64～66の両面のタイプに分かれる。また頻度の差はあるものの磨面に加えて63は片面に、64・66は両面に敲打痕が確認できる。敲打痕を有する石皿は対象物を磨るだけでなく、敲くための台石としての機能も有していたものと考え。特に、66は片面の敲打痕が顕著である。（山本孝司）

第9表 縄文時代石器観察表

図	番号	出土位置	層位	種別	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考
第64・71区	1	320-3	(S140 覆土)	尖頭鏃	ガラス質黒色火山岩	2.5	2.0	0.6	3.5	先端と側部に著明な磨痕あり
	2	30P-28	Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.8	1.6	0.3	0.6	
	3	320-33	Ⅱ層	石鏃	チャート	1.5	1.8	0.4	0.9	先端欠損
	4	30P-56	Ⅱ層	石鏃	チャート	2.5	1.6	0.4	1.1	
	5	30P-13	Ⅱ層	石鏃	チャート	2.3	1.7	0.4	1.0	
	6	300-79・89	(S0K294 覆土)	石鏃	黒曜石	2.5	1.9	0.4	1.2	
	7	320-3	SS13 覆土	石鏃	黒曜石	2.8	1.9	0.4	1.1	
	8	310-96	Ⅱ層	石鏃	チャート	3.3	2.1	0.5	2.3	
	9	320-3	SS13 覆土	石鏃	ガラス質黒色火山岩	4.5	2.6	0.6	4.0	欠損
	10	310-86	(S121 覆土)	石鏃	チャート	2.1	1.4	0.4	0.9	
	11	320-23	(S151 覆土)	石鏃	玉髄 (めのう)	2.1	1.5	0.3	0.7	
	12	30P-32	Ⅱ層	石鏃	チャート	2.0	2.0	0.3	0.6	欠損
	13	310-68	(S0K334 覆土)	石鏃	黒曜石	2.0	1.1	0.8	1.4	未製品
	14	30P-19	(S0K169 覆土)	石鏃	黒曜石	2.7	3.4	1.4	6.3	
	15	30P-28	(S0K90 覆土)	石鏃	黒曜石	2.7	2.2	1.4	9.9	
	16	310-28	(SK105 覆土)	石鏃	粘板岩	9.5	2.9	1.1	38.1	未製品
第65・72区	17	310-48	Ⅱ層	石鏃	ホルンフェルス	9.2	5.0	1.2	43.2	未製品
	18	34N-3	Ⅱ層	石鏃	ホルンフェルス	8.0	9.7	1.6	83.0	未製品?
	19	31P-8	Ⅱ層	打製石片	粘板岩	8.8	3.4	1.3	45.6	知照形
	20	320-18	(SK115 覆土)	打製石片	ホルンフェルス	9.8	3.6	1.2	40.4	知照形
	21	310-88	Ⅱ層	打製石片	片状砂岩	12.6	3.7	1.5	90.8	知照形
	22	310-19	(S0K169 覆土)	打製石片	ホルンフェルス	11.2	4.0	1.7	92.2	知照形
	23	30P-21	Ⅱ層	打製石片	片状砂岩	11.2	5.9	1.6	120.8	知照形
	24	320-28	Ⅱ層	打製石片	ホルンフェルス	7.7	5.5	2.0	70.0	磨形
	25	310-40	Ⅱ層	打製石片	珪質粘板岩	8.5	6.5	1.5	73.1	磨形
	26	310-82	Ⅱ層	打製石片	細粒緑色凝灰岩	8.6	4.6	1.3	65.7	磨形
	27	31P-14・15	(S0K222 覆土)	打製石片	砂岩	8.9	5.6	2.1	120.9	磨形
	28	31P-13	一括	打製石片	ホルンフェルス	10.1	4.5	2.3	102.4	磨形
	29	30P-55	Ⅱ層	打製石片	砂岩	9.1	4.6	1.9	84.3	磨形
	30	310-58	Ⅱ層	打製石片	片状砂岩	10.0	4.2	1.8	53.4	知照形? 磨形?
	31	320-34	Ⅱ層	打製石片	砂質ホルンフェルス	10.9	4.6	1.7	72.0	知照形? 磨形?
第66・73区	32	30P-54	Ⅱ層	打製石片	片状砂岩	11.6	5.3	2.2	158.5	磨形 対部欠損
	33	320-11	Ⅱ層	打製石片	ホルンフェルス	12.3	58.5	2.8	240.0	磨形
	34	31P-23	Ⅱ層	打製石片	砂岩	14.5	6.9	2.7	318.0	磨形
	35	30P-27	Ⅱ層	打製石片	ホルンフェルス	8.1	5.0	1.9	92.1	分割形
	36	32N-98	一括	打製石片	ホルンフェルス	8.8	5.9	1.9	93.8	分割形
	37	310-46 310-79	Ⅱ層 SS6 覆土	打製石片	ホルンフェルス	14.2	8.6	2.3	335.8	分割形、折れ
	38	30P-31	Ⅱ層	磨石	砂岩	15.1	8.7	6.0	829.0	
	39	30P-43	Ⅱ層	磨製石片	緑色凝灰角礫岩	14.1	9.4	4.5	629.0	未製品
	40	310-66	(SF3 覆土)	磨製石片	中粒緑色凝灰岩	12.6	5.4	4.0	311.5	乳棒状石片
	41	320-11	(SS8 覆土)	磨石	砂岩	14.3	9.4	4.4	950.0	
	42	310-88	Ⅱ層	磨石	石英	6.5	4.5	4.5	177.7	石磨製作用ハンマー
	43	320-34	Ⅱ層	磨石	変質火山岩	8.2	2.8	2.2	78.0	
	44	320-3	(SS9 覆土)	磨石	粘板岩	11.0	4.5	2.2	138.3	一部に磨痕
	45	310-57	Ⅱ層	磨石	砂岩	9.5	4.5	2.7	237.3	
	46	310-69	Ⅱ層	磨石	片状砂岩	11.8	7.5	2.7	301.5	
	47	30P-64	Ⅱ層	磨石	砂岩	14.6	6.0	4.2	661.0	下端部に敲打痕 裏面に磨痕あり
第68・75区	48	320-26	Ⅱ層	磨石	砂岩	16.2	7.7	6.0	1226.0	
	49	320-37	Ⅱ層	磨石	チャート	7.4	6.1	4.0	248.5	石磨製作用ハンマー?
	50	310-45	Ⅱ層	磨石	チャート	2.4	3.4	1.9	15.1	土器製作用の「網杵」
	51	310-98	Ⅱ層	磨石	閃緑岩	6.4	6.1	5.4	339.0	
	52	310-68	Ⅱ層	磨石	砂岩	5.8	7.7	4.5	280.7	
	53	310-50	Ⅱ層	磨石	変質火山岩	7.3	6.9	4.7	305.0	
	54	320-18	Ⅱ層	磨石	砂岩	9.1	5.3	5.0	325.5	
	55	310-92	Ⅱ層	磨石	変質玄武岩	9.1	7.7	6.2	667.0	
	56	31P-21	Ⅱ層	磨石	閃緑岩	11.7	8.9	5.2	736.5	
	57	320-11	(SS8 覆土)	磨石	閃緑岩	13.1	9.0	6.4	1102.0	
	58	320-14	Ⅱ層	磨石	砂岩	15.2	5.3	4.4	394.5	
	59	310-37	(SF3 覆土)	磨石	閃緑岩	8.2	8.2	2.9	306.0	
	60	310-20 310-30	Ⅱ層	磨石	砂岩	10.3	9.8	4.4	561.0	敲打痕有り
	61	330-11	Ⅱ層	石鏃	片状砂岩	13.2	14.2	6.0	1575.0	
	62	320-10	(S148 覆土)	石鏃	変質火山岩	13.0	7.5	5.2	640.5	
	63	34M-96	(SZ3 覆土)	石鏃	片状砂岩	16.3	14.3	3.3	993.0	
第70・77区	64	320-11	Ⅱ層	石鏃	閃緑岩	25.1	14.9	6.0	2829.0	
	65	32N-79	Ⅱ層	石鏃	火山岩	23.3	19.2	4.1	2658.0	
	66	32N-94	SS13 覆土	石鏃	砂岩	26.1	19.8	9.3	6467.0	
	67	310-50	Ⅱ層	石鏃	砂岩	21.6	18.7	6.8	3656.0	

※出土層位欄の () は縄文時代以降の遺構を示す。